

国 語

1 原典教科書と分冊の方針

(1) 原典教科書

発行者：光村図書出版株式会社
書 名：国語 1～3

(2) 分冊と原典教科書との対応

各学年の分冊ページは、以下のとおりである。（ページは原典ページ）

学年	分冊	原点教科書の対応箇所等
第1学年	1-1 最初～66ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のリレー・学習の見通しをもとう・思考の地図 ・この教科書で学習するみなさんへ 【言葉に出会うために】・野原はうたう ・声を届ける／書き留める／言葉を調べる・続けてみよう 【1学びをひらく】・シンジュン・情報を的確に聞き取る ・季節のしおり 春・情報整理のレッスン 比較、分類 ・情報を整理して書こう・漢字の組み立てと部首・漢字に親しもう 1 【2新しい視点で】・ダイコンは大きな根？・ちょっと立ち止まって ・思考のレッスン1 意見と根拠・話の構成を工夫しよう ・漢字に親しもう 2・言葉のまとまりを考えよう 【情報社会を生きる】・情報を集めよう・情報を読み取ろう ・情報を引用しよう
	1-2 67～124ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【3言葉に立ち止まる】・詩の世界・比喩で広がる言葉の世界 ・指示する語句と接続する語句・言葉を集めよう 【読書生活を豊かに】・読書を楽しむ・本の中の中学生(あと少し、もう少し／西の魔女が死んだ／ブラインドの向こうに見える光) ・本の世界を広げよう・本との出会い・季節のしおり 夏 【4心の動き】・大人になれなかった弟たちに・星の花が降るころに ・聞き上手になろう・項目を立てて書こう ・[推敲]読み手の立場に立つ・方言と共通語・漢字の音訓
	1-3 237～262ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【文法・漢字・振り返り】・言葉の単位・文の組み立て・単語の分類 ・[練習]小学校6年生で学習した漢字 ・小学校6年生で学習した漢字一覧・学習を振り返ろう
	1-4 263～334ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【学習を広げる】・文学的な文章を読むために ・説明的な文章を読むために・情報と情報との関係 ・豊かに表現するために・情報整理の方法 ・発想を広げる一表現テーマ例集・アンケート調査の方法 ・文章の推敲、原稿用紙の使い方・手紙の書き方・坊っちゃん ・幻の魚は生きていた・読書感想文の書き方・百人一首を味わう ・言葉としぐさの伝統芸能一古典落語・書体の特徴・敬語を使う ・語彙を豊かに一心情、様子、行為を表す言葉 ・1年生で学習した漢字・1年生で学習した音訓・常用漢字表 ・実用漢字表付表・学習のための用語一覧
	1-5 125～174ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【5筋道を立てて】・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ ・思考のレッスン2 原因と結果・根拠を示して説明しよう ・話し合いの展開を捉える・漢字に親しもう 3 ・話題や展開を捉えて話し合おう・大阿蘇・季節のしおり 秋 【6いにしえの心にふれる】・いろは歌・古典の世界 ・蓬萊の玉の枝・今に生きる言葉
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> 【7価値を見いだす】・「不便」の価値を見つめ直す

	175～236 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・助言を自分の文章に生かそう・漢字に親しもう 4 ・言葉の関係を考えよう 【読書に親しむ】・考える人になろう・君たちはどう生きるか ・たのしい制約・本の世界を広げよう・季節のしおり 冬 【8自分を見つめる】・少年の日の思い出・漢字に親しもう 5 ・単語の性質を見つけよう・随筆二編・構成や描写を工夫して書こう ・さまざまな表現技法・漢字の成り立ち・漢字に親しもう 6 ・一年間の学びを振り返ろう・さくらの はなびら
第2学年	2-1 最初～66 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・見えないだけ・学習の見通しをもとう・思考の地図 ・この教科書で学習する皆さんへ・続けてみよう 【1広がる学びへ】・アイズプラネット・問いを立てながら聞く ・季節のしおり 春・枕草子・情報整理のレッスン 思考の視覚化 ・多様な方法で情報を集めよう・熟語の構成・漢字に親しもう 1 【2多様な視点から】・クマゼミ増加の原因を探る ・思考のレッスン1 具体と抽象・魅力的な提案をしよう ・漢字に親しもう 2・単語をどう分ける？ 【情報社会を生きる】・メディアを比べよう ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・「自分で考える時間」をもとう
	2-2 67～122 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【3言葉と向き合う】・短歌に親しむ・短歌を味わう・言葉の力 ・類義語、対義語、多義語・言葉を比べよう 【読書生活を豊かに】・読書を楽しむ ・翻訳作品を読み比べよう(星の王子さま) ・「わからない」は人生の宝物・本の世界を広げよう ・季節のしおり 夏 【4人間のきずな】・盆土産・字のない葉書・聞き上手になろう ・表現を工夫して書こう・[推敲]表現の効果を考える・敬語 ・同じ訓、同じ音をもつ漢字・漢字に親しもう 3
	2-3 231～258 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【文法・漢字・振り返り】・1年生の復習・自立語・用言の活用 ・付属語・[練習]小学校6年生で学習した漢字 ・小学校6年生で学習した漢字一覧・学習を振り返ろう
	2-4 259～330 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【学習を広げる】・文学的な文章を読むために ・説明的な文章を読むために・情報と情報との関係 ・豊かに表現するために・情報整理の方法 ・発想を広げる―表現テーマ例集・図、表、グラフの活用 ・インタビューをする・いろいろな通信文・形 ・生物が記録する科学―バイオロギングの可能性 ・古典の世界を広げる(敦盛の最期/家の作りやうは) ・古典芸能の世界―能、狂言・郷土ゆかりの作家、作品 ・語彙を豊かに―抽象的な概念、見方や考え方を表す言葉 ・2年生で学習した漢字・2年生で学習した音訓・常用漢字表 ・実用漢字表付表・学習のための用語一覧
	2-5 123～168 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【5論理を捉えて】・モアイは語る―地球の未来 ・思考のレッスン2 根拠の吟味・根拠の適切さを考えて書こう ・漢字に親しもう 4・[討論]異なる立場から考える ・立場を尊重して話し合おう・月夜の海辺・季節のしおり 秋 【6いにしえの心を訪ねる】・源氏と平家 平家物語 ・扇の的・仁和寺にある法師・漢詩の風景
	2-6 169～230 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 【7価値を語る】・君は「最期の晩餐」を知っているか ・「最期の晩餐」の新しさ・魅力を効果的に伝えよう ・漢字に親しもう 5・走る。走らない。走ろうよ。

		<p>【読書に親しむ】・研究の現場によろこそ(日本に野生のゾウやサイがいた頃/クモの糸でバイオリン)・本の世界を広げよう</p> <p>・季節のしおり 冬</p> <p>【8表現を見つめる】・走れメロス・漢字に親しもう6</p> <p>・一字違いで大違い・構成や展開を工夫して書こう</p> <p>・話し言葉と書き言葉・送り仮名・国語の学びを振り返ろう・木</p>
第3学年	3-1 最初～68ページ	<p>・世界はうつくしいと・学習の見通しをもとう・思考の地図</p> <p>・この教科書で学習する皆さんへ・続けてみよう</p> <p>【1深まる学びへ】・握手・評価しながら聞く・季節のしおり 春</p> <p>・学びて時に之を習ふ・情報整理のレッスン 情報の信頼性</p> <p>・文章の種類を選んで書こう・熟語の読み方・漢字に親しもう1</p> <p>【2視野を広げて】・作られた「物語」を超えて</p> <p>・思考のレッスン 具体化、抽象化・説得力のある構成を考えよう</p> <p>・リオの伝説のスピーチ・漢字に親しもう2・すいかは幾つ必要?</p>
	3-2 69～122ページ	<p>【情報社会を生きる】・実用的な文章を読もう</p> <p>・報道文を比較して読もう</p> <p>【3言葉とともに】・俳句の可能性・俳句を味わう・言葉を選ぼう</p> <p>・和語・漢語・外来語</p> <p>【読書生活を豊かに】・読書を楽しむ・[私の一冊]を探しにいこう</p> <p>・羊と鋼の森・本の世界を広げよう・ためになるってどんなこと?</p> <p>・季節のしおり 夏</p> <p>【4状況の中で】・挨拶—原爆の写真によせて・故郷</p> <p>・聞き上手になろう・[推敲]論理の展開を整える</p> <p>・慣用句・ことわざ・故事成語・漢字の造形力・漢字に親しもう3</p>
	3-3 209～230ページ	<p>【文法・漢字・振り返り】・1、2年生の復習・文法を生かす</p> <p>・文法のまとめ・小学校6年生で学習した漢字一覧</p> <p>・学習を振り返ろう</p>
	3-4 231～318ページ	<p>【学習を広げる】</p> <p>・文学的な文章を読むために・説明的な文章を読むために</p> <p>・情報と情報との関係・豊かに表現するために・情報整理の方法</p> <p>・発想を広げる—表現テーマ例集・話し合いの方法</p> <p>・グラフの活用/引用、出典・高瀬舟・二つの悲しみ</p> <p>・アラスカとの出会い・読書記録をつける</p> <p>・古典芸能の世界—歌舞伎、浄瑠璃・古典、近代文学の名作</p> <p>・日本文学の流れ・語彙を豊かに—見方や考え方を表す言葉、慣用句、ことわざ、四字熟語、故事成語・常用漢字表について</p> <p>・文語の活用・3年生で学習した漢字・3年生で学習した音訓</p> <p>・常用漢字表・常用漢字表付表・学習のための用語一覧</p>
	3-5 123～164ページ	<p>【5自らの考えを】・人工知能との未来・人間と人工知能と創造性</p> <p>・多角的に分析して書こう・漢字に親しもう4</p> <p>・話し合いを効果的に進める・合意形成に向けて話し合おう</p> <p>・初恋・季節のしおり 秋</p> <p>【6いにしえの心を受け継ぐ】・和歌の世界・古今和歌集仮名序</p> <p>・君待つと一万葉、古今、新古今・夏草・古典名句、名言集</p>
	3-6 165～208ページ	<p>【7価値を生み出す】・誰かの代わりに</p> <p>・情報を読み取って文章を書こう・漢字のまとめ・漢字に親しもう5</p> <p>・「ない」の違いがわからない?</p> <p>【読書に親しむ】・本は世界への扉(エルサルバドルの少女ヘスース/紛争地の看護師)・本の世界を広げよう・季節のしおり 冬</p> <p>【8未来へ向かって】・温かいスープ・わたしを束ねないで</p> <p>・3年間の歩みを振り返ろう・漢字に親しもう6</p>

(3) 分冊の考え方

1 学年を6分冊とし、各学年の第3巻及び第4巻を補足事項として資料編とした。

第3巻には、「文法・漢字・振り返り」、第4巻には、「学習を広げる」を掲載した。なお、「一年生で学習した漢字」「一年生で学習した音訓」（二年生、三年生も同じ）は、各教材末の「新出漢字」の箇所分割して掲載してある。

また、各学年の第3巻の資料編に、【資料1】【資料2】として点字表記の学習教材「点字の書き方」「書き方の形式」を記載した。

2 編集の具体的方針

編集にあたっては、基本的には原典教科書に大きな変更を加えることなく、点字を常用して学習する生徒（以下、「生徒」という。）の障害の特性に応じるため、視覚的な情報保障が不十分なため活動として成り立ちにくいものや理解しにくい等の題材及び教材（以下、「教材等」という。）について、(1)、

(2)の特性を踏まえ「変更」「差し替え」「追加」「削除」しながら点字化を行う。

(1) 認知の特性

視覚から映像による情報処理は、全体の情報を一度で把握することや一部分を詳しく把握すること、全体と部分を比較しながらとらえることが容易である（即時的把握）。一方、言葉（音声の聴取）による情報処理は、一つ一つの情報をつなぎ合わせて理解することから、距離や方向などは、初めから終わりまでの全ての情報を得てから記憶をたどりながら全体像をとらえることとなる（継次的把握）。

このように認知の特性があることから、即時的把握により理解を深める教材等において、継次的把握に必要な情報を補足するとともに、触覚の弁別は視覚に比べ低いため、触知覚で認知しやすいよう本質的な内容を選び出し情報を省略したり、図や表等を文章化、数値化したり、必要に応じて補足の情報を加えたりする場合がある。そのため、できるだけ比較しやすい配置の工夫を行うこと、題材の本質的な理解を促すために他の保有する感覚を総合的に活用するために工夫することなど必要な場合がある。

- ・視覚以外の保有する感覚に依存した学習に基づいた配慮
- ・視覚的な情報に依存する認知処理に基づいた理解を促す教材等にかかる困難さが生じる場合の配慮など

(2) 文字処理や点字表記上の特性

原典教科書のレイアウトから内容の関係性や順序など文章の流れがわかりやすくなるよう考慮するとともに、情報量の調整や配置の調整など適宜行う必要がある。また、原典教科書は、文字の大きさにより項目の重要度を表している場合、色や字体で重要項目や強調の意味で使用されている場合、図形や線等を原典教科書に書き込む場合等があるため、通常の文字（墨字）と同等に理解できるよう点字表記の工夫が必要な場合がある。

- ・表音文字である点字表記上の特性にとまなう配慮など

3 編集の具体的内容

(1) 点字表記及びレイアウト等は、『日本点字表記法 2018年版』（日本点字委員会編集・発行）に準じて行った。

(2) 各学年の巻頭にある「学習の見通しをもとう」及び「中扉」の教材名以外、巻末の「学習のための用語一覧」は、触読での全体像の把握になじまないために削除した。

(3) 各学年P9～10に折り込まれている「思考の地図」は、点字での学習活動に参考となるものに精選して編集した。各学年に共通する箇所も多い為、第1学年のみ資料として掲載している。

(4) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、変更を行った上で、分冊ごとに掲載した。マーク類は原則削除し、マークを言語化して示した上で、「主な記号」は「この教科書で使われる主な用語」と見出しを変更し、「音声や映像を使用する学習」及び「二次元コード」についての説明の部分を削除した。

また、最後に「原典ページを利用しよう」と見出しを加え、次のように追加した。

原典ページを利用しよう原典ページは、**⠠** **⠠**で囲んでページ行左の端に示してある。

(5) 全学年を通して、原典の教材で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では次のような変更を行った。

- ① 墨字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応した。

- ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と生徒の理解度を考慮して、変更したり、削除したりしたものがあつた。したがつて、指導の際には、適切な補助教材で読解を助けるように配慮することが大切である。
- ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、変更を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。
- ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、変更を加えた上で点図化した。
- ⑤ 「右の」「左記の」「上の」「下の」などの表現をそれぞれ「これらの」「次の」「前の」「後の」などの表現に変更した。
- ⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を奇数ページ末に掲載した。また、読みを妨げないように掲載箇所に配慮をし、教材末にまとめて掲載したものもある。
- ⑦ 「注意する語句」は、課題の提示を添えて、見開き2ページ分を偶数ページ末に掲載した。
- ⑧ 記号等の変更は、読解を助ける場合に限つて行い、原則として原典どおりとしたが、箇条書きの行頭に用いられる中点(・)は削除し、全体の構造を明確にするための適切な記号に変更した。
- ⑨ 生徒のイラストに吹き出しが付いた会話や台詞類は、特に必要のない限りはAさん、Bさん・・・と便宜的な名前を付して会話や台詞であることを明らかにしたうえで、二マス空けてその内容を掲載した。
- (6) 各教材末の「新出漢字」は、新出漢字部分を第1カギで囲み、欄外の漢字を見出し語として、「教材末の音訓」と熟語、及び「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。また、漢字ごとに行を替えて掲載した。
〔第1学年 原典22ページの例〕
「おどろ」く(きょう□おどろㄱㄱく□おどろㄱㄱかす) □□「きょう」い□□「きょう」き□□おおきさに□「おどろ」く□□せけんを□「おどろ」かす)
- (7) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、常用漢字表の音訓を第1カッコで示した。
〔第1学年 原典29ページの例〕
ㄱㄱあやまㄱㄱる(しゃ あやまる)
- (8) 古典教材は、次のように点訳した。
- ① 日本点字表記法にしたがい、和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。また、原典において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合、特に必要がない限りは生徒の理解度を考慮して削除した。
- ② 和語に添えられた読み方は、本文の読みを阻害しないように、偶数ページの欄外に掲載したが、学習進捗にしたがい、触読による読みやすさを優先して削除した場合もある。
- ③ 現代語は、(現代語訳)として、本文の後に掲載した。
- ④ 各学年掲載の「季節のしおり」については、第1学年は現代仮名遣いで掲載し、古典の学習が進んだ第2学年以降は歴史的仮名遣いで掲載している。
- ⑤ 漢文は、日本点字表記法にしたがい、書き下し文に直して書き表した。漢文は表意文字である漢字だけで構成されており、基本的に点字による学習にはなじまないからである。そのため、点字では書き下し文で学習する。
- (9) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、墨字200字を点字32マス11行と対応させた。
「例」400字(原典) → 400字(点字32マス22行)
- (10) 「漢字」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して変更を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同訓異字については、漢字を音と訓とで併記するか、同様の意味を持つ別の熟語を挙げたり言葉を補ったりして漢字を特定できるようにした。その際、漢字の音訓は、原典付録「常用漢字表」によつた。
- (11) 教材に添えられている二次元コードについては、視覚的な内容が中心となつた資料や情報であること、閲覧しなくても学習の目標が達成できること等を考慮して、割愛した。
- (12) 全学年第3巻の「点字の書き方」は、表記法の内容を精選して掲載してある【資料1】。また、同じく全学年第3巻の「書き方の形式」では、点字による学習に移行する生徒等にとって学習活動の参考となるように意図した内容を掲載した【資料2】。
- (13) 編集の具体的な変更箇所・変更事項は以下の表のとおりであるが、大幅な差し換えやレイアウト上の工夫を行った箇所については、【資料1-1】以降、学年ごとの通し番号で掲載した。

学年	ページ	行	変更 事項	変 更 事 項	備 考
1年 1巻	9～10		変更	「思考の地図」【資料1-1】	2 編集の具体的方針(1)
	11	下	変更	主な記号→この教科書で使われる主な用語	2 編集の具体的方針(2)
	12～13	上	変更	これまで～大きくなる。→原文通りに改行。	2 編集の具体的方針(2)
	14	1	変更	文頭の点(・)は第1星印で表記	2 編集の具体的方針(2)
	16	下9 下14	変更	人の方を見て→人の方を向いて 相手を見て→相手の方を向いて	2 編集の具体的方針(1)
	17	3-5	変更	アルファベットの間の中点は削除しマスあけにする。 h a n a b i r aはローマ字書きにする。	2 編集の具体的方針(2)
		下8- 20	変更	イントネーションによるちがいが アクセントによるちがいが【資料1-2】	2 編集の具体的方針(2)
	18	上10 ～ 15	削除	書き方の工夫 線を引く。色で印をつける。図にする。を削除。 記号やマークを付ける。→符号を付ける。	2 編集の具体的方針(2)
			変更	ノート例【資料1-3】	2 編集の具体的方針(2)
	19	上	変更	【辞典・事典】→【ジテン】	2 編集の具体的方針(2)
		上5	削除	つめを削除。	※国語辞典は、点字辞典の表記に合わせた。
		上6	変更	柱→柱一点字辞典では頁行にある。	
		上	変更	国語辞典の例【資料1-4】	
		中	変更	漢和辞典の例【資料1-5】	
	中3	変更	調べたいときに使う。→調べたいときに使われる。		
	20	下	追加	吹き出しは「」で囲まず記載。	2 編集の具体的方針(2)
	22	下	変更	(目標)文頭の点(・)は、それぞれ(1)(2)として教材の前に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
		脚注	変更 削除	注意する語句は、偶数ページの脚注に、語句の説明は奇数ページの脚注に記載する。脚注の新出漢字は削除。	2 編集の具体的方針(2)
	28	下	変更	展開の例【資料1-6】	2 編集の具体的方針(2)
	29	3	削除	表にまとめよう。→まとめよう。	2 編集の具体的方針(2)
	30	上	削除	音声教材のマークは削除	2 編集の具体的方針(2)
		上	追加	イラストの吹き出しを先生と山本さんの会話とする。	2 編集の具体的方針(2)
		上	変更	「持ち物は国語のノートとえんぴつ。貸出カードに名前を書きこむので、黒のフェルトペンも忘れずにね。」→「持ち物は、国語のノートと筆記用具。貸出カードに名前を書きこむので忘れずにね。」	2 編集の具体的方針(1)
		上	削除 変更	メモの例の中の ・えんぴつ ・黒フェルトペンを削除し、筆記用具を加える。	2 編集の具体的方針(1)
		下	変更	番号や記号を付けたり、大事なところに線を引いたりして→番号や符号を付けたりして	2 編集の具体的方針(2)
	31		変更	權(かひ)のしづく→權(かい)のしづく たとふべき→たとうべき みてみると→みていると ひとすぢの→ひとすじの	2 編集の具体的方針(2) 歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに変更
	32	上	変更	イラストの吹き出しを書店員と南さんの会話とする。	2 編集の具体的方針(1)
	32	中	変更	表の形に整理すると→整理すると 表は「3社の国語辞典」として掲載。【資料1-7】	2 編集の具体的方針(2)
	33	上	削除	「付箋などに」を削除	2 編集の具体的方針(2)
		中	変更	手紙とメールの共通点と相違点【資料1-8】	
		中	変更	新聞を作る手順【資料1-9】	2 編集の具体的方針(2)

1年 1巻	34	下	追加	おすすめの場所「○○」の後にエ. を選ぶ。を追加。	2	編集の具体的方針(2)
	35	上3	削除	付箋・カードなどを→付箋・を削除	2	編集の具体的方針(2)
		上9	変更	400字程度→400字(点字32マス22行)程度	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	マッピングで書き出す【資料1-10】	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	観点ごとに分類する【資料1-11】	2	編集の具体的方針(1)
	37	上	変更	説明の例の上段(初め)(中)(終わり)と下段は、例文の後に段落を加えて記載する。 題材の提示—第1段落 説明(1)—第2段落 説明(2)—第3段落 説明(3)—第4段落 まとめ—第5段落	2	編集の具体的方針(2)
	38~39	上1	変更	「休」は→「休(やす-む)」は、人(にんべん)漢字の組み立てと部首【資料1-12】 漢字の組み立て部分は点図	2	編集の具体的方針(1)
	39	下	変更	練習問題【資料1-13】	2	編集の具体的方針(1)
	40		変更	漢字に親しもう1【資料1-14】	2	編集の具体的方針(1)
	44	下	削除	→図 を削除	2	編集の具体的方針(1)
	46~47	3 6-11 1	変更	「ルビンのつぼ」を点図にした上で、文章を変更。 上の→該当ページの 白い→中央の 黒い→周りの	2	編集の具体的方針(1) ※視点(見方)を変えることの意味を読み取る説明文
				47		
	48	8	変更	左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。→別の図がある。化粧台の前に座っている女性の絵である。		
	50	上 下	削除	文章と図との対応に注意し を削除 「文章の構成の例」の図から段落を削除。	2	編集の具体的方針(1)
	53	中	変更	根拠と意見をつなぐ例【資料1-15】	2	編集の具体的方針(2)
	55	上10	変更	視線→顔	2	編集の具体的方針(1)
		下	変更	私の好きなこと【資料1-16】	2	編集の具体的方針(2)
	56	上	変更	スピーチの例の上段と下段は、例文の後に段落を加えて記載する。 問いかけ—第1段落 話題提示—第2段落 説明(1)—第3段落 説明(4)—第4段落 むすび—第5・第6段落	2	編集の具体的方針(2)
		下	変更	スピーチメモの例【資料1-17】	2	編集の具体的方針(2)
	57	下	変更	視線、表情、身振り手振り→顔の向き、表情、身振り手振り	2	編集の具体的方針(1)
	58		変更	漢字に親しもう2【資料1-18】	2	編集の具体的方針(2)
	59	下1	変更	上の→この 「。(句点)」→句点(。)	2	編集の具体的方針(2)
	60	下	追加	背表紙のラベルには、分類記号や作者・筆者の頭文字が記載されている。	2	編集の具体的方針(2)
	61	下	変更	「出納」の読み方→「出納」の漢字情報の集め方の例【資料1-19】	2	編集の具体的方針(2)
	62	2	変更	複数のグラフや文章の→複数の表や文章の	2	編集の具体的方針(1)
	62		削除 変更	円グラフ、棒グラフの具体例は削除し、見出しのみ(例)として掲載。 大きな文字や派手な色で→線の太さ等により		
	63	上	変更	3 全世代の割合→表1 全世代の割合 とし、表にする。世代別の割合→表2 世代別の割合 とし、表にする。【資料1-20】	2	編集の具体的方針(1)

1年 1巻		中21	変更	見て取れる。→読み取れる。	2 編集の具体的方針(1)
		下	変更	上の資料→該当ページの資料 (やってみよう)は、選択肢番号(1)～(5)の後は2マス 空け、2行目は行頭7マス目から始める。	2 編集の具体的方針(2)
	64		変更	資料A→資料Aインターネットの情報【資料1-21】 資料B→資料B本の情報とする	2 編集の具体的方針(1)
	65	下3	変更	1、2字下げるかして→全体を2マス下げるかして	2 編集の具体的方針(2)
1年 2巻	68	脚注	変更	詩人紹介は教材末へ。	2 編集の具体的方針(2)
	72	下	削除	美術の教科書や写真集で見た絵や写真	2 編集の具体的方針(1)
	74	上	削除	図は削除	2 編集の具体的方針(1)
		11	変更 削除	図のような形の部品を→真ん中に穴の空いた丸い形の 部品がある。この部品を 真ん中に穴の空いた丸いドーナツを→真ん中に穴の空 いた丸い を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	76	左	変更	図を点図で示す。下の図を→次の図を	2 編集の具体的方針(1)
	77	上	変更	赤い傍線はすべて第1カギで囲んで示す。	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	「指示する語句」の表は点図で示す。	2 編集の具体的方針(1)
	78	上	変更	傍線と矢印を削除した文を書き、2行目に(指示する 語句→指示内容)の順で書き表す。	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	・は削除し、(例)とし、波線部は「」で囲む。	2 編集の具体的方針(2)
	80	下	変更	味、食感、見た目、香りの順に掲載【資料1-22】	2 編集の具体的方針(1)
	81	上6	変更	80ページ下段の→次の	2 編集の具体的方針(2)
		上11	変更	100字程度で→100字(点字32マス6行)程度で	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	程度を表す言葉【資料1-23】点図で示す。	2 編集の具体的方針(2)
	82	下	変更	付箋などを→カードなどを	2 編集の具体的方針(2)
	83	上	変更	ポップの例【資料1-24】	2 編集の具体的方針(2)
	90～92		変更	署名は第1カギで、著者または筆者名は第1カッコで 囲んで示す。	2 編集の具体的方針(2)
	105	下9	変更	「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表 記にした。→「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」 は墨字では片仮名で表記されている。	2 編集の具体的方針(2)
	116	上8	変更	右下の林さんへの質問を、左のページを読んで考えて みよう→林さんへの質問を考えてみよう	2 編集の具体的方針(1)
	118	下	削除	文字の大きさや紙面構成を→文字の大きさやを削除。	2 編集の具体的方針(2)
	119	下	変更	情報整理の例【資料1-25】 表現の工夫の例【資料1-26】	2 編集の具体的方針(2)
	120	上1	変更	119ページの→該当ページの ★の部分→「記」に説明された部分を	2 編集の具体的方針(2)
		上	削除	案内文の中の★は削除。	2 編集の具体的方針(2)
		下3	変更	漢字や仮名づかい、送り仮名の誤りはないか。 →分かち書きや仮名づかいの誤りはないか。	2 編集の具体的方針(2)
	121		変更	方言分布図を表で示す。【資料1-27】	2 編集の具体的方針(1)
122	上7	変更	方言による「はた(「こっき」の「き」)」の発音の 違いを点図で表す。	2 編集の具体的方針(1)	
123	上	変更	「月」という漢字は、「ガツ」という音、→満「ゲツ」 と九「ガツ」の「」で示した部分は、同じ漢字の 音で	2 編集の具体的方針(2)	
123	下	追加	次の1.2.の「」で示した部分は、それぞれ同じ漢字で ある。	2 編集の具体的方針(2)	
124	下	変更	練習問題【資料1-28】	2 編集の具体的方針(1)	

1年 3巻	238	中 下 下	変更 変更 変更	○印→(マル)、×印→(バツ) ▼印→練習 「不自然なところに線を引き」→「不自然なところを抜き出し」	2 編集の具体的方針(2)
	239	上	変更	一字下げる→二マス下げる	2 編集の具体的方針(2)
	239	中	削除 挿入	「文章と段落」の図は削除し、上段に次の文を挿入。 「段落」は、いくつかの段落が結び付いて、大きなまとまりを作る場合もある。	2 編集の具体的方針(2)
	240	中6 ～9	変更	×印→(不適切な例)、○印→(適切な例)	2 編集の具体的方針(2)
	240	中11 ～	変更	×印→(不適切な区切り方)と変更し、(適切な区切り方)として例文を掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	240	左下	変更	問題文は分ち書きせずを書く。 (以下、文節に区切る課題は同様に変更)	2 編集の具体的方針(2)
	242～		変更	文の組み立ては、もとの文、文の組み立て説明の順に掲載。【資料1-29】	2 編集の具体的方針(2)
	245	上18	変更	平仮名で書かれることが多い。→墨字では平仮名で書かれることが多い。	2 編集の具体的方針(2)
	245	下	変更	問題文「線を引こう」を「抜き出そう」に変更 (文法について、以下同様に課題を変更)	2 編集の具体的方針(2)
	247	9	変更	例文は以下のように変更し、付属語の後に掲載 ★自立語は(自) 付属語は(付)と書き表す。 空に輝く太陽のように彼女は明るく笑った。 空(自)に(付)輝く(自)太陽(自)の(付)ように(付)彼女(自)は(付)明るく(自)笑っ(自)た(付)	2 編集の具体的方針(2)
	257～ 260		変更	練習 小学校6年生で学習した漢字 【資料1-30】	2 編集の具体的方針(1)
	258～ 259		削除	小学6年生で学習した漢字一覧は削除	2 編集の具体的方針(2)
	260	下	変更	▼を削除し、「次の文章は、温暖化による流氷の現象が環境に与える影響について述べたものである。読んで(該当)ページの問題に取り組もう。」とし、文章の前に掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
	261	1	変更	「…スピーチをしている。」の後に「次のスピーチ原稿を読んで(該当)ページの問題に取り組もう。」を掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
	262	1	変更	「…記事を読んだ。」の後に「次の記事を読んで(該当)ページの問題に取り組もう。」を掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
262	下	変更	問題文を以下のように変更して掲載 1. 最近の卒業ソングの傾向として挙げられることを次のようにまとめた。空欄に当てはまる言葉を考えよう。	2 編集の具体的方針(2)	
1年 4巻	266	中	削除	図を削除	2 編集の具体的方針(1)
	267	下	変更	「学校図書館の月別貸し出し冊数」のグラフを表にして掲載【資料1-31】	2 編集の具体的方針(2)
		下16	変更	「 」などで→カギでかこむなどして	2 編集の具体的方針(2)
	269～ 270	上15	変更	視線、表情、身振り手振り→顔の向き、表情、身振り手振り	2 編集の具体的方針(2)
		下12	削除	「文字の大きさや」を削除	2 編集の具体的方針(2)
	271	上	変更	中央にテーマを書き→初めにテーマを書き	2 編集の具体的方針(2)

1年 4巻				線で結んでいく→矢印などで結んでいく	
	271	3段目	変更	付箋などに→カードなどに	2 編集の具体的方針(2)
	271		変更	4つの図【資料1-32】	2 編集の具体的方針(1)
	275	上	変更	タイトルを「文章の推敲・書き方の形式」に変更。	2 編集の具体的方針(2)
	275	3	変更	原稿用紙の使い方→書き方の形式	2 編集の具体的方針(2)
	275	6-7	削除	「原稿用紙の上で推敲するときは、左の例のような記号を使うとよい。」を削除	2 編集の具体的方針(2)
	275	図	変更	原稿用紙例は推敲前と推敲後の順に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	275	下9	変更	漢字や仮名遣い、送り仮名→分かち書きや仮名遣い	2 編集の具体的方針(2)
	275	下11	変更	原稿用紙の使い方→書き方の形式 【資料1-33】	2 編集の具体的方針(2)
	276	上	変更	封筒のイラストを削除し、以下の文章を記載。 3. 封筒の記入例 封筒の表面には相手の郵便番号、住所、名前を書く。裏面には差出人の郵便番号、住所、名前を書く。点字で書かれた手紙を出す際は、封筒の一部を開封し、切手を貼らずにその位置に「点字用郵便」と書く。	2 編集の具体的方針(2)
	277	下	変更	(1)・・・横書きの書式では、後付けが先に入ることもある。→横書きの書式や点字で書く場合は、後付けが先に入り、「前付け」とすることもある。 (4)・・・横書きでは冒頭におかれる。→横書きや点字で書く場合では冒頭に置かれる。(前付け)	2 編集の具体的方針(2)
	277	下	変更	(6)の後に次の文を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	286	上	追加	★実用的な通信文は(4)(5)(1)(2)(3)(6)の順に書く。 「漱石」という名前は→「漱石(くちすすぐいし)」	
	288～ 291		削除	写真、地図、図を削除し、P290「産卵時期と産卵場所」の表のみ掲載	2 編集の具体的方針(1)
	292		変更	書く手順、感想文、書き方の工夫の順に掲載。 書き方の工夫に対応する傍線部は、「書き方の工夫」の各文末に該当部を抜き出して掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	296	上	削除	写真2枚を削除し、上段の写真の説明のみ掲載。	2 編集の具体的方針(1)
	296～ 297		変更	セリフの第一カギは削除し、二重カギは第一カギに変更して掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	298	1	変更	デザインされた文字(墨字)の形を「書体」といい、目的に応じてさまざまな書体を使い分けられている。	2 編集の具体的方針(1)
	298	上1	変更	この教科書の墨字の本文と、欄外や教材末にある漢字欄の新出漢字は、形が違っている。	2 編集の具体的方針(1)
	298	下	削除	各書体名には1.～4.と番号を付け、書体例は削除。	2 編集の具体的方針(1)
299		変更	傍線を削除し、もとの文、敬語の説明の順に掲載。	2 編集の具体的方針(2)	
332		変更	常用漢字表 付表【資料1-34】	2 編集の具体的方針(1)	
333～ 334		削除	学習のための用語一覧は削除	2 編集の具体的方針(1)	
裏見返		削除	時を表す言葉は削除	2 編集の具体的方針(2)	
1年 5巻	126～ 133	下	削除	写真や観察日記、実験などの絵は削除	2 編集の具体的方針(1)
	129	下	変更	グラフ1～3は表に変更。それぞれ表1～表3とし、本文の該当箇所をグラフから表に変更【資料1-35】	2 編集の具体的方針(1)
	131	下	変更	グラフ4・5を表4・5に変更。本文の該当箇所をグラフから表に変更。【資料1-36】【資料1-37】	2 編集の具体的方針(1)
	132	中	変更	鳴き声と意味の表 → 【資料1-38】	2 編集の具体的方針(2)

1年 5巻	134 135	上	変更	吹き出しは、枠を削除し、「Dさん」にする。	2 編集の具体的方針(2)
	135		削除 変更	表にまとめよう。→まとめよう。 表を削除し、(観点)と5つの項目を掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
	135	上	変更 削除	表を基に → まとめた内容を基に 図表などを → 表などを	2 編集の具体的方針(2)
	134 ~135	下	変更	学習の窓 (事実) (意見) については、図にせず記載。	2 編集の具体的方針(2)
	136	中	変更	時間の経過、原因、結果 → 【資料1-39】	2 編集の具体的方針(2)
	136	上	変更	吹き出しは、枠を削除し、「先生」にする。	2 編集の具体的方針(2)
	138	下	削除 変更	右下の円グラフ削除。 (課題)の3つの・をそれぞれア.~ウ.とし、3つめの網掛け部分を、「ウ.を選ぶ。」とする。そのあとに吹き出しは枠を削除し、「Cさん」として掲載。	2 編集の具体的方針(1)
	139	上 最終	変更	広告に示された図表の意味を読み取る。→広告などに示された図表の意味を考える。	2 編集の具体的方針(1)
	139	下	削除 変更	「1年A組の睡眠時間の分布」と「1年A組の睡眠満足度」のグラフは表にする。【資料1-40】	2 編集の具体的方針(2)
	140	中	変更	(資料1)(資料2)のグラフは削除。同様のグラフが既出のため、点字教科書該当ページを記載する。	2 編集の具体的方針(1)
	141	右1 16 24	追加 変更	(各項目の内容)を追加。 アンケート結果などは、表やグラフで → アンケート結果などは、表などで 「~だ。」等にある「~」は全て「…」に。	2 編集の具体的方針(1)
	142~ 143		変更 削除	(資料ア)(資料イ)は表で掲載し、(資料ウ)(資料エ)は、見出しと引用元のみ掲載。	2 編集の具体的方針(1)
	144	下	変更	【資料1-41】	2 編集の具体的方針(1)
	145	下	変更	▼5つを(1)~(5)とし、各生徒の吹き出しの前に入れる。	2 編集の具体的方針(2)
	146	下	変更	1話題を決める → 1話題を決める例 に変更。 【資料1-42】	2 編集の具体的方針(2)
	146	下	変更	この言葉の意味を、具体例を基に共有する。→「よい話し合い」の意味を、具体例を基に共有する。	2 編集の具体的方針(2)
	147	上2 上6 下	変更	付箋や小さなカードに→メモやカードに 模造紙や付箋を使って→メモやカードなどを使って 2自分の考えをまとめる→2自分の考えをまとめる例に変更。	2 編集の具体的方針(2)
	148 149	上 下 上 中	変更	グループで話し合う→グループで話し合う例 に変更。 傍線は削除し、該当の文のあとに(根拠)(意見との関係)をそれぞれ入れる。 2. 模造紙や付箋を使って、→メモやカードなどを使って、に変更。吹き出しは、枠を削除し、「Aさん」にする。傍線は削除し、該当の文のあとに(意見を整理)を入れる。 「付箋に」「矢印で」「囲んで」を削除 【資料1-43】 吹き出しは、枠を削除し、「Gさん」「Bさん」にする。 傍線は削除し、該当の文のあとに(意見を比較)を入	2 編集の具体的方針(2)

1年 5巻			れる。 4話し合いの結果を報告する→4を削除し、話し合いの結果を報告する例に変更。 ○○ □□ は全て、「…」に変更。	
152	下	変更 追加	取つて→取って もれ出づる→もれ出ざる ゐた→いた 月の満ち欠けの図を点図で表す。	2 編集の具体的方針(1) ※歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに変更。
154～ 155	1～2	変更 追加	仮名のみ原文や、漢字と濁点を当てた歌を → (原文) や、 (濁点などを当てた歌) を	2 編集の具体的方針(2)
154～ 155	上	変更 追加 削除	(原文) を分ち書きなしで掲載。 訳は (現代語訳) とする。 注の前の※は削除。 歴史的仮名遣いの部分の読みは、句の形で原文を抜き出して、脚注 (偶数ページ) とする。 色はにほへど (色わにおえど) 常ならむ (常ならん) けふ (きょう) ぬいも (えいも)	2 編集の具体的方針(2)
155	中	追加	(濁点などを当てた歌) を追加。	2 編集の具体的方針(2)
155	上	追加	有為 (うい) の奥山 の注に、墨字では「ウキ」と書き表す。 を追加。	2 編集の具体的方針(2)
156～ 157	上	変更 削除	年表は、古典の作品名の記されている時代のみ掲載。 【資料1-44】 絵は全て削除。吹き出しは枠を削除し、「大橋さん」「平松さん」とする。	2 編集の具体的方針(1)
158	上 下	削除 変更	絵は全て削除。上段を (原文) 、下段の現代語訳を (現代語訳) とする。	2 編集の具体的方針(1)
160 164		変更	(原文) の後に (現代語訳) を掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
165		変更 削除	「竹取物語」が描かれた例 とし、それぞれを1. ～4. で掲載。絵は削除。	2 編集の具体的方針(1)
166～ 167	上11 上13	変更 削除 変更 変更	絵は削除。歴史的仮名遣いの読みは削除し、() で現代仮名遣いを入れる。 「食べがた」→「食べがたし」 「た(堪)へがた」→「たへがたし(たえがたし)」 終止形で掲載する。	2 編集の具体的方針(2) 2 編集の具体的方針(1)
169	下1 下6	追加	・うゐのおくやま… ・登るべきやうなし をそれぞれ削除し、以下の文を追加する。 ☆うゐの奥山(墨字では「うゐのおくやま」と書き表す。) ☆登るべきよーなし(墨字では「登るべきやうなし」と書き表す。)	2 編集の具体的方針(2)
171	下	追加 削除	下段の現代語訳を (現代語訳) とする。 絵は削除。	2 編集の具体的方針(1)
173	上	追加	3. 200字→200字 (点字32マス11行)	2 編集の具体的方針(2)
174	上 下	削除 変更 削除 変更	漢文を読む 【資料1-45】 送り仮名や返り点の墨字での書き表し方に関わる部分は削除。 点字では学習しないため、「白文」「漢文の訓読」は削除。	2 編集の具体的方針(1) ※点字では漢文を書き下し文で学ぶ。
1年 6巻	176～ 183	削除	図や写真を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	184	上 追加	200字→200字 (点字32マス11行)	2 編集の具体的方針(2)

1年 6巻	185	下	削除 変更	段落の中心となる文 図を削除。 ☆段落の中心となる文——つまり…。このように…。	2 編集の具体的方針(1)
	186	上	追加	400字→400字(点字32マス22行)	2 編集の具体的方針(2)
	187	中	変更	○○ □□→すべて…に変更。	2 編集の具体的方針(2)
	189	上	変更	2 山田さん「私は、…」 友だちの感想(なんだか…)	2 編集の具体的方針(2)
		下11	削除	枠と枠内の参照事項は削除し、該当ページのみ本文 下9行目に「文法2 文の組み立て(該当ページ)」と掲載。	
	190	上 2~3	変更	題名の後の2行 → 第1段落挿入符で囲む。	2 編集の具体的方針(2)
	192		変更	図1・図2を点図で表す。	2 編集の具体的方針(1)
	196		変更	歴史的仮名遣いの読みは削除し、現代仮名遣いで表記する。 んまそうな雪がふうわりふわり哉	2 編集の具体的方針(2)
	198~ 211		削除	絵はすべて削除。	2 編集の具体的方針(1)
	212	下	変更	図を削除し、()内の文を追加。 この作品は、…語られる(前半の語り手は「私」、後半の語り手は「僕」)。	2 編集の具体的方針(1)
	214	下	変更	漢字に親しもう5 3. →【資料1-46】	2 編集の具体的方針(2)
	215	上 上4 下7 下12	変更	文法3 【資料1-47】 「行く」+「ます」→「行き・ます」→「行く」と「ます」で「行きます」 枠と枠内の参照事項は削除し、該当ページのみ本文 下11行目「文法3 文の組み立て(該当ページ)」と掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	220	下	変更	「生まれたばかりの弟が家に来た日のこと」の後に、 (イ. を選ぶ。)を追加。	2 編集の具体的方針(2)
	221	上	変更	600から800字 → 600から800字(点字32マス33から44行)	2 編集の具体的方針(2)
		下	変更	3. 構成を考える→3. 構成を考える例	2 編集の具体的方針(1)
	222	上	変更	○○ →「…」に。	2 編集の具体的方針(2)
	224	下9	削除 変更	古池や蛙飛こむ水のおと→傍線部を削除。現代仮名遣いで。 (例) 古池や蛙飛こむ水のおと	2 編集の具体的方針(2)
	225	下13	変更	「おと」——体言(名詞)	
	226	上4	変更	(例)——1行目と2・3行目	
		上16 上8 ~9	変更	(例)——1行目と3行目。2行目と4行目。 客=蜂 赤い部屋=チューリップの花	
227	下	変更	漢字3 漢字を、点字と点線文字で掲載。 【資料1-48】	2 編集の具体的方針(1)	
228	上4 ~5	変更	(例)漢字を点字と点線文字で掲載。【資料1-49】	2 編集の具体的方針(2)	
	下	変更	練習問題 【資料1-50】	2 編集の具体的方針(2)	
231	下	削除	2. 情報を整理する 図は削除。	2 編集の具体的方針(1)	

1年 6巻	232	上 上10	変更 変更	(発表の例) 傍線部分を削除し、「聞き手に応じた表現」などは文中の該当箇所に()で入れ込む。 白い部分 → 中央の部分	2 編集の具体的方針(2)
	232～ 233	下 上	削除 変更	(フリップの例)として、フリップ1.～4.とフリップ作成のポイントを掲載。フリップ1.の絵は削除し、「ルビンのつぼ」(絵は省略)と記載。	2 編集の具体的方針(2)
	233	上 下8 下16	変更 削除 変更	学習を振り返る → (思ったことの例)とする。 表情やうなずきなどから、→削除 聞き手の表情やうなずきに →聞き手の様子に	2 編集の具体的方針(2) 2 編集の具体的方針(1)
	236	上	変更	詩の引用部分の「/」は削除し、詩行符を使って掲	2 編集の具体的方針(2)
2年 1巻	9～10		変更	「思考の地図」第1学年の【資料1-1】参	2 編集の具体的方針(1)
	24	下	削除	人物相関図と「上のように」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	26	下	変更	メモの例【資料2-1】	2 編集の具体的方針(2)
	28～30		変更	現代語訳は、原文の後に(現代語訳)と表題を起こす。	2 編集の具体的方針(2)
	28	下	変更	図を削除し、宮仕えの脚注に次の一文を追加。「なお、彰子には紫式部が教育係として仕えていた。」	2 編集の具体的方針(1)
	31	上	変更	400字程度→400字(点字32マス22行)程度	2 編集の具体的方針(2)
	32～33	上	変更	表してみよう。→表してみると、 しやすくなる。→しやすくなることもある。	2 編集の具体的方針(1)
	33	中	変更	映画「○○」に対する評価(レーダーチャート)を点図化する。	2 編集の具体的方針(2)
	36		変更	職業ガイドの例【資料2-2】	2 編集の具体的方針(2)
	37	上	削除	「紙面構成の例(A4版)」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	37	上	変更	見やすい→読みやすい	2 編集の具体的方針(1)
	38	上	追加	強大(「強い」と「大きい」) 強弱(「強い」と「弱い」) 強敵(「強い」と「敵」)	2 編集の具体的方針(2)
	38～39	下- 上	変更	二字熟語の主な構成【資料2-3】	2 編集の具体的方針(2)
	39	下	変更	練習問題【資料2-4】	2 編集の具体的方針(2)
	40		変更	漢字に親しもう1【資料2-5】	2 編集の具体的方針(2)
	43		変更	図1は～を示す。→ここに～示す図がある(図1省略)。	2 編集の具体的方針(1)
	44		変更	(図2)→(図2 省略)	2 編集の具体的方針(1)
	45		変更	図3、4、5をグラフで表す。【資料2-6】	2 編集の具体的方針(1)
	47		変更	図6を次のように変更。 図6 セミの孵化の時期と雨の日の割合(概要) (セミの孵化の時期) ミンミンゼミ — 6月 ツクツクボウシ — 6月 アブラゼミ — 6～7月 クマゼミ — 7～8月 (雨の日の割合) ☆梅雨明けは7月半ば過ぎ 梅雨明け前 — 30～50% 梅雨明け後 — 20%前後	2 編集の具体的方針(1)
	48		削除	「図1に示した」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
48		変更	図7をグラフで表す。【資料2-7】	2 編集の具体的方針(1)	
50	上13 下	削除	「図に」を削除。 図6を削除。	2 編集の具体的方針(1)	

2年 1巻	51	上1		「、写真」を削除。	
	52	上	変更	具体と抽象の説明を下記のように点図化する。 (抽象) 中学生が抱く夢 ものづくりに携わりたい。 人の役に立 つ仕事がしたい。 (具体) 大工になりたい。 デザイナーになりた い。 料理人になりたい。 ゲームを作りたい。 消 防士になりたい。 NPOで働きたい。 看護師にな りたい。 弁護士になりたい。	2 編集の具体的方針(1)
	56		変更	進行案の例【資料2-8】	2 編集の具体的方針(2)
	57	左上	削除	「視覚的にも」を削除	2 編集の具体的方針(1)
	57		変更	見ながら→確認しながら	2 編集の具体的方針(1)
	58		変更	漢字に親しもう2【資料2-9】	2 編集の具体的方針(2)
	59	上	変更	単語の分類を、パンの製造過程にたとえて考えてみよ う。→次の五つの単語は、どのように分類できるだろ う。 あらゆる 速い きらきら 走る 車 (1)主語になる (2)修飾語になる (3)述語になる	2 編集の具体的方針(2)
	59	下	変更	イラストを変更し、下段6行目の後に挿入する。 【資料2-10】	2 編集の具体的方針(1)
66	下	変更	AとBのグラフを表に変更。【資料2-11】	2 編集の具体的方針(1)	
2年 2巻	68~70		変更	歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出 して脚注とする。くれなゐの(くれないの)	2 編集の具体的方針(2)
	72	下段	追加	作者注は、本文末にまとめて掲載する。 古称→古称(昔の呼び名)	
	78	下8	変更	(例)紙を□。 1. 裂く(二つ以上に切り離す。) 2. 破る(引きちぎってだめにする。) (例) 1. 戸を□。 2. 傘を□。 1. の場合は「あける」とも「ひらく」とも言えるが 、2. は「ひらく」とは言えても「あける」と言うこと はできない。	2 編集の具体的方針(2)
	79	上7	追加	「図の←→の関係は対義語である。」という文を追加 。	2 編集の具体的方針(2)
	79	上図	変更	下記のように点図化する。 (対義語の例) 「男性」←→「女性」 「年上」 兄 姉 ↑ ↑ ↓ ↓ 「年下」 弟 妹	2 編集の具体的方針(1)
115	左	追加	署名一行末をニマス程度残すように書く。	2 編集の具体的方針(2)	
115		追加	宛名一署名の次の行に、行頭から書く。	2 編集の具体的方針(2)	

2年 2巻	115		追加	「後付け」の部分について、宛名の文に続けて次のように追加する。 「御中」（団体）など。 ※ なお、点字の手紙では前付けとすることが多く、その場合は宛名・日付・署名の順に書く。	2 編集の具体的方針(2)
	116		削除 変更	「漢字や送り仮名に誤りはないか。」を削除。 ①～⑩のうち、①⑤⑩の傍線部を削除し、番号は詰めて(1)～(8)とする。	2 編集の具体的方針(2)
	117～ 118		変更	敬語の種類各挿絵は、(例)として、次のように変更し掲載する。 (丁寧語) (例) 内田さんが歌い「ます」。 (尊敬語) (例) 来賓の方が「お話しになり」ます。 ☺☺ 「お話しになります」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。 (謙譲語) (例) 父が先生を「ご案内し」ます。 ☹☹ 「ご案内します」の「ます」は、聞き手への丁寧語である。	2 編集の具体的方針(2)
	118	下	変更	尊敬語と謙譲語の例【資料2-12】	2 編集の具体的方針(2)
	119	上1- 3	変更	※謙譲語の中には、*印の語のように・・・ → ☹☹ 謙譲語の中には、次にあげる語のように、動作・行為の向かう先ではなく、聞き手(読み手)への敬意を表すものがある。 参る、おる、申す、いたす、存じる 接頭語を付けた語 「愚」見、「弊」社、「拙」著、「粗」品 (例) 私は、明日から、・・・。	2 編集の具体的方針(2)
	119	上 9-14	変更	敬語の組み合わせの例文を次のように変更。 (例) 俳諧について研究されている西村先生から、ご著書をいただきました。関心のある方にお貸しします。 「研究され」「ご著書」→「西村先生」への尊敬語 「いただき」→「西村先生」への謙譲語 「まし」→丁寧語 「お貸しし」→「関心のある方」への謙譲語 「ます」→丁寧語	2 編集の具体的方針(2)
	119	下	変更	○印は(適切)、×印は(不適切)として各例文の文末に掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	120	上1- 5	変更	漢字には、「夏は暑い」「お湯が熱い」「厚い本」の「あつい」のように、同じ訓をもつものがある。また、同じ音をもつ漢字も多く、「お目にかかる機会」「性能のよい機械」の「きかい」のように、同じ読みの熟語もある。 パソコンなどで漢字に変換するときには、使い分けに注意しよう。	2 編集の具体的方針(2)
	120	上	変更	上段の図を削除し、次のように変更する。 メールを作成しているAさんが、漢字をどのように変換するか考えている。 前回お会いしたのは、「あつい」夏の日でしたね。	2 編集の具体的方針(1)

2年 2巻				その後、お元気ですか。次にお会いできる「きかい」を楽しみにしています。	
	121	上	変更	「お目にかかる機会」「性能のよい機械」の「きかい」のように、同じ読みで意味の異なる熟語を「同音異義語」という。	2 編集の具体的方針(2)
	121	下	変更	練習問題【資料2-13】	2 編集の具体的方針(2)
	122		変更	漢字に親しもう3【資料2-14】	2 編集の具体的方針(2)
2年 3巻	232		変更	文中のゴシック体は「」で囲む。(以降P246まで同様) 各用語ごとに、下段の説明を分割して掲載する。	2 編集の具体的方針(2)
	232	上11	変更	「文節どうしの関係と文の成分」とし、その後に第1星印を付け、次の文を追加する。 * () 内は連文節の場合をあらわす。	2 編集の具体的方針(2)
	232	16-1 8	変更	「文節どうしの関係」と見出しを付けて掲載【資料2-15】	2 編集の具体的方針(2)
	233	上 1-9	変更	自立語と付属語、活用の有無とし、それぞれの語を掲載。【資料2-16】	2 編集の具体的方針(2)
	234		変更	動詞(他動詞・自動詞)・形容詞・形容動詞の中段の例を、それぞれ分割して掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	235	中1	変更	(例)として、説明の後に掲載	2 編集の具体的方針(2)
	235	中 6-9	変更	中段は以下のように変更し、上段9行目の後に挿入。 (例)「友達」 「友達」が(主語)→来る。 「友達」は(主語)→来る。 「友達」も(主語)→来る。	2 編集の具体的方針(2)
	235	16	変更	形式名詞の(例)は以下のように変更。 (例)次の場合の「こと」・「とき」など。 彼の「こと」を知っている。 一年生の「とき」に出会った。	2 編集の具体的方針(2)
	235	下	変更	「文の中での名詞の働き」は以下のように変更 「友達」と(連用修飾語) 友達と本を読む。 「友達」の(連体修飾語) 友達の本を借りる。 「友達」だ(述語) 彼と私は友達だ。 「友達」(独立語) 友達、それは人生の宝物だ。	2 編集の具体的方針(1)
	236~ 248	下	変更	▼は「練習」とする。(以降p248まで同様)	2 編集の具体的方針(2)
	236	8	変更	程度の副詞の(例)の*の文頭に「次のように」の語句を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	236	下	変更	(「静かな」と「大きな」の品詞)の例は以下のように変更。 1. 言い切りの形が「・・・だ。」 静かな→静かだ→活用があるので形容動詞 2. 「大きな」という形のみ。 大きな→大きだ→活用がないので連体詞	2 編集の具体的方針(2)
	238	表	変更	表に(動詞の場合の活用形と主な続き方)と見出しを付けて掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	238	表	変更	活用表内の表記の仕方(以降P250まで同様) う→う(一) よう→よう(よ一)。→(…)	2 編集の具体的方針(2)
	239	表	変更	動詞の活用のローマ字部分はカナで表記。	2 編集の具体的方針(2)
	240	左表	変更	▼次の動詞の活用を考え、表に書き込もう。 → 練習 次の動詞の活用の種類と語幹、活用語尾を書いてみ	2 編集の具体的方針(2)

2年 3巻				よう。 走る 走れる	
	241	左表	変更	▼次の形容詞・形容動詞の活用を考え、表に書き込もう。 → 練習 次の形容詞・形容動詞の語幹、活用語尾を書いてみよう。 美しい（形容詞） 自由だ（形容動詞）	2 編集の具体的方針(2)
	241	下 4-5 7-8	変更	形容詞全体を「 」で囲み、以下のように読み方も示す。 「暑く」と ございます →「あつー」 ございます 「楽しく」と ございます →「楽しゅー」 ございます	2 編集の具体的方針(2) *和語は音便変化の場合、点字では「ー」と表記する。
	245	下	変更	例の説明を以下のように変更。 「ない」を「ぬ」に置き換えられる。→助動詞 このところ、雨が降ら「ない」。→「降らぬ」。 「ない」を「ぬ」に置き換えられない。→補助形容詞外はまだ暗く「ない」。→「暗くぬ」。	2 編集の具体的方針(2)
	246	下	変更	助詞に線を引こう。→助詞を抜き出そう。 問題は分から書きせずに書く。	2 編集の具体的方針(2)
	256	欄外	変更	*はそれぞれ、以下のヶ所に掲載。 一つ目の注は、該当する欄にそれぞれ挿入。 二つ目の注は、「れる・られる」の欄に挿入。	2 編集の具体的方針(2)
	251～ 253		変更	漢字の練習【資料2-17】	2 編集の具体的方針(2)
	258	上	変更	メールの図を削除し【資料2-18】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
2年 4巻	263	下	変更	図を削除し【資料2-19】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	264	上	変更	図を削除し、点図を挿入。	2 編集の具体的方針(1)
	264	中	変更	図を削除し【資料2-20】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	264	下	変更	図を削除し【資料2-21】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	265	上17	変更	本文を以下のように変更 1. プレゼンテーションソフトや…活用して、伝わりやすくなるよう工夫する。 2. 原稿を読み上げるのではなく、相手の反応を確認しながら話す。	2 編集の具体的方針(2)
	267	1.	変更	図を削除し【資料2-22】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	267	2.	変更	図を削除し以下の文章を掲載。 何について比較するのかを明確にして情報を整理する。	2 編集の具体的方針(1)
	267	4.	変更	図を削除し【資料2-23】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	267	5.	変更	図を削除し【資料2-24】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	267	6.	変更	図を削除し【資料2-25】のように変更	2 編集の具体的方針(1)
	267	7.	変更	図を削除し以下の文章を掲載。 登場人物の関係が複雑な小説を読むときには、人物相関図を書くとうれしい。	2 編集の具体的方針(1)
	267	8.	変更	図を削除し、【資料2-26】のように変更。	2 編集の具体的方針(1)
	270	上11	変更	図などで視覚的に示すこと→図などで示すこと	2 編集の具体的方針(1)
	270	上15	変更	矢印、色、模様を→矢印や符号を	2 編集の具体的方針(2)

2年 4巻	270	上	変更	(例) 体育祭の会場案内図、と見出しだけ残し、案内図は削除	2 編集の具体的方針(1)
	270	下	変更	(例) 国語辞典の比較、と見出しを付けて、掲載。 【資料2-27】	2 編集の具体的方針(2)
	272	上	変更	手紙の前に、(改まった手紙の例)と見出しをつけて掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	272	上	変更	封筒のイラストを削除し、以下の文章を追加する。 (2) 封筒の記入例 「封筒の表面には、相手の郵便番号、住所、名前を書く。裏面には、差出人の郵便番号、住所、名前を書く。点字で書かれた郵便を出す際は、封筒の一部を開封し、切手は貼らずに、表面の見やすい位置に「点字用郵便」の文字を記載する。」	2 編集の具体的方針(1)
	273	上	変更	イラストは削除し、以下の文章を追加する。 (はがきの記入例) 「はがきの表面には、相手の郵便番号、住所、名前、を書く。裏面に伝えたい内容を記す。差出人の郵便番号、住所、名前は、表面か裏面どちらかに書くようにする。」	2 編集の具体的方針(1)
	273	上	変更	返信のときは・・・→墨字で返信するときは 【資料2-28】 例の後に以下の文章を掲載。 ☆点字で返信する場合、出欠などの返事を書き、封書などで返信しても良い。	2 編集の具体的方針(2)
	273	下	変更	図を削除し【資料2-29】のように掲載。	2 編集の具体的方針(1)
	280	下	削除	図1・図2を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	281	17	変更	「図3が～わかる。」→その結果、三羽が異なる深さで餌を捕っていることがわかった。	2 編集の具体的方針(2)
	282	上	削除	図3を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	283	中2	削除	「上の記録計は～記録できる。」の一文を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	292～ 295		変更	(出身)は作者の出身地、(舞台)は作品の舞台となっていることを示す。なお、歴史的仮名遣いで書かれた作品は点字の古文表記にしたがって書き表した。	2 編集の具体的方針(2)
	296	上	変更	類、関、対をそれぞれ(類義語)、(関連)、(対義語)に書き直し掲載。【資料2-30】	2 編集の具体的方針(2)
	297	上	変更	上段の例を【資料2-31】のように掲載	2 編集の具体的方針(2)
2年 5巻	126	上	変更	イースター島の地図は、図1図2として点図で表す。	2 編集の具体的方針(1)
	130	上5	変更	表にまとめよう→まとめよう	2 編集の具体的方針(1)
	131	上5	変更	二百字(点字32マス11行)程度	2 編集の具体的方針(2)
	131	下	変更	(論理の展開を吟味する観点) 【資料2-32】	2 編集の具体的方針(2)
	133	中	変更	【資料2-33】	2 編集の具体的方針(2)
	135	上10	変更	六百字から八百字(点字32マス33行～44行)程度	2 編集の具体的方針(2)
	134	下	変更	【資料2-34】	2 編集の具体的方針(2)
	136～ 137	上	変更	(意見文の例)－意見、根拠、意見の順。 ※各段落の後の番号は段落番号を示す。 点線枠の後に(各段落の説明)として欄外の説明を記載する。	2 編集の具体的方針(2)
	138		変更	漢字に親しもう4 【資料2-35】	2 編集の具体的方針(2)
	140～ 143	下	変更	【資料2-36】	2 編集の具体的方針(2)
	148～	下	変更	漢語は現代仮名遣いで表記し、漢語に添えられた読み	2 編集の具体的方針(2)

2年 5巻	156			は削除する。	
	148	下	変更	「源氏略系図」「平家略系図（p284）」を掲載。 「平家物語の主な戦い」の地図は主な合戦地を×で示す点図で表し、戦いの名称と年月は古い順に番号をつけて掲載する。【資料2-37】	2 編集の具体的方針(1)
	160	上6	変更	原文から抜き出したり、159ページの図を使ったりして→原文から抜き出して	2 編集の具体的方針(2)
	161	上14	変更	三百字（点字32マス17行）程度	2 編集の具体的方針(2)
	162～ 166 163	欄外	削除 変更	訓点符号付きの漢文は掲載しない。 一句が五文字のものを→一句が漢字五文字からなるものを 七文字のものを→漢字七文字からなるものを	2 編集の具体的方針(2) ※点字では漢文を書き下し文で学ぶ。
	164	13	削除	「然」は「燃」と同じ。	2 編集の具体的方針(2)
	164	15	変更	「二句十字」に、次のように注をつけ、P163「絶句」の脚注を参照するように示す。 （脚注）この詩は五言絶句である。（点字教科書該当ページの脚注参照）。 「碧」は→「みどり（へき）」は 然=赤 → 燃える（赤）	2 編集の具体的方針(2)
	168	10	変更	一句の字数が五字であるか七字であるか→一句の字数が漢字五字であるか七字であるか	2 編集の具体的方針(2)
		12	変更	形や意味の→白文で書かれた形や意味の	
2年 6巻	171～ 174		削除	写真のキャプションは削除する。	2 編集の具体的方針(1)
	175	18	削除	たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。→たくさんの手が描かれている。手のポーズは・・・	2 編集の具体的方針(1)
	179	12	削除	君もいつか・・・自分の目で見てほしい。	
	170	3	変更	「ルネサンス」の語に p171 L2～4のキャプションを脚注としてつける。 （脚注）14世紀頃にイタリアから始まった、古典文化を理想として文化の革新を目指した運動をルネサンスという。人間や自然をありのままに表現した芸術作品が数多く生み出された。	2 編集の具体的方針(2)
	178	13	変更	「最後の晩餐」の修復」の語に p172 L2～4のキャプションを脚注としてつける。 （脚注）レオナルドの「最後の晩餐」には、1977年から1999年にわたって、大規模な修復が施された。かびやほこりなどの汚れや、後世の画家による加筆部分を取り除かれた結果、描かれた当初の状態にかなり近づいたとされている。	
	180	上11	削除 変更	年表、写真のキャプションは削除する。 過去の作品①②を見て→6世紀に作られた作者不詳のモザイク画や14世紀初めに描かれたジョットの作品を見て カスターニョの作品③に見られるように→15世紀中ごろに描かれたカスターニョの作品では	2 編集の具体的方針(1)
182	上3	変更	①「最後の晩餐」のどんなところに「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているのか、本文から読み取ろう。	2 編集の具体的方針(2)	

2年 6巻	183	9	変更	二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ→二つの文章を参考にして		
	182	下	変更	文章の種類、内容、テーマ、取り上げている観点、文章の構成、表現（述べ方）の特徴など、何について比較するかを明確にして情報を整理する。		
	184～ 185	3 7	変更 変更	付箋などに書き出す→書き出す 二百字（点字32マス11行）程度	2 編集の具体的方針(2)	
	186		変更	漢字に親しもう5【資料2-38】	2 編集の具体的方針(2)	
	187	上	変更	吹き出し部分を、うさぎA・B・C・D、かめ とし、2行目と3行目の間に掲載。	2 編集の具体的方針(2)	
	188		変更	キャプションは削除するが、ステゴロフォドンの復元図のキャプションはp189 L6の「ゾウ」の注として記載する。 「ゾウ」の語の脚注 日本では宮城県船岡町（現在の柴田町）で発見されたステゴロフォドン（ゾウの一種）が最初で、1800万年前から1600万年前の地層で見つかっている。	2 編集の具体的方針(2)	
	202	脚注	変更	同音異義語（信実・真実）に次のように注を付す。 信実（「しん」は「しんらい」の「しん」） 真実（「しん」は「まこと」）	2 編集の具体的方針(2)	
	214		変更	漢字に親しもう6【資料2-39】	2 編集の具体的方針(2)	
	215	上	変更	Aチーム（負けたほう）「来年□ がんばろう！」 Bチーム（勝ったほう）「来年□ がんばろう！」	2 編集の具体的方針(2)	
	217	上9	変更	六百字（点字32マス33行）程度	2 編集の具体的方針(2)	
	220	上	変更	音声で伝える→音声で伝える場合 文字で伝える→文字で伝える場合	2 編集の具体的方針(1)	
	221	上18	変更	漢字・平仮名・片仮名、句読点を適切に用いる。 →分ち書きに注意し、句読点を適切に用いる。	2 編集の具体的方針(2) ※書き言葉の性質を学ぶ教材として、点字で学ぶ生徒にとって必要な内容にとどめた。	
	222	上2 ～3	削除	文章を読むとき、また、・・・注意しよう。	2 編集の具体的方針(2)	
	222	上6 ～9	変更	下記のように変更し、1行目の前に掲載。 学校の前をバスが通る。 バイオリン教室に通う。 「とおる」と「かよ__う」には同じ漢字が用いられている。	2 編集の具体的方針(2)	
	223	下	変更	練習問題【資料2-40】	2 編集の具体的方針(2)	
	225	上7	変更	必要な写真や図があるか考える。	2 編集の具体的方針(1)	
	226	上 下	変更 削除	【資料2-41】 「視覚的に」の語を削除。	2 編集の具体的方針(2) 2 編集の具体的方針(1)	
	227		変更	【資料2-42】	2 編集の具体的方針(2)	
	3年 1巻	9～10		変更	「思考の地図」 第1学年の【資料1-1】参照	2 編集の具体的方針(2)
		26	下	変更	評価しながら聞く【資料3-1】	2 編集の具体的方針(2)
29		欄外	追加	「朋」の注に、以下の文を追加。 ここでは、「朋友」の「朋」を用いている。	2 編集の具体的方針(2) ※点字では漢文を書き下し文で学ぶ。	
29～30			削除	訓点符号付きの漢文は掲載しない。	2 編集の具体的方針(2)	

3年 1巻	31	上4	追加	漢字だけで「たてに」書かれた…に変更	2 編集の具体的方針(2)
	31	下	削除	訓点符号付の漢文は掲載しない。 「なお、『温故而知新』の『而』や、『可以為師矣』の『矣』などのように、」を削除。	2 編集の具体的方針(2) ※点字では漢文を書き下し文で学ぶ。
	32	上6	変更	左は→次の文章は	2 編集の具体的方針(2)
	34	上11	変更	付箋やカードに→カードなどに	2 編集の具体的方針(2)
	34	下	変更	文章の種類を選んで書こう 文章の種類を決める 【資料3-2】	2 編集の具体的方針(2)
	35	下	削除	「図表や写真、イラストの大きさや配置に注意する」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	36		変更	修学旅行記の紙面例【資料3-3】	2 編集の具体的方針(2)
	37	上	削除	「3写真やイラスト、図表などの配置を工夫する」を削除。	2 編集の具体的方針(1)
	37	上	変更	文字の大きさや色などを→レイアウトや符号など	2 編集の具体的方針(2)
	37	上	削除	学習の窓 魅力的な紙面を編集するには 文字の大きさや太さ、配列、色、書体の効果を考えて書く。を削除。	2 編集の具体的方針(2)
	38	上図	変更	イラストを削除して、以下のように変更した。 朝食(チョウ ショク) - ともに音読み 朝日(あさ ひ) - ともに訓読み 毎朝(マイ あさ) - 「マイ」は音読み、「あさ」は訓読み 朝晩(あさ バン) - 「あさ」は訓読み、「バン」は音読み	2 編集の具体的方針(1)
	39	上	変更	複数の読み方をする熟語【資料3-4】	2 編集の具体的方針(2)
	39	下	変更	練習問題【資料3-5】	2 編集の具体的方針(2)
	40		変更	漢字に親しもう1【資料3-6】	2 編集の具体的方針(2)
	42	図	変更	「ゴリラの生息域」の図を点図化する。ただし、原典の図の中の国境線は描かない。	2 編集の具体的方針(1)
	51	中	変更	(抽象) ←1 2 3→ (具体) 1. 努力することは大切だ。 2. 僕は、水泳部の練習を通して、努力することの大切さを学んだ。 3. 2年生の時にスランプに陥り、・・・	2 編集の具体的方針(2)
	60		変更	漢字に親しもう2【資料3-7】	2 編集の具体的方針(2)
	61	上図	削除 変更	図を削除し、文を以下のように変更。 買い物に出かけた男の子。結果は左の絵のとおりであった。→買い物に出かけた男の子は、スイカを三つと桃を三つ買ってきた。 母親 「スイカは一つでよかったのに。」 男の子 「えっ、三つって言ったよ。」	2 編集の具体的方針(1)
	62	上2	変更	文章に触れているか振り返って→文章があるか考えて	2 編集の具体的方針(2)
	63	上4	変更	一線部→「 」内	2 編集の具体的方針(2)
63	下5	変更	該当部分に一線を引いてみよう→該当部分を抜き出してみよう。	2 編集の具体的方針(2)	
68	上2	削除	「写真」を削除。	2 編集の具体的方針(1)	
68	上3	削除	「表に」を削除。	2 編集の具体的方針(1)	
68	上	変更	やってみよう【資料3-8】	2 編集の具体的方針(2)	
76	下	変更	1. (すずめを見て) 昔の人「うつくし」	2 編集の具体的方針(2)	

3年 1巻				現代の人「かわいい」 年配の人「おしゃれなかつぱだね。」 若い人「すてきなレインコートですね。」	
3年 2巻	77	上	変更	下の文章→次の文章	2 編集の具体的方針(2)
	78	上1	変更	()に→次の空欄に	2 編集の具体的方針(2)
	78	下11	変更	「ぼく」(僕)のように、→「僕」という漢字が	2 編集の具体的方針(2)
	81	上7	変更	印象的なページを見せたり→印象的なページを紹介したり	2 編集の具体的方針(2)
	99	欄外	追加	脚注に追加。 ルントウ - 「ルン」は「うるうづき」の「うるう」、 「トウ」は五行の「土」の意味。	2 編集の具体的方針(2)
	113	上9	変更	下段の→次の	2 編集の具体的方針(2)
	116	下4 下14	変更	上の文章→前の文章	2 編集の具体的方針(2)
	116	下6 下7	変更	②→第二段落	2 編集の具体的方針(2)
	116	下9	変更	③→第三段落	2 編集の具体的方針(2)
	118	下	変更	○と×の記号を削除し、以下のように変更。 1. 気が置けないー遠慮の必要がなく、気軽に付き合うことができる。(誤った意味ー油断ができず、用心して付き合わなければならない。) 2. 情けは人のためならずー人への親切は、巡り巡ってやがて自分に返ってくる。(誤った意味ー一人に情けをかけることは、その人のためにならない。)	2 編集の具体的方針(2)
	120～ 121	下	変更	練習問題【資料3-9】	2 編集の具体的方針(2)
	122		変更	漢字に親しもう3【資料3-10】	2 編集の具体的方針(2)
	210	中3 -7	変更	各用語ごとに、下段の説明を掲載する。各説明の後に、例文を言葉の単位ごとに区切って掲載。	2 編集の具体的方針(2)
3年 3巻	210	中11	変更	「文節どうしの関係と文の成分」とし、その後に第1星印を付け、☆()内は連文節の場合の後に「を表す。」を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	210	中16 -18	変更	「文節どうしの関係」と見出しを付けて掲載。 【資料3-11】	2 編集の具体的方針(2)
	211	中4 -9 ・下	変更	自立語と付属語、活用の有無とし、それぞれの語と例文を【資料3-12】のように掲載。	2 編集の具体的方針(2)
	212	中	変更	文頭の×印→(不自然な例)、○印→(推敲の例1)・(推敲の例2)とし、例文の前行に記載。↓印の後の×印・○印は削除。⊕・透は、(主部)(主語)・(述部)(述語)の別を書く。	2 編集の具体的方針(2)
	212	下	変更	▼印→練習(以降P214まで同様)	2 編集の具体的方針(2)
	213	中 1- 6	追加	例文の前行に(意味のまとまりが分かりにくい例)を、6行目に(推敲の例)を補う。	2 編集の具体的方針(2)
	214	上 7-1 1	変更	△印→(あまり使われない例)、○印→(適切な例)、×印→(不適切な例)とし、例文末に記載。	2 編集の具体的方針(2)
	214	下	変更	練習【資料3-13】俳句は現代仮名遣いで書く。	2 編集の具体的方針(2)
	215	上	変更	1 言葉の単位	2 編集の具体的方針(2)

3年 3巻	2- 5		次の文を、(例)にならって(文節)、(単語)ごとに区切って書こう。 (例) 明け方に雨が降った。 (文節) 明け方に 雨が 降った (単語) 明け方 に 雨 が 降っ た とし、(1)～(5)の文を分ち書きせずを書く。	
215	下	変更	3 単語の分類 次の a. b. の2文の単語ア. ～チ. について、後の(1)～(4)の問いに記号で答えよう。 a. 手をきれいに洗い、それから昼食を取った。 b. ああ、あの美しい山にいつか登りたい。 ア. 手 イ. を ウ. きれいに エ. 洗い オ. それから カ. 昼食 キ. を ク. 取っ ケ. た コ. ああ サ. あの シ. 美しい ス. 山 セ. に ソ. いつか タ. 登り チ. たい	2 編集の具体的方針(2)
216	上	変更	▼印は1. 2. とし、リード文を変更。 1. (1)～(8)がそれぞれ同じ品詞のグループになるように、 <input type="checkbox"/> に入る単語を後の(語群)から選ぼう。 2. 次のア. イ. の「 」で示した語の品詞を後の a. b. から選んで、記号で答えよう。	2 編集の具体的方針(2)
217	上下 上	変更	▼印は1. 2. とし、リード文を変更。 1. 次の「 」で示した…後の語群から選んで…。	2 編集の具体的方針(2)
217	下	変更	2. 次の「 」で示した語について、形容詞か形容動詞かを答えよう。また、活用形を後のア. ～オ. から選んで、記号で答えよう。 ▼印は1. ～3. とし、1. のリード文を変更。 1. 次の文から助詞と助動詞をそれぞれ抜き出そう。	2 編集の具体的方針(2)
219～ 220	表	変更	活用表内の表記の仕方 基本形(語幹)と活用語尾 活用形と続き方 未然形 う→う(ー) よう→よう(よー) 終止形 ー。→…。 ○印 → 一線 形容動詞の活用表の後に第1星印を付け、次の文を補う。「☆表中に()で示した語形は、ほとんど用いられないか、用いられ方が限られるものである。」	2 編集の具体的方針(2)
221	備考 3・ 6 13	変更	右以外の→五段・サ変以外の 右以外の→五段以外の	2 編集の具体的方針(2)
223～ 224	漢字	削除	小学校6年生で学習した漢字一覧は削除	2 編集の具体的方針(1)
226～ 227	下・ 上	変更	問題文中の傍線部・波線部は、一線部(1)・一線部(2)とする。	2 編集の具体的方針(2)
227	下2	変更	50字以内で→50字(点字32マス3行)以内で	2 編集の具体的方針(2)
227	下9	変更	100字程度で→100字(点字32マス6行)程度で	2 編集の具体的方針(2)
228	下4	変更	▼上の文章は…。→次の文章は…。とし、この後に「	2 編集の具体的方針(2)

3年 5巻	131	上	変更	六百～八百字（点字32マス33行～44行）	2	編集の具体的方針(2)
	131	下	変更	（観点ごとに、問いと考えを書き出した例） 【資料3-27】	2	編集の具体的方針(2)
	132	上	変更	（構成を考える）【資料3-28】	2	編集の具体的方針(2)
	132		変更	（批評文の例）一序論、本論、結論の順。 ※各段落の後の番号は段落番号を示す。 点線枠の後に（各段落の説明）として欄外の説明を記載する。	2	編集の具体的方針(2)
	134		変更	漢字に親しもう4【資料3-29】	2	編集の具体的方針(2)
	135	下	変更	上の話し合いの→次の話し合いの	2	編集の具体的方針(2)
	136	上	変更	下段の例を参考に→次の例を参考に	2	編集の具体的方針(2)
	137	下	変更	吹き出し部「放課後、老人ホームに…」 「毎朝、挨拶運動…」の各行頭に（意見）を追加し、「かえって…」 「その根拠は…」の冒頭部の△印は（不適切な例）とする。【資料3-30】	2	編集の具体的方針(2)
	139	下	変更	座標軸で整理した例→箇条書きで整理した例【資料3-31】	2	編集の具体的方針(1)
	144～ 145		変更	p145の和歌「玉の緒よ…」と和歌の説明は、p144新古今和歌集の説明の後に掲載する。	2	編集の具体的方針(2)
	145	下	削除	六歌仙の説明を削除し、p147左下 六人の和歌の名手（僧正遍昭、在原業平、…）に6人の名を追加。	2	編集の具体的方針(2)
	153	下	変更	掛詞一聞く（耳で聞く）と菊（花）、待つ（人を待つ）と松（樹木）、眺め（眺望）と長雨（長い雨）	2	編集の具体的方針(2)
	156～ 157		変更	おくのほそ道「俳句地図」は点図にし、本文の後に挿入。俳句は解説とともに、深川から順を追って番号を付ける。	2	編集の具体的方針(1)
	158	上1	追加	脚注の「三代の栄耀」の後に補足説明を入れる。 「えよう」は「えいよう」が転じたもの	2	編集の具体的方針(2)
171	6	変更	線や符号を書き込みながら→抜き出しながら	2	編集の具体的方針(1)	
3年 6巻	171	7	変更	書き込んだところを→抜き出したところを	2	編集の具体的方針(1)
	172～ 173		変更	文中の「グラフ」をすべて「グラフ（表）」に変更。	2	編集の具体的方針(1)
	173	上	変更	二百字（点字32マス11行）以内	2	編集の具体的方針(2)
	173	上	変更	人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか【資料3-32】	2	編集の具体的方針(2)
	173	中	変更	（小論文の例）【資料3-33】	2	編集の具体的方針(2)
	174～ 175		変更	漢字のまとめ【資料3-34】	2	編集の具体的方針(2)
	176		変更	漢字に親しもう5【資料3-35】	2	編集の具体的方針(2)
	186	18 19	削除	「雨季」とも書く。を削除。 （乾季）を削除。	2 2	編集の具体的方針(2) 編集の具体的方針(2)
	202	9	変更	、や. →コンマやピリオド	2	編集の具体的方針(2)
	208		変更	漢字に親しもう6【資料3-36】	2	編集の具体的方針(2)

4 参考資料

【資料1】「点字の書き方」(全学年の第3巻に掲載)

1 点字について(「日本点字表記法 2018年版」より)

1. 点字の考案

目の不自由な人のための文字は、古くからいろいろと試みられてきたが、現在用いられている6点点字が考案されたのは、1825年のことである。フランスのルイ・ブライユによって考案された。当時、ブライユは、世界で最初の盲学校であるパリ盲学校の生徒であった。ブライユが16歳の時のことである。

ブライユが点字に初めて触れたのは、パリ盲学校の校長からシャルル・バルビエの12点点字を紹介されたときのことである。ブライユは、自分自身で読み書きすることのできる新しい文字に触れ、抑えがたい感動を覚えたという。

彼は、このバルビエの12点点字にまず習熟し、その欠点を批判し、2年あまり後には、この12点点字を二つに分けた6点点字の構想をまとめるに至った。時に1823年、ブライユは14歳の少年であった。その後、2年の歳月をかけて、1825年に現在の6点点字を完成した。

フランス政府が、このブライユの点字を目の不自由な人の公式文字として認めたのは、1854年のことである。ブライユの点字が、我が国で初めて盲学校の生徒に紹介されたのは、1887(明治20)年のことである。当時、東京盲啞学校の教師であった小西信八が、アルファベットを用いたローマ字式の点字を生徒に教えたのである。この生徒は1週間ほどで自由に読み書きができるようになったという。

点字の有用性に自信をもった小西信八は、早速東京盲啞学校の職員や生徒に、ブライユの点字を日本語に翻案することを呼びかけた。これに応じて翻案に努力したのが、同じ東京盲啞学校の教師であった石川倉次であり遠山邦太郎であった。また当時、東京盲啞学校の生徒であった伊藤文吉や室井孫四郎らは、先生方に劣らぬ1案をまとめ上げている。そうしたものの中から、石川倉次のまとめ上げたものが、1890(明治23)年に、日本の点字として選ばれ制定されたのである。

ブライユ少年がフランスで点字の考案に努力したことや、我が国において伊藤・室井などの生徒が点字の翻案に努力した事実は、深く心に留めておきたいことである。

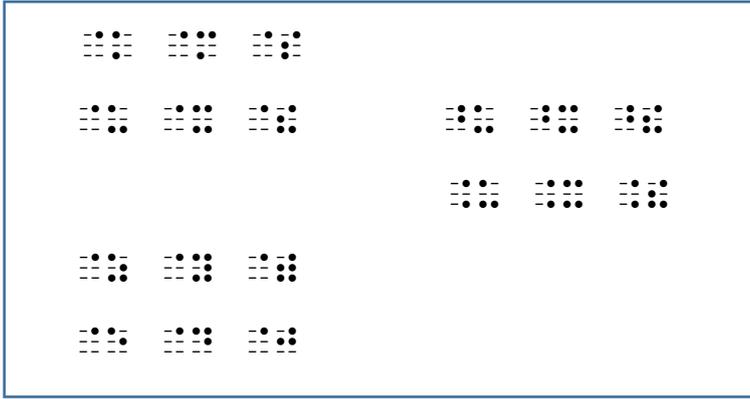
2. ブライユの点字配列表

6つの点の組み合わせからなる点字は、点の組み合わせの数からすると63通りの組み合わせができる。次の一覧表は、その63通りの組み合わせに規則性を持たせて配列したもので、ブライユの点字配列表と呼ばれている。

ブライユは、この表を元にしてアルファベット・数字・アクセント・句読点・楽譜などを決めた。我が国の点字も、基本的にはこの配列表にならっており、石川倉次の翻案になる50音の配列の仕方も、原理的にはこの配列表の原則にならって作成されている。

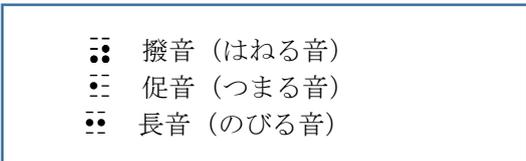
ブライユの点字配列表

⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
⠪	⠫	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳
⠴	⠵	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠺	⠻	⠼	⠽	⠾	⠿	⠺	⠻	⠼
⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
⠪	⠫	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳
⠴	⠵	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽



(3) 撥音・促音・長音

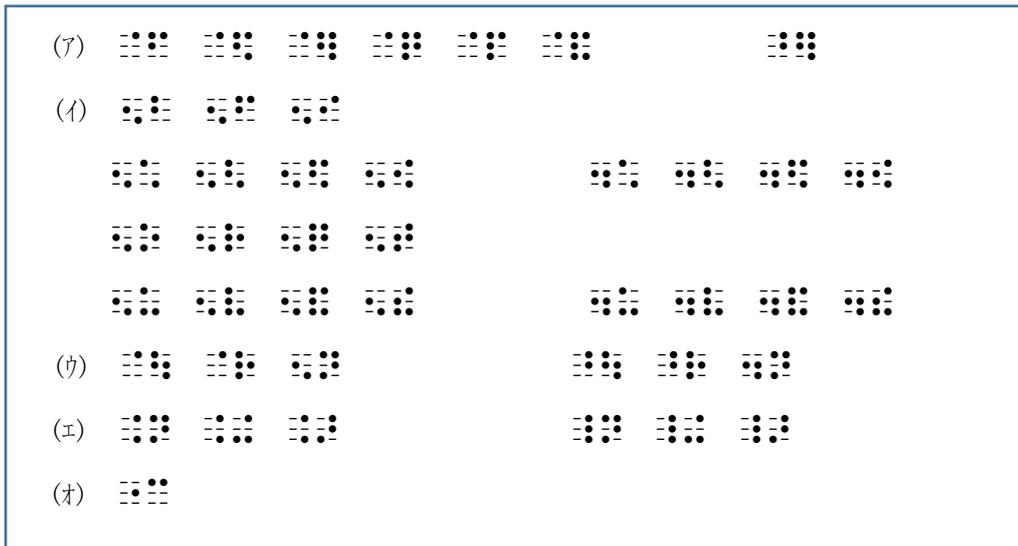
促音は墨字では「ツ」の小書きで表すが、点字の促音符は「ツ」の形とは無関係である。



(4) 特殊音

外来音などに用いられる特殊音も清音の仮名に前置点を付けて表している。墨字表記との対応から五つのグループに分類できる。

- (ア) イ列の仮名に小書きの「エ」を添えて表す音は、拗音に発音が近いので4の点 (ㇿ) を前置する。
- (イ) 「ウ ク ツ フ」にア行の小書きの仮名を添えて表す音には、2 6の点 (ㇿ) を前置する。
- (ウ) 残りのア行の小書きの仮名を添えて表す音のうち、「ス テ」には4の点 (ㇿ)、「ト」には2 6の点 (ㇿ) を前置する。
- (エ) ヤ行の小書きの仮名を添えて表す音には、4 6の点 (ㇿ) を前置する。
- ※ 以上の音が濁音化する場合には、それぞれの前置点に濁点を加える。
- (オ) 「ヴ」は墨字と同様にㇿㇿと表す。



囲みの符号の内側は続け、外側は囲まれた部分とその前後との分かち書きの原則に従う。

⋮ * * ⋮ 第1カギ
⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ ふたえカギ
⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ 第2カギ

⋮ * * ⋮ 第1カッコ
⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ 二重カッコ
⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ 第2カッコ

⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ 第1指示符
⋮ ⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ ⋮ 第2指示符
⋮ ⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ ⋮ 第3指示符

⋮ ⋮ * * ⋮ ⋮ 点訳挿入符
□ □ ⋮ ⋮ □ * * □ ⋮ ⋮ 第1段落挿入符
□ □ ⋮ ⋮ □ * * □ ⋮ ⋮ 第2段落挿入符

(3) 関係符号

つなぎ符類と波線は、前後を続けて表す。

棒線（ダッシュ）・点線・矢印類は、前後を一マスあけて書き表す。棒線と点線は、増やすことは可能だが減らすことはできない。矢印類は長さの増減が可能である。

空欄符号や文中注記符の前後は、分かち書きの規則に従う。空欄符号は、長さを増減することができる。

星印類・小見出し符のあとは、一マスあけて書く。

小見出し符類は前に続け、後ろは一マスあける。

詩行符類は前に続け、後ろは二マスあけて書く。

⋮ 第1つなぎ符
⋮ ⋮ 第2つなぎ符
⋮ ⋮ 波線
⋮ ⋮ 棒線
⋮ ⋮ ⋮ 点線
⋮ ⋮ ⋮ 右向き矢印
⋮ ⋮ ⋮ 左向き矢印
⋮ ⋮ ⋮ 両向き矢印
⋮ ⋮ ⋮ 空欄符号
⋮ ⋮ 文中注記符
⋮ ⋮ 第1星印
⋮ ⋮ 第2星印
⋮ ⋮ 第3星印
⋮ ⋮ □ 第1小見出し符
⋮ ⋮ □ 第2小見出し符
* * ⋮ □ □ 詩行符
* * ⋮ ⋮ □ □ 二重詩行符（連の変わり目）
⋮ スラッシュ

(4) 伏せ字とマーク類の符号

伏せ字やマーク類を点字で用いる場合は、それらの符号の用法に従って、適切に用いる必要がある。また、マーク類も同様に、適切な場所に説明とともにそれらの符号を使うなど十分な配慮が必要である。

⋮ ⋮ 伏せ字の○

小数は小数点を用いて2.5のように書き、分数は一般書では読み上げる順に書き表す。

およその数で数字が重なるときは、それぞれに数符を付けてマスあけをせずに書き、読点や中点は省略する。

1.25 1と3分の2
2、3日 34、5さい
4百5、60人

「2・26事件」のように月と日の省略を表す場合も、数字を重ねて続けて書き、中点などは用いない。

5・1 メーカー 5・4運動

数字の後に続く単位などはマスあけをせずに続けて書くが、その最初の文字がア行またはラ行の時には、数字との間に第1つなぎ符を挟んで書く。

2回 3割引 15才
10円 5リットル

数字を含む言葉の書き方は、数字で書き表す場合と、仮名で書き表す場合の二通りに分けられる。一般的には、数量や順序の意味がある場合には数字を用いて書き、それらの意味が薄くなった慣用句では仮名を用いて書くことが多い。従って、同じ文字の語句でも、数量や順序の意味の有無によって数字と仮名に書き分けることになる。

(1円玉) 関東 (一円)

リレーは が よい
数量や順序を表す語でも、和語の場合には仮名で書く。
一つ (ひとつ) 三日 (みっか) 七草 (ななくさ)

人名や地名などの固有名詞は、数字を用いずに仮名で書き表す。

一郎 九州 三宮

ただし、地番など、数量や順序の意味を明らかにする必要がある場合には、固有名詞であっても数字を用いて書き表す。

1丁目3番地 町立第一中学校

4. アルファベットと外国語の書き表し方

文字として用いるアルファベットは、外文字を前置して書き表す。略称などで2字以上の場合も、最初の外文字に続けて書く。その時、それらのアルファベットが大文字である場合は、外文字の後に大文字を付け、2字以上大文字が続く場合は、二重大文字を付けて書き表す。

A SNS NHK

1語中のアルファベットと数字との間は、マスあけせずに一続きに書く。

A4サイズ ビタミンB6

ひと続きに書く1語中の仮名と、アルファベット・数字の間は、続けて書き表す。また、アルファベットと仮名の間は、第1つなぎ符を挟んで続けて書き表すが、助詞や助動詞が続く場合には一マス空けて書き表す。

数kg チョロQ 40℃
T字路 B型
CDを聴く PTAの総会
僕が見たのはUFOだった

外国の語句や文を日本語の文章中に引用する場合には、その前と後ろを外国語引用符で囲む。

点字のことを、 (braille) という。

外国語引用符と外文字とを混同して用いないように十分注意が必要である。例えば、 (I

T) なら、情報技術の略称になるが、 it (i t) とすると、3人称単数の人称代名詞となる。
 ホームページやEメールのアドレス、SNSのアカウントなどを書き表す場合は、その前後ろをアドレス囲み符号 it ～ it で囲む。

5. 古文の書き方

古文の書き方は、原則として、和語は歴史的仮名遣いで書き表し、漢語は現代語に準じて書き表す。しかし、目的や必要によっては、すべてを現代仮名遣いで書き表したり、すべてを歴史的仮名遣いで書き表したりするなど、きめ細かく書き分けてもよい。

ただし、文語文法は現代文の文法とは異なる部分があるので、注意が必要である。

(原則に従った書き方)

ハルハ アケボノ。 ヤウヤウ シロク ナリユク ヤマギハ、 スコシ アカリテ、
 ムラサキダチタル クモノ ホソク タナビキタル。

(現代仮名遣いに直した書き方)

アヤシガリテ ヨリテ ミルニ ツツノ ナカ ヒカリタリ。 ソレヲ ミレバ
 3ズンバカリナル ヒト、イト ウツクシューテ イタリ。

6. 漢文の書き方

漢文は、書き下し文に直して書き表す。点字では、書き下し文での学習となる。

漢語の構造を明らかにしたり、漢詩の語数などを明確にしたりという必要がある場合には、訓点符号等を用いて書き表すこともできるが、これは参考例である。

(通常書き方 — 書き下し文)

しゅんみん あかつきを おぼえず
 しょしょ ていちょうを きく
 やらい ふううの こゑ
 はな おつる こと する たしょう

(参考例 — 訓点符号を用いた書き方)

しゅん みん ず it おぼ it え it あかつき it を
 しょ しょ き it く it てい ちょう it を it
 や らい ふう う it の こゑ
 はな お it つること し it る た しょう

3 分ち書きと、自立語内部の切れ続き

1. 分ち書き

墨字で書かれた文章には、仮名文字で書かれた文章と漢字仮名交じりの文章がある。幼児用の本などは前者であり、一般の小説や評論文などの文章は後者である。

仮名だけで書かれている文章は、文を読みやすくするために語のひとまとまりごとに区切って間をあけて書かれている。こうした書き方を「分ち書き」という。これに対して漢字仮名交じりの文章では、漢字によって語の区切りが比較的分かりやすくなっているために分ち書きをしないのが普通である。

点字は、仮名と同様に音を表す文字であるために、分ち書きをして、読みやすく、意味も分かりやすくする必要があるので、そこで点字で文章を書く場合には、分ち書きをする。

点字の分ち書きの仕方は、一般に「文節分ち書き」と呼ばれているもので、文節の句切れ目ごとに区切って、間（マス）をあけていく方法である。この時、文節ごとに間をあけた部分のことを「マスあけ」と呼んでいる。

点字の分ち書きは、文節分ち書きであるので、原則的には、自立語はその前をあけて書き、付属語は自立語に続けて書く。しかし、マスあけの中には、文節の感覚が捉えにくいなどの理由で以下のような誤りやすいものがあるので、注意が必要である。

(1) 補助動詞・補助形容詞

花が 咲いて いる。→「サイテイル」は誤り。
雨が 降って くる。→「フツテクル」は誤り。
話を 聞いて みよう。→「キイテミヨー」は誤り。
本を 読んで もらう。→「ヨンデモラウ」は誤り。
我が輩は 猫で ある。→「ネコデアル」は誤り。
今日は 寒く ない。→「サムクナイ」は誤り。
君が きて くれたので さびしく なく なる。→「キテクレタノデ」「ナクナル」は誤り。

(2) 形式名詞

よむ ときに
かく ことを
ぼくの おもう ところでは
こんな ふうに
ドアを あけた まま

(3) 意味の違いによって書き分ける必要があるもの

このあいだ(先日)彼にあったよ。
この 間に 挟んで おいたよ。

どうして(なぜ) 答えないの?
どう したら 答えるの?

風が 強まって きた。 そのうえ、 あめも ふりだした。
提出物は その うえに おいて ください。

2. 自立語内部の切れ続き

自立語はひと続きに書くのが原則であるが、長い複合語などの場合は、自立語内部も区切ってある方が読みやすくなる。そこで、和語・漢語・外来語を通して、3拍以上の独立性の強い意味のまとまりが二つ以上あればその境目で区切り、2拍以下の意味のまとまりはそのどちらかに続けて書き表すことを原則とする。

(1) ひと続きに表す自立語の例

ア. 区切ると意味の理解を妨げる短い複合語や略語

朝日 水たまり 綱引き 鼻風邪 読み書き
学割 国連 マスコミ パソコン

イ. 接頭語や接尾語などを含む語

真夜中 裏番組 大歓迎 子どもたち 効果的 散歩がてら モノカルチャー パートナーシップ

ウ. 助詞などを含んでも、1語としてまとまっている複合語

髪の毛 床の間 手のひら 山の手

エ. 区切ると理解を妨げる動植物名や理化学用語

水芭蕉 柊南天 ムカシトンボ ポリエチレン

オ. 複合動詞や複合形容詞(動詞の連用形や形容詞の語幹に接続する動詞や形容詞)

笑いころげる 歩き回る 近寄る 重苦しい

カ. サ変の動詞のうち、以下のような語

a. 促音化・撥音化などの音韻変化をしたり、連濁を起こしたりしたもの

達する 接する 発する
重んずる 軽んずる 先んずる
応ずる 命ずる 信ずる

b. 独立性の弱い1字漢語について一体化したもの

関する 比する 有する 与する

c. サ変以外の活用を持つもの

愛する 死する 属する 感ずる 演ずる

キ. 2語の連合により連濁を起こしたもの
株式会社 目覚まし時計 湯飲み茶碗 鏡開き

(2) 区切って書く自立語の例

ア. 3拍以上の独立性の強い意味のまとまりが二つ以上ある複合名詞

内閣□総理□大臣 国語□辞典 入学□試験 自由□研究 ガイド□ブック 曇り□ガラス

イ. 2拍以下でも独立性が強く語の意味の理解を助ける複合名詞

歯科□医師 交通□事故 土地□改良 県□体育館 彼□自身

ウ. 接頭語など独立性の弱い要素であっても意味の理解を助ける場合や、発音上の切れ目がある場合

満□3歳 丸□1日 非□人道的 超□現実的

国語や□数学□等々

エ. 名詞や副詞に続くサ変の複合動詞

勉強□する 具体化□する いらいら□する しっかり□する

一致□団結□する 自画□自賛□する 意味□する 損□する

オ. 年月日などはその段階ごとに区切り、その後が続く語も意味を明確にする必要がある場合

2021年□4月□4日

午前□1時□23分□56秒

12月□31日□18時□19分□発

1メートル□60センチメートル□強

15キログラム□減

カ. 二つ以上の独立性の強い意味のまとまりからなる繰り返し言葉

むかし□むかし 遠い□遠い ぱちり□ぱちり ぽつり□ぽつり

3. 固有名詞内部の切れ続き

固有名詞内部の切れ続きは、原則として自立語内部の切れ続きと同じであるが、特に、次のような点に注意する必要がある。

(1) 人名の名字と名前の間は区切って書き表すが、外国の人名の内、2拍以下の名字や名前は他と続けるか、つなぎ符類をはさんで続けて書いても良い。

夏目□漱石 松尾□芭蕉 李□太白 杜甫

レオナルド□ダ□ビンチ (レオナルド□ダビンチ、レオナルド□ダ $\ddot{\text{v}}$ ビンチ)

(2) 人名の後に敬称・尊称・官位などが続く場合、それが独立した意味のまとまりを持っている時は区切って書き表す。ただし、愛称・短縮形・一族を表す氏名(うじな)などは続けて書き表す。

小林□さん 田中□様 鈴木□殿 佐藤□君 石川□倉次□氏

お月さま 魚屋さん 真奈ちゃん むっちゃん 藤原氏

(3) 地名・国名・組織または団体名・会社名などは、3拍以上の意味のまとまりごとに区切る。ただし、2拍以下でも独立性が強い場合は、区切って書き表す。

大和□郡山市 土佐□清水市

アメリカ□合衆国 中華□人民□共和国

襟裳□岬 三浦□半島 十国□峠 華嚴の□滝

社会□福祉□協議会 大阪□市役所 全国□盲学校長会 東京□ドーム

4 表記符号の用い方

表記符号とは、語句や文の関係を明らかにしたり、語句の引用、強調、説明あるいは文の省略などを明らかにしたりして、文章を読み取りやすくする符号のことである。この符号を用いる場合は、点字の触読性に配慮した上で、墨字との対応を図る必要がある。

1. 句読符の用法

(1) 文の終わりには句点を続けて書き、次の文との間を二マスあける。句点の後にかぎ類や括弧類の閉じ

符号がくる場合には、句点と閉じ符号との間は続ける。

雨が降った。風も吹いた。

後ろから「おーい。」と呼ばれて、(だれだろうか。)と思った。

- (2) 会話文や脚本・小説などで、表現を豊かにするために用いられる疑問符や感嘆符は、句点と同様、文の終わりにくる場合には後ろを二マスあけ、文中にくる場合には、後ろを一マスあける。疑問符や感嘆符の後ろにかぎ類や括弧類の閉じ符号がくる場合は、これらと閉じ符号との間は続けて書く。

「どうしてこうなったの？君は知っている？」

「しまった！おそかったか。」

「えっ？」と聞いて、彼はげげんそうな顔のまま見つめていた。

あっ！と思わず息を飲み込んだ。

- (3) 読点は、文の構成を明らかにして誤読を避けるために、次のような場合の後につけ、その後ろを一マスあける。

ア. 副詞的語句や形容詞的語句の前後

やはり、思っていたとおりでした。

静かな、明るい、春の日のことでした。

イ. 語や意味が付着して誤読のおそれがある場合

よく晴れた夜、空を見上げました。

ウ. 読みの間を示したい場合

カン、カン、カンと半鐘が鳴りました。

エ. 対話や引用文を示すカギの開き符号の前など

その時、「気が進まないよ。」と彼は言いました。

- (4) 中点は、対等な関係で並ぶ語句の区切り目に書き、その後ろを一マスあける。ただし、墨字において、地名や肩書きなどの段階の区切り、重ね数字や略称を表すアルファベットの間、外来語などの複合語の内部の切れ続きを表す中点は、点字では原則として用いない。

春の七草とは、せり・なずな・ごぎょう・はこべ・ほとけのぎ・すずな・すずしろのことである。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (東京・神田の町並み)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (狂言師・野村萬斎)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・7・5)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・15) 事件

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (テーブル・スピーチ)

2. 囲み符号の用法

(1) カギ類

第1カギやふたえカギは、会話または引用する文や語句の前と後ろを囲んで用いる。カギ類の内側は続け、外側は分かち書きの原則に従う。

先生は、「みんなの前で話すには『伝えようとする気持ち』が何より大切である。」とお話しになった。

(2) カッコ類

語句や文の直後に注記をする必要がある場合には、第1カッコを用いる。第1カッコの中でさらにカッコを必要とする場合には、二重カッコを用いる。カッコ類の内側は続け、外側は分かち書きの原則に従うが、直前の語句の説明である場合には、開きカッコの前は原則としてその語に続ける。

2020年は、点字制定130周年⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 1890年⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 明治23年⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ に石川倉次の案が採用されたため⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠にあたる。

(3) 指示符類

文や語句の一部を強調したり指定したりする場合に指示符類を用いる。試験問題などに用いられている下線などは、この指示符類によって書き表すことが多い。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ それは⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 困ったと、彼は眉をひそめた。

(4) 点訳挿入符

同音異義語などで、点字では意味がわかりにくいと思われる語句の直後に、点訳上の説明を加えたことを明確にする場合に用いる。点訳挿入符の用法は、カッコ類と同様である。

(5) 段落挿入符

本文の要約や前文、詳細な説明やト書き、または段落単位の引用文などを本文とは段落を変えて書き表す場合に用いる。この場合、行頭から二マスあけて三マス目から開き符号を書き表し、符号の内側は一マスずつあける。終わりが句点などの場合でも、一マスあけるだけで良い。

3. 関係符号の用法

(1) つなぎ符

本来ひと続きに書くべき言葉の中に、数字やアルファベットが含まれていて、しかも誤読される恐れのある場合には、数字やアルファベットの後に、第1つなぎ符を入れて書き表す。また、漢字の訓読みなどで、漢字と送り仮名部分とを区別したいときには、第2つなぎ符を入れて書き表す。

100 〰〰〰〰〰〰 円玉 〰〰〰〰〰〰 線
あか 〰〰〰〰〰〰 るい よ 〰〰〰〰〰〰 む

(2) 波線

場所・数量・時間などの範囲を表す場合に用い、範囲を表す語句の間に挟み込み、マスあけをしないで書き表す。

2020年 〰〰〰〰 2025年
東京 〰〰〰〰 大阪
10時 〰〰〰〰 12時

(3) 棒線（ダッシュ）

次のような場合に用い、符号の前と後ろを一マスずつあける。ただし、棒線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。

ア. 対等な関係にある文や語句の対照

のれんに腕押し 〰〰〰 糠に釘

イ. 前の文や語句の補足説明

明日 〰〰〰 子どもの日 〰〰〰 私たちは遊園地に出かける。

ウ. 挿入句

いよいよ明日はこの子牛 〰〰〰 今私のそばですやすやと眠っている 〰〰〰 と、お別れだ。

エ. 感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略

まあ！ なんとということを 〰〰〰。

(4) 点線

感情の余韻や時間的隔たり、または漠然とした省略などを表現しようとする場合に用いる。ただし、点線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。また、語頭または語中の省略に点線を用いる場合には、点線の後ろはマスあけをしなくても良い。

そうはいつでも □ 〰〰〰〰〰〰
〰〰〰〰 的考え

(5) 空欄符号

試験問題などにある、隠された語句や文または記号などを表す場合に用いる。空欄符号の前と後ろは、分かち書きの規則や他の表記符号の用法に従う。墨字で空欄の中や傍に記号等が添えてある場合には、それらを空欄の前に出し、空欄符号に続けて書き表す。

次の 〰〰〰〰〰〰 に適当な語を入れよ。

「舞姫」の著者は、(ア) 〰〰〰〰〰〰 時代の(イ) 〰〰〰〰〰〰 である。

(6) 矢印類

文や語句を対照させたり、時間の流れや変化の方向を表す場合に用いる。符号の前と後ろは、一マスあ

ハッシュタグヲ ツケテ クダサイ。(点字に関する投稿には「#点字」か「#braille」のハッシュタグを付けてください。)

エ. ⠠* (アスタリスク) は、電話のプッシュボタンで0の左側のボタンを表すマークなどに対応する。後ろに助詞や助動詞などが続く場合は、一マスあける。ひと続きに書き表す語の場合には、第1つなぎ符をはさむ。

墨字で文中注記符や星印を意味するアスタリスク符号には、それらを意味する点字記号を用いる。

オ. ⠠@ (アットマーク) は、価格の表示や「・・・で」の意味に対応して用いる。前後ろを一マスあけて書き表す。

ショーヒン 5コ ⠠200⠠エン (商品5個@200円)

タベモノ フェスタ ⠠マクハリ メッセ (食べ物フェスタ@幕張メッセ)

【資料2】 書き方の形式 (全学年共通)

書き方の形式

1. 作文一般

題は、1行目に書く。題の書き出しは、通常は5マス目であるが、題の長さによって、7マス目、あるいは9マス目から書いてもよい。なお、2行以上にわたる場合には、2行目以降を1行目の書き始めからさらに二マス 下げて書く。

名前は、題を書いた次の行の行末か、1、2マスあくように書く。

ページは、点字用紙の表の右上に書く。32マス点字盤であれば、紙押さえにページを入れるマスがある。

本文は、名前を書いた次の行の行頭3マス目から書き始める。段落の変わり目では「行替え」をし、3マス目から書き始める。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って一マス目から書き続けることを「行移し」という。行移しは、マスあけの箇所で行うことを原則とする。行末にゆとりがあっても、一続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、次の行に移して書く。ただし、括弧類や点訳挿入符の開き符号の前、波線やつなぎ符類の後ろ、助動詞の「ようだ・ようです」、「そうだ・そうです」(伝聞)、「ごとし」、「らしい」、「みたいだ」、「です」、「だ」などから、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって一マスあけか二マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

ア. 一続きに書き表すべき数字やアルファベット

イ. 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字

ウ. ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの(これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。)

ア. 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など

イ. 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の閉じ符号

ウ. つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

ア. 数符・外字符などの前置符号

イ. 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の開き符号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。

2. 詩・短歌・俳句など

自由詩は3マス目から書き始めるが、定型詩は5マス目から書き出してよい。

行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、二マス又は4マスを単位として差をつけて書き

表す。詩の1行が点字で2行にわたるときには、2行目は書き始めの行と二マス単位として差をつけて書き表す。

短歌は、書き下しの場合3マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は3マス目から、下の句は5マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの短歌は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、3マス目または5マス目から書き始める。

(定型詩の例)

□□□□ナノハナバタケニ□イリヒ□ウスレ、
□□□□ミワタス□ヤマノハ□カスミ□フカシ。
□□□□ハルカゼ□ソヨフク□ソラヲ□ミレバ、
□□□□ユーヅキ□カカリテ□ニオイ□アワシ。
(タカノ□タツユキ) □□

(自由詩の例)

□□□□オレワ□カマキリ
(カマキリ□リュージ) □□

□□オー□ナツダゼ
□□オレワ□ゲンキダゼ
□□アマリ□チカヨルナ
□□オレノ□ココロモ□カマモ
□□ドキドキ□スルホド
□□ヒカッテルゼ

□□オー□アツイゼ
□□オレワ□ガンバルゼ
□□モエル□ヒヲ□アビテ
□□カマヲ□フリカザス□スガタ
□□ワクワク□スルホド
□□キマッテルゼ

(詩行符を用いて書いた例)

□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡≡
・ ・ ・ □□キョーモ≡□□ワタゲヲ≡□□トバシマス≡≡

(短歌の例)

リョーカン□
□□カスミ□タツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモヲト□テマリ
ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□
□□イシガケニ□コドモ□7ニン□コシカケテ
□□□□フグヲ□ツリオリ□ユーヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□
□□ナガク□ナガク□ワスレシ□トモニ
□□アウゴトキ
□□ヨロコビヲ□モテ□ミズノ□オト□キク

(俳句の例)

マサオカ□シキ□

□□イクタビモ□ユキノ□フカサヲ□タズネケリ□

カワヒガシ□ヘキゴト一□□

□□□□アカイ□ツバキ□シロイ□ツバキト□オチニケリ

3. 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付ける、または人物名の後ろを二マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は繰り返して何回も出てくるので、頭文字などによる略称を用いるのもよい。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例1) 第2小見出し符使用

□□□□□リヤオー□モノガタリ

□□□□ダイ1マク□□リヤオーノ□キューデン

□□☺☺□アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントーニ

3ニンノ□ムスメ☺☺ゴナリル、□リーガン、□コーディーリア☺☺、□ソノタ、

ジューシン□ケントヲ□ハジメ□オオゼイノ□カシंगा□トージョー□スル。□☺☺☺

□□リヤオー☺☺☺□ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ、□フランスオート

バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□ヨメニ□ホシイト□イッテ□キテ

オラレル。□□ソノ□ゴヘンジヲ□スル□マエニ、□コンゴ□ダレガ□ワシニ

モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー。□□ココロガケノ

ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□リョーチヲ□サズケタイ。

□□ゴナリル☺☺☺□ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□オトーサマノ□コトヲ

オモッテ□イマス。

□□コーディーリア☺☺☺□☺☺ドクハク☺☺□□ワタシワ□ナント□イオー。

ココロカラ□オツカエ□シタイノダケド。

(例2) 行頭から

リヤ□□☺☺チズヲ□サシナガラ☺☺□□ヨク□イッタ。□□オマエニワ、□コノ

□□キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□ヤロー。□□サア□リーガン、

□□オマエヲ□ドーダ。

リーガン□□オヤニ□コーコー□スルノワ□コノ□タノシミ、□ソノ□タノシミ

□□イガイノ□モノワ□ミナ□ワタシノ□テキデ□ゴザイマス。

コーディ□□☺☺ドクハク☺☺□□コンドワ□ワタシノ□バンダワ。□□ワタシノ

□□キモチワ□コトバデワ□イエナイ。□□ソーダ、□ワタシワ□ダマッテ

□□イヨー。

4. 手紙

点字の手紙は、宛名や日付及び差出人名などを前付けとして最初に書くのが一般的である。この場合、まず1行目に相手の名前を書く。日付は、次の行に、相手の名前より二マスまたは4マス程度下げて書く。自分の名前は3行目に書くのが普通であるが、日付と同じ行に書いても差し支えない。名前の後は、行末まで二マスくらいあくようにする。

また、墨字の手紙のように、宛名、日付、差出人名を手紙の後付けとして最後に書くこともある。その場合には、日付、差出人名、宛名というように書く順序が変わるので注意する。

内容の書き方は自由であるが、前文（時候の挨拶、相手の安否を尋ねるなど）、本文、末文（終わりの挨拶など）と分けられる場合には、それぞれ行を改めて書くとよい。

なお、手紙を折って封筒に入れる場合は、封筒の大きさに合わせて、25の点（☺☺）を1行入れると点を傷めずに折ることができる。たとえば、32マスの点字盤では、点字用紙の裏面の4・9・14行目に入れて四つ折りにするか、裏面の5・12行目に入れて三つ折りにするとよい。

点字の郵便物は、切手を貼らずに、その位置に墨字で「点字用郵便」と書き、右肩3分の1程度を開封にすると、無料で郵送することができる。

(例1) 前付けとして書く一般的な書き方
サトー□タロー□サマ
□□□□□ 2021 ネン□ 4 ガツ□ 15 ニチ

スズキ□ジロー□□

(例2)
□□サトー□タロー□サマ

□□スズキ□ジロー□□

(例3) 墨字同様に後付けとして書く場合
・ ・ ・ □デワ□ゴケンコーヲ□オイノリ□イタシマス。
□□□□ 2021 ネン□ 4 ガツ□ 15 ニチ

スズキ□ジロー□□

サトー□タロー□サマ

5. 日記類

個人的な日記には、一定の形式はない。個人の好みに応じてどのように書いてもよいものである。一般的には、最初に日付・曜日・天候などを書く。

日付については、次のような略記法を用いることもできる。

例えば、2021年4月15日を、

□□□□□
□□□□□
□□□□□

のように略記する方法もある。また、年数は、各月の1日だけにするとか、1月1日だけにするとなどの工夫をして書く。

日付に続く曜日・天候などは、1、2マスあけて書いたり、第1括弧で囲んで書いたりする。

□□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□
□□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□
□□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□ □□□□□

学級日誌などの公的な日誌類は、記入する項目が予め決められていることが多い。そうした場合には、項目毎に行を改め、項目の後は二マスあけるか、小見出し符を用いるとよい。また、毎日同じ項目を繰り返して書かずに、項目を記号や番号に置き換えるなどの工夫を行うのも良いことである。

いずれにしても、継続して書くことが前提の日記類の場合には、ファイリングなどでその都度整理しておくことが大切である。

6. ノート類

ノートは教科や書くべき内容の違いによって、とり方も異なるものであるが、学習に役立てるためにとるものである。そこで、後から活用しやすいようにそれぞれ工夫して、検索しやすい形式でとっておく必要がある。また、一枚ずつ書き足していくものなので、ページ、書いた日付、単元名、内容などを最初に書く習慣を付けるようにすると整理しやすい。また、ページ行を使って、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

一般に、ノート類は大項目・中項目・小項目とに分けて箇条書きにすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。一般的には、大きい項目から順に、

- 何も符号をつけない数字 1
- ピリオドをつけた数字 1.
- 第1カッコをつけた数字 (1)
- ア. イ. ウ. (ア) (イ) (ウ) 等の記号

のように用いる。(数字の代わりにアルファベットなどを用いる場合も、これにならう。) 数字に符号をつけない場合は、数字の後を二マスあけて項目や見出しを書く。数字に句点やカッコなどの符号をつける場合は、一マスあけでよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を9マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに二マスずつ前を出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を一マス目から書き、項目が小さ

くなるごとに二マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目にそろえることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類・矢印・棒線・点線・波線類などの符号や、数に関する略記法を使用して、復習する際など後で活用しやすい方法を工夫する。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが、最も大切である。教科書の各題材末にある（ノート例）などを参考にするとよい。

（例1）

シンシュン
シンタトノデアイ
ボク（シュンタ）ボクガイル
ニテイルトコロ
シンチョー、クセゲノハエカタ、
スキナモノ、キライナモノ、
…

（例2）

シンシュン
シンタトノデアイ
…

7. 答案

点字では、一般的には試験問題と解答用紙が別になっている。したがって、答案を書くにあたっては、次のようなことに注意しなければならない。

- (1) 解答用紙の最初の用紙には名前を書き、用紙すべてにページを付ける。
- (2) 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に 問い と書いてあれば、答案にも 問い と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点や第1括弧が付いていれば答案の番号にもそれぞれ句点や第1括弧を付けて同じように書く。
- (3) 問題番号と解答との間は、二マスあけて書く。
- (4) 問題はどこから解いてもよいが、順番を変えて解答する場合には、それが何番のどの問いの答えであるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。
- (5) 答えは1問ごとに行替えをして書く。
- (6) 書き間違いをした場合には、その部分を で消して書き直すか、行替えして訂正と書いた上で改めて答えを書く。
- (7) 答案を見直して答えを書きかえる場合には、紙を替えて訂正と書いた後に、問題番号をはっきりと書いてから改めたい答えを書く。

8. 簡条書きや選択肢などの書き方の工夫

簡条書きの番号と本文の内容とを区別したい場合、試験問題の選択肢などでいち早く選択肢記号を確認したい場合などは、以下のような書き方が効果的である。特に選択肢などでは、行頭にある選択肢の記号の後ろを二マスあけて内容を書き出し、2行目は番号や記号の次のマスまで下げて書くことにより、指で縦になぞって探すことが容易になる。

（例1）簡条書きの番号と本文の内容とを区別できる例

タマネギはくし形に、エンジンはイチョウ形に切る。
牛肉は一口大の食べやすい大きさに切る。
を、油をひいたフライパンで丁寧に炒める。

（例2）選択肢の記号と問題本文を区別し、指を縦に動かして選択肢の記号を検索しやすい例

資料から読み取れることを、a.～d. の記号で答えよう。
「アスリート」を主に使う人の割合は、全体の半数を超えて

【資料1-1】 (1年～3年 P9～10)

思考の地図 — 思考の旅に出かけよう

場面や目的に応じてさまざまな思考法(考え方)を使い、課題を解決したり、自分の考えを深めたりしていこう。



「思考を広げる」

どのように情報を集めようか。
テーマはこれでよいだろうか。
他の見方はないかな。



(広げる) (思い出す・ふり返る)

1. マッピング

思いついた考えや物事を → や — でつないで広げていく。

(→ ○ページ、2巻○ページ)

2. ブレーンストーミング

アイデアを広げるための話し合い。

(→ 5巻 グループ・ディスカッション)



「思考を整理する」

どんな方法で情報を整理しよう。
図式化すると、自分の考えが整理されるな。みんなでいっしょに考えることもできる。



(比較する・分類する)

1. 軸

基準となる軸を設けて、物事の程度などを示す。

(→ ○ページ)

(程度の強弱)

(強い) ←————→ (弱い)

2. 観点

目的に合った「観点」を決め、表に整理する。

(→ ○ページ)



※ A～Cは比較するもの

観点1 観点2 観点3

A	…	…	…
B	…	…	…
C	…	…	…



3. 共通点・相違点

複数の物事の特徴を、共通点と相違点に分類する。

(→ ○ページ)



Aの特徴 - …



「さあ、思考の地図をもって出発しよう。」

※2、3学年は1学年と同様。相違点の処理は以下

【2学年】

1. 軸

軸を設けて、物事の程度や度合いなどを示す。

(→ ○ページ)

(程度)

効果の高低…

(高い) ←————→ (低い)

実現性の高低…

(高い) ←————→ (低い)

(度合)

「○○」に対する評価を0～5の段階を設けて表す。

(順序立てる・関係づける)

1. 順序・流れ・関係

物事の順序や流れ、変化などを矢印や囲みなどを用いて表す。

(→ ○ページ・○ページ・○ページ)



「課題」

(原因1)

→ (解決策1)

利点…

問題点…

(原因2)

→ (解決策2)

利点…

問題点…



第1段落 →

第2段落 →

第3・第4段落 →

第5段落



※人物相関図削除

※「思考を深める」具体と抽象、根拠の吟味、仮説・検証の図は削除

【3学年】

※ブレーストーミング、ワールドカフェの図は削除

1. 軸 2年生と同様。原典にあわせて、「効果の高低」は「効果の大小」に

(程度)

効果の大小…

(大きい) ←————→ (小さい)

※「思考を深める」原因と結果、意見と根拠、具体と抽象の図は削除

【資料1-2】 (1年 P17下8-20)

- 1. アクセントによるちがい
 (例) いま(共通語の場合)
 「い」にアクセント→いま(現在)
 「ま」にアクセント→いま(リビングルーム)
- 2. イントネーションによるちがい
 (例) 図書館に行く「の」
 「の」を下げる→説明
 「の」を上げる→質問

【資料1-3】 (1年 P18)
(ノート例)

板書や発言、話し合いの内容、自分の考えや気がついたことなどを書く。

- ⋮⋮⋮⋮ (水)
野原はうたう
(目標)
- 1. 詩を声に出して工夫して読む。
- 2. 友達の発表の工夫に気づく。

漢字注意！

「詩」人・「詩」集 歌の歌「詞」と同じ音の漢字。形が違う。

(言葉メモ)

あした「こそ」→明日はきっと

音読の工夫

- 1. 読む速さーゆっくり はやく
- 2. 声の大きさー大きく 小さく
- 3. 間の取り方ー長く 短くなど

(私の工夫) あしたこそ

とんでいこう→力強く。決意を表す。

音読発表会

(友達の発表を聞いて)

「おれはかまきり」(森)

おうなつだぜ/おれはげんきだぜ

→「おうっ」「おれはっ」となるように 初めの「お」を強く明るくー元気のよさが出ていた。

...

決意(名)

自分の考えをはっきり定めること。決心。「固く決意する」

(授業のまとめ)

「野原はうたう」の詩を音読した。友達の……次に生かしたい。

- 1. 強調したい部分は……間を取るとよい。
- 2. 声の調子を変えて読むことで・・・

...

.....

1. 言葉・漢字など一気になる言葉や表現、……辞典で調べるとよい。
2. 授業のまとめー学習の終わりに学んだことを整理してまとめる。

【資料1-4】 (1年 P19)

国語辞典

.....

きろく___きん

きろく (めい・・・スル) 1. 後々まで伝えたい事柄を書き記すこと。また、その書き記したもの。「出来事を・・・する」 2. 競技などの成績や結果。特に、その最高のもの。レコード。「世界・・・」「・・・を破る)」

キログラム (フランス語 k i l o g r a m m e) メートル・・・

.....

柱一点字辞典では頁行にある。
見出し語ー五十音順に並んでいる。柱などを参考に探す。
文法事項
言葉の意味ー複数ある場合は、……考える。
用例などー言葉の使い方や、……参考にできる。

【資料1-5】 (1年 P19)

漢和辞典

.....

「ろく」…16画 (総画数)、部首「かねへん (8画)」、部首以外の部分の画数8画 (音) ろく、(訓) なし →漢字は音と訓で表す。

漢字の成り立ちー意符の「金 (金属)」と音符の「ろく」とを合わせた字。

「こく (きざ_む)」と音が似ているために、「きざむ」「しるす」の意味に使われるようになった。

意味ー(1)書き記す。写し取る。とどめ残す。(用例)ー「録」音、記「録」。

(2)書き記したもの。写し取ったもの。(用例)ー言行「録」、語「録」、付「録」。

熟語ー「録音」CDやテープなどに音を記録すること。

.....

【資料1-6】 (1年 P28)

(展開の例)

- 場面1 発端 (出会い)
- 場面2 山場 (事件)
- 場面3 結

【資料1-7】 (1年 P32)

(国語辞典の比較)

比較するものーA社 B社 C社

観点ー1. 発行年 2. 語数 3. 特徴

.....

1. 発行年

A社 2021年

B社 2018年
C社 2009年

2. 語数

A社 75、000語
B社 70、000語
C社 30、000語

3. 特徴

A社 新語・流行語も多数収録
B社 初版が50年前で歴史がある。
C社 小型で安価。小学生向け。

.....

【資料1-8】 (1年 P33)
(手紙とメールの共通点と相違点)

.....

(共通点)
文字、思いや用件を伝える
(相違点)

手紙→手書き、届くのに時間がかかる、丁寧な印象
メール→活字、すぐ届く、やり取りしやすい、効率的な印象

.....

(段落の構成)

.....

第1段落→
第2段落→
第3段落・第4段落→
第5段落

.....

【資料1-9】 (1年 P33)
(新聞を作る手順)

.....

内容と構成を決める → 記事の担当を決める →
本で調べる、人に聞く → 記事を書く → 清書する

.....

【資料1-10】 (1年 P35)
(マッピングで書き出す)

.....

森の図書館
→〇〇駅南口のどんぐり公園内→小学生のころから通った
→〇〇駅南口のどんぐり公園内→噴水広場の先→森の中
→2階建て→赤い屋根
→外にテーブルとベンチ→木の下で読書・外のテーブルでよく読んだ
→絵本・児童書→世界各国の絵本・司書さんおすすめ
→開館時間

.....

「起」床（お__きる） 優「越」感（こ__す） 「超」人的（こ__える）
「回」転数（まわ__る） 「固」形物（かた__める） 幼稚「園」（その）
「開」会式（ひら__く） 時「間」割（あいだ） 玄「関」先（せき）

（漢字の部首）

※各部首は点線文字で表し、漢字の例は以下のように変更する。

にんべんー「キュウ（やす__む）」・「キョウ（そな__える）」・「シ（つか__う）」
ひとやねー「コン（いま）」・「カイ（あ__う）」・「ヨ（あま__る）」
ひとー「ジン（ひと）」 これらは「ひと」という部首でまとめられる。

【資料1-13】（1年 P39 下）

（練習問題）

1. 次の(1)～(8)の部首は、「 」で示した漢字に使われている。後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。

- (1)いとへんー日本「縦」断（たて）
- (2)おおがいー金「額」（ひたい）
- (3)たけかんむりー劣「等」感（ひと__しい）
- (4)にくづきー腎「臓」の検査。
- (5)しかばねー高「層」ビル
- (6)そうにようー「起」訴（お__きる）
- (7)くにながまえー頑「固」（かた__まる）
- (8)いしへんー「破」片（やぶ__る）

2. 次の(1)～(4)の「 」で示した部分の漢字について、部首と、後に（ ）で示した説明に注意して確かめよう。

- (1)ころもー服「装」（よそお__う） 「襟」元（きん） 手「袋」（たい）
- (2)みず さんずいー「氷」山（こおり） 「汚」染（よご__す） 安「泰」
- (3)こころー「恭」順（うやうや__しい） 苦「悩」（なや__む） 「懸」命（か__ける）
- (4)ひ にちー「暗」黒（くら__い） 「明星」（「みよう あか__るい」と「じょう ほし」）
上「昇」（のぼ__る）

【資料1-14】（1年 P40）漢字に親しもう1

（小学校で習った漢字）

1. 次の言葉を使って、文章を作ろう。

映画 劇場 座席 当日券

（中学校で習う漢字）

2. 次の「 」で示した熟語を読もう。

- (1)あの画家の絵はどれも「傑作」だ。
- (2)速やかに「楽譜」に目を通す。
- (3)「水墨画」を見て、心が和む。
- (4)演技の「稽古」を見に多くの人が集う。
- (5)「童謡」を聞いて、気分が和らぐ。
- (6)休日は専ら「陶芸」を楽しむ。

3. 次の各文の「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) てへん

- ア. 足首を「捻挫」した。（「ねん」「ぎ」）
- イ. 「打撲」して湿布した。（「だ」「ぼく」）
- ウ. 要求を「拒」否する。

- エ. 書類を一「括」して送る。
(2) いとへん
ア. 健康を「維」持する。
イ. 地図で「緯」度を調べる。
ウ. 「紡績」工場を見学する。(「ぼう」「せき」)

【資料1-15】(1年 P53)
(根拠と意見をつなぐ例)

.....
(根拠) - 客観的な事実 信頼性の高い情報・データ
全校生徒320人の……(アンケート結果から)。

(意見)
Aさん 中学校で……増やすべきだ。
Bさん 中学校で……増やす必要はない。

(意見と根拠をつなぐ考え)
Aさん 毎日2時間も……原因になるから。
Bさん 毎日2時間も……身につくはずだから。

.....
【資料1-16】(1年 P55)
(私の好きなこと)

.....
(初め)
(1) 導入
みなさん好きなことは何ですか。
私→写真をとること
(中)
(2) 説明
きっかけ→誕生日に祖父のカメラをもらったこと
今→身の回りのものをとるのに夢中
お気に入り→祖父母が公園で談笑している写真
(終わり)
(3) 結び
とり方のコツを知りたい人はぜひ声をかけてほしい。
ありがとうございました。

.....
【資料1-17】(1年 P56)
(スピーチメモの例)

.....
私の好きなこと
「11さい」
1. 祖父から
2. ねこ、くも、夕焼け

「これまでに」

1. 公園、祖父母
2. 春、笑顔

「ファインダー越し」
仲のよさ、瞬間

「食べ物を」
とり方のこつ

「これで」

.....

初めに題を書く。
続きを思い出せるように書き出しの言葉を「 」に書く。
まとまりごとにキーワードを書く。

【資料1-18】（1年 P58）漢字に親しもう2
（小学校で習った漢字）

1. 次の言葉を使って、文章を作ろう。
優勝 強敵 鉄棒 体操

（中学校で習う漢字）

2. 次の「 」で示した熟語を読もう。
 - (1) 「優勝圏」内で、3チームが競い合う。
 - (2) 初めての試合で「二塁手」を任される。
 - (3) 体操で大技を決め、「喝采」を浴びる。
 - (4) 「砲丸投げ」の練習に時間を割く。
 - (5) 弓道の「審判」を務める。
 - (6) 次の試合に勝てば「三連覇」だ。
3. 次の「 」で示した部分は、同じ漢字である。
 - (1)
 - ア. 海「浜」公園
 - イ. 「浜」辺を散歩
 - (2)
 - ア. 優勝に「匹」敵する実力
 - イ. 三「匹」の子豚
 - (3)
 - ア. 自信を「喪」失
 - イ. 「喪」中はがき
 - (4)
 - ア. 「酢」酸ナトリウム
 - イ. 黒「酢」の料理
 - (5)
 - ア. 「臼」歯の生えかわり
 - イ. 石「臼」でひいたそば粉
 - (6)
 - ア. 「皆」勤賞
 - イ. 参加の「皆」様
 - (7)
 - ア. 光「沢」のある生地

イ. 「沢」 登り用のシューズ

【資料1-19】 (1年 P61上)

情報がほしい

1. 図書館で調べる。

本で調べる。(日本十進分類法 蔵書検索システム レファレンスコーナー 図書リスト・目録)
ジテン・図鑑・年鑑などで調べる。

新聞・雑誌で調べる。

映像資料で調べる。

2. 人にきく。

身近な人にきく。

アンケートを行う。

公的機関に問い合わせる。

3. インターネットで検索する。

検索機能を使う。

報道機関や専門機関のウェブサイトを開覧する。

【資料1-20】 (1年 P62)

「アスリート」が「運動選手」を上回る(平成27年度「国語に関する世論調査」の結果の概要から)

表1 全世代の割合 (%)

「アスリート」を主に使う	46.0%
「運動選手」を主に使う	33.3%
どちらも使う	18.6%
どちらも使わない・わからない	2.1%

表2 世代別の割合 (%)

※ アスリートは「アスリート」を主に使う、運動は「運動選手」を主に使う、「どちらも」はどちらも使うを表す。

世代	アスリート	運動	どちらも
16~19	69.0	11.9	17.9
20代	72.6	9.8	14.6
30代	65.7	15.5	17.1
40代	57.4	16.1	25.2
50代	53.1	23.0	21.4
60代	34.6	40.8	22.1
70~	17.1	69.6	11.2

オリンピックで活躍するあの人は、「運動選手」、それとも「アスリート」？このほど文化庁が……
依然として主流であることも読み取れる。

【資料1-21】 (1年 P64)

(資料A インターネットの情報)

(どちらの意味だと思うか)平成28年度……世論調査」から
〈 〉第二カギは本来の使い方を表す。数字は回答率(%)。

「さわり」
〈話などの要点のこと〉 36.1
話などの最初の部分のこと 53.3

「ぞっとしない」
〈おもしろくない〉 22.8
おそろしくない 56.1

「知恵熱」
〈乳幼児に突然起こることのある発熱〉 45.6
深く考えたり頭を使ったりした後の発熱 40.2

文化庁が行った……ありそうです。

.....

【資料1-22】(1年 P80 下)

.....

「味」
→甘い→上品な甘み→さっぱり
→甘い→ほのかな甘み、甘ずっぱい

「食感」
→つるん→なめらか
→柔らかい→ふわふわ、とろり、ふんわり
→冷たい→ひんやり、みずみずしい

「見た目」
→涼しげ→目にも涼しい
→四角→真四角、短冊形
→透き通った→透明
→小豆色

「香り」
→爽やか→爽快、清涼、すがすがしい

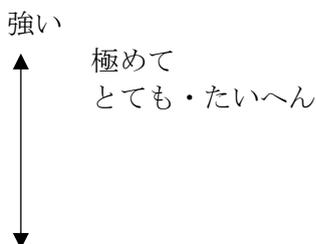
.....

【資料1-23】(1年 P81 下)

(程度を表す言葉)

程度を表す言葉にも多様な種類がある。そのときの気持ちや様子にふさわしい言葉を選び、的確に表現しよう。

.....



相手一家族（親しみを込めた表現にする）
挨拶…私たちの歌をぜひききに来てください。
当日の流れ…
9：30 開会式
9：45 1年生発表・・・。

相手一小学生（わかりやすい言葉を使い、墨字の場合、漢字に振り仮名をつける。）
挨拶…みなさんにきいてもらえることを楽しみにしています。
当日の流れ…
9時30分 開会式
9時45分 1年生発表・・・。

.....

【資料1-27】（1年 P121）

※国立国語研究所「日本語地図を基にしたもの」

.....

「捨てる」の方言分布

すてる、すつるなど□-□北海道日本海側地域の一部、岩手県の一部、関東甲信越地方の一部、新潟県佐渡地方、伊豆大島、北陸東海地方の一部、滋賀県の一部、和歌山県沿岸部、淡路島の一部、兵庫県日本海側地域の一部、中国地方、愛媛県、高知県、徳島県の一部、福岡県の一部、熊本県山間部の一部、対馬・五島列島の一部

うしつる□-□佐賀県、長崎県、熊本県、大分県・宮崎県の一部、福岡県有明海沿岸地域の一部

うっする□-□鹿児島県、宮崎県・大分県・長崎県の一部

していゆん□-□沖縄県

ほーる、ほるなど□-□石川県能登半島の一部、福井県・三重県・和歌山県・京都府・兵庫県の一部、淡路島の一部、香川県、徳島県の一部

ほーかる、ほかるなど□-□北陸東海地方の一部、福岡県の一部

ほーかす、ほかすなど□-□近畿地方、福岡県の一部

なげる、ぶんなげるなど□-□北海道、東北地方、福井県の一部

うっちやる□-□関東地方、静岡県・愛知県の一部

ぶちやる（ぶちやる）□-□新潟県、長野県、群馬県、山梨県、静岡県の一部

.....

【資料1-28】（1年 P124）漢字の音訓 練習問題

1. 次の「 」で示した漢字は同じ漢字である。音の違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

- (1) 「有」益な話、経験の「有」無
- (2) 「砂」糖菓子、土「砂」降り
- (3) 盛「夏」の候、「夏」至の日
- (4) 「相」相互作用、首「相」官邸
- (5) 自「己」満足、十年の知「己」
- (6) 「街」灯がつく時間、長崎「街」道

2. 次の熟語の意味を調べよう。また、「 」の部分の漢字について、文末に示した訓読みを用いて短い文を作ろう。

- (1) 「難」解な文章（むずか__しい）
- (2) 号「泣」する（な__く）
- (3) 確定「告」告（もう__す）
- (4) 所「望」する（のぞ__む）
- (5) 技「巧」をこらす（たく__み）
- (6) 「迫」力満点（せま__る）

- (7) 「遮」断機 (さえぎ__る)
 (8) 「企」画会議 (くわだ__てる)

3. 次の熟語は同じ漢字を用いる。それぞれを使って短い文を作ろう。

- (1) 「けんぶつ」 「みもの」
 (2) 「たいせい」 「おおぜい」
 (3) 「ふんべつ」 「ぶんべつ」

【資料1-29】 (1年 P243・246)

P243

妹がほがらかに歌う。

ほがらかに (修飾語 どのように) →歌う (どうする)

色あせた写真は祖母の宝物だ。

色あせた (修飾語 どのような) →写真は (何)

祖母の (修飾語 だれの) →宝物だ (何)

P246

今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。

今朝 (連用修飾語) ・野鳥が (主語) ・初めて (連用修飾語) ・巣箱に (連用修飾語) →入った (述語)

今朝、僕は、野鳥が巣箱に入るのを見た。

今朝 (連用修飾語) ・僕は (主語) ・野鳥が巣箱に入るのを (連用修飾部) →見た (述語)

野鳥が (主語) ・巣箱に (連用修飾語) →入るのを (述語)

黒い鳥が赤い実をついばむのを見た。

黒い鳥が赤い実をついばむのを (連用修飾部) →見た (述部)

「黒い (連体修飾語) →鳥が」 - 主部

「赤い (連体修飾語) →実を」 - 連用修飾部

黒い鳥が (主部) ・赤い実を (連用修飾部) →ついばむのを (述語)

【資料1-30】 (1年 P255) 小学校6年生で学習した漢字

1. 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

※以下該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2. 次の熟語は漢字のしりとりになっている。

- (1) 頭「痛」→痛「切」→切「除」→除「去」→去「就」→就職
 (2) 批「評」→評「価」→価「値」→値「段」→段「階」→階層
 (3) 独「創」(的)→創「意」→意「欲」→欲「望」→望「郷」→郷土
 (4) 同「盟」(国)→盟「主」→主「体」→体「操」→操「作」→作詞(家)

3. 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 大同小異
 (2) 四捨五入
 (3) 聖人君子
 (4) 大器晩成

4. 次の1.～7.の言葉について「 」と()で示した部分は、同じ音であるがそれぞれ異なる漢字である。

- (1) 百「科」事(典) 金「貨」 晴(天)
 (2) 「警」察(署) 尊「敬」語 伊豆(諸)島
 (3) 「水」(蒸)気 「垂」直線 権利(条)約

- (4) 「向」(上)心 「鋼」鉄性 健康(状)態
 (5) 「展」(覧)会 「転」勤する 混(乱)
 (6) 「裁」判(官) 借金返「済」 立て(看)板
 (7) 「延」長(戦) 「沿」道に立つ (宣)伝

5. 次の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

- (1) 「証明」問題
 (2) 実験「装置」
 (3) 「拡張」工事
 (4) 「閣議」決定
 (5) 「圧縮」空気

6. 次の二つの熟語について「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。

- (1) ア. 友人関「係」 イ. 電気「系」統
 (2) ア. 参「考」意見 イ. 親「孝」行
 (3) ア. 列島「縦」断 イ. 「従」属関係
 (4) ア. 職場「訪」問 イ. 「方」向感覚
 (5) ア. 期「間」限定 イ. 「簡」単な問題
 (6) ア. 需要と「供」給 イ. 公「共」施設

7. 次の語句について、「 」で示した部分は同じ漢字である。

- (1) 星「座」占い 「座」席 「座」談会 正「座」する
 (2) 検「討」事項 「討」議する 「討」論する 平家追「討」
 (3) 負「傷」者 「傷」害事件 「傷」心の日々 中「傷」記事
 (4) 単「純」作業 「純」白 「純」情な 清「純」な
 (5) 興「奮」する 「奮」起する 「奮」戦する 発「奮」する
 (6) 参「拝」する 「拝」見する 「拝」借する 礼「拝」する
 (7) 植「樹」する 「樹」氷 「樹」木 果「樹」園
 (8) 景気後「退」 「退」任する 「退」出する 辞「退」する
 (9) 強「敵」 「敵」地 「敵」意 宿「敵」

【資料1-31】(1年P267)

(例)表「学校図書館の月別貸出さつさう」

学年	4月	5月	6月	7月
1年	100	180	100	250
2年	80	90	40	125
3年	60	70	65	70

【資料1-32】(1年P271)情報整理の方法

マッピングの例

- テーマ 森の図書館
 →〇〇駅南口のどんぐり公園内→小学生の頃から通った
 →〇〇駅南口のどんぐり公園内→噴水広場の光→森の中
 →2階建て→赤い屋根
 →外にテーブルとベンチ→木の下で読書
 →絵本・児童書、開館時間

.....

観点ごとに整理した例

.....

3社の国語辞典について

比較するもの—A社 B社 C社

観点—発行年 語数 特長

(発行年)

A社 2021年

B社 . . .

C社

(語数)

A社 . . .

.....

カードを分類した例

.....

よい話し合いにするために

十分に議論をする

皆の意見を尊重し、十分に議論する

具体的には最初から多数決に頼らない

.....

論理的に話し合う — 感情的にならない

「誰が」ではなく、. . .

.....

共通点と相違点を整理した例

.....

手紙とメール

(1) 共通点

文字 思いや用件を伝える

(2) 相違点

手紙—手書き 届くのに時間がかかる 丁寧な印象

メール—活字 すぐ届く やりとりしやすい 効果的な印象

.....

【資料1-33】 (1年 P275) 文章の推敲

(書き方の形式)

1. 題名は、最初の1行目に、5マス目または7マス目から書く。
2. 氏名は、題名の次の行の行末か、行末が1、2マス空くように書く。
3. 書き出しや段落の始めは、3マス目から書き始める。
4. 会話文は、原則として行を替え、第一カギで囲んで書く。
5. 句読点や会話を閉じるカギなど、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、行移しをして書く。

【資料1-34】 (1年 P332 全学年共通)

常用漢字表 付表

「明日」－「めい みょう (あ_かり あか_るい あか_るむ あか_らむ あき_らか
あ_ける あ_く あ_くる あ_かす)」 「にち じつ (ひ か)」
「小豆」－「しょう (ちい_さい こ お)」 「とう ず (まめ)」
「海女」－「かい (うみ)」 「じょ によ によう (おんな め)」
「海士」－「かい (うみ)」 「し」(さむらい)
「硫黄」－「りゅう」(いおう) 「こう おう (き こ)」
「意気地」－「い (こころ) 「き け」(「気持ち」の「き）」 「ち じ」(つち)
「田舎」－「でん (た)」 「しゃ」(やどる)
「息吹」－「そく (いき)」 「すい (ふ_く)」
「海原」－「かい (うみ)」 「げん (はら)」
「乳母」－「にゅう (ちち ち)」 「ぼ (はは)」
「浮気」－「ふ (う_く う_かれる う_かぶ う_かべる)」
「き け」(「気持ち」の「き」)
「浮」つく－「ふ (う_く う_かれる う_かぶ う_かべる)」
「笑顔」－「しょう (わら_う え_む)」 「がん (かお)」
「叔父」－「しゆく」(父母の年下のきょうだい) 「ふ (ちち)」
「伯父」－「はく」(父母の年上のきょうだい) 「ふ (ちち)」
「大人」－「だい たい (おお おお_きい おお_いに)」 「じん にん (ひと)」
「乙女」－「おつ (わかい) 「じょ によ みょう (おんな め)」
「叔母」－「しゆく」(父母の年下のきょうだい) 「ぼ (はは)」
「伯母」－「はく」(父母の年上のきょうだい) 「ぼ (はは)」
お「巡」りさん－「じゅん (めぐ_る)」
お「神酒」－「しん じん (かみ かん こう)」 「しゅ (さけ さか)」
「母屋」－「ぼ (はは)」 「おく (や)」
「母家」－「ぼ (はは)」 「か け (いえ や)」
「かあ」さん－「ぼ (はは)」
「神楽」－「しん じん (かみ かん こう)」 「がく らく (たの_しい たの_しむ)」
「河岸」－「か (かわ)」 「がん (きし)」
「鍛冶」－「たん (きた_える)」 「や」(いもの)
「風邪」－「ふう ふ (かぜ かざ)」 「じゃ」(よこしまな)
「固唾」－「こ (かた_める かた_まる かた_い)」 「だ (つば)」
「仮名」－「か け (かり)」 「めい みょう (な)」
「蚊帳」－「(か)」(こんちゅう) 「ちょう」(とぼり)
「為替」－「い (ため、なす) 「たい (か_える か_わる)」
「河原」－「か (かわ)」 「げん (はら)」
「川原」－「せん (かわ)」 「げん (はら)」
「昨日」－「さく」(前の日) 「にち じつ (ひ か)」
「今日」－「こん きん (いま)」 「にち じつ (ひ か)」
「果物」－「か (は_たす は_てる は_て)」 「ぶつ もつ (もの)」
「玄人」－「げん」(「げんまい」の「げん)」 「じん にん (ひと)」
「今朝」－「こん きん (いま)」 「ちょう (あさ)」
「景色」－「けい (かげ) 「しょく しき (いろ)」
「心地」－「しん (こころ) 「ち じ」(つち)
「居士」－「きよ (い_る)」 「し」(さむらい)
「今年」－「こん きん (いま)」 「ねん (とし)」
「早乙女」－「そう さつ (はや_い はや_まる はや_める)」 「おつ (わかい)」
「じょ によ によ_ (おんな め)」
「雑魚」－「ぞつ ぞう」 「ぎょ (うお さかな)」
「栈敷」－「さん」(かけはし) 「ふ (し_く)」
差し「支」える－「し (ささ_える)」
「五月」－漢数字の「5」 「げつ がつ (つき)」
「早苗」－「そう さつ (はや_い はや_まる はや_める)」 「びょう (なえ なわ)」

「五月雨」－漢数字の「5」 「げつ がつ (つき)」 「う (あめ あま)」
 「時雨」－「じ (とき)」 「う (あめ あま)」
 「尻尾」－「(しり)」 「び (お)」
 「竹刀」－「ちく (たけ)」 「とう (かたな)」
 「老舗」－「ろう (お__いる ふ__ける)」 「ほ (みせ)」
 「芝生」－「(しば)」 (稲科の植物) 「せい しょう (い__きる い__かす い__ける
 う__まれる う__む お__う は__える は__やす き なま)」
 「清水」－「せい しょう (きよ__い きよ__まる きよ__める)」 「すい (みず)」
 「三味線」－漢数字の「3」 「み (あじ あじ__わう)」 「せん (すじ)」
 「砂利」－「さ しゃ (すな)」 「り (き__く)」
 「数珠」－「すう す (かず かぞ__える)」 「しゅ (たま)」
 「上手」－「じょう しょう (うえ うわ かみ あ__げる あ__がる のぼ__る のぼ__せる
 のぼ__す)」 「しゅ (て た)」
 「白髪」－「はく びやく (しろ しら しろ__い)」 「はつ (かみ)」
 「素人」－「そ す」 「じん にん (ひと)」
 「師走」－「し (せんせい)」 「そう (はし__る)」
 「数寄屋」－「すう す (かず かぞ__える)」 「き (よ__る よ__せる)」 「おく (や)」
 「数奇屋」－「すう す (かず かぞ__える)」 「き (めずらしい、すぐれている)
 「おく (や)」
 「相撲」－「そう しょう (あい)」 「ぼく (うつ、なぐる)」
 「草履」－「そう (くさ)」 「り (は__く)」
 「山車」－「さん (やま)」 「しゃ (くるま)」
 「太刀」－「たい た (ふと__い ふと__る)」 「とう (かたな)」
 立ち「退」く－「たい (しりぞ__く しりぞ__ける)」
 「七夕」－漢数字の「7」 「せき (ゆう)」
 「足袋」－「そく (あし た__りる た__る た__す)」 「たい (ふくろ)」
 「稚児」－「ち (わかい、おさない)」 「じ に」
 「一日」－漢数字の「1」 「にち じつ (ひ か)」
 「築山」－「ちく (きず__く)」 「さん (やま)」
 「梅雨」－「ばい (うめ)」 「う (あめ あま)」
 「凸凹」－「とつ (でっぱり)」 「おう (へこみ)」
 「手伝」う－「しゅ (て た)」 「でん (つた__わる つた__える つた__う)」
 「伝馬船」－「でん (つた__わる つた__える つた__う)」 「ば (うま ま)」
 「せん (ふね ふな)」
 「投網」－「とう (な__げる)」 「もう (あみ)」
 「父」さん－「ふ (ちち)」
 「十重二十重」－漢数字の「10」 「じゅう ちょう (え おも__い かさ__ねる かさ__なる)」
 漢数字の「2」 漢数字の「10」 「じゅう ちょう (え おも__い かさ__ねる
 かさ__なる)」
 「読経」－「どく とく とう (よ__む)」 「けい きょう (へ__る)」
 「時計」－「じ (とき)」 「けい (はか__る はか__らう)」
 「友達」－「ゆう (とも)」 「たつ (複数の意味)」
 「仲人」－「ちゅう (なか)」 「じん にん (ひと)」
 「名残」－「めい みょう (な)」 「ざん (のこ__る のこ__す)」
 「雪崩」－「せつ (ゆき)」 「ほう (くず__れる くず__す)」
 「兄」さん－「けい きょう (あに)」
 「姉」さん－「し (あね)」
 「野良」－「や (の)」 「りょう (よ__い)」
 「祝詞」－「しゅく しゅう (いわ__う)」 「し (ことば)」
 「博士」－「はく ぼく (ひろい)」 「し (さむらい)」
 「二十」－漢数字の「2」 漢数字の「10」
 「二十歳」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「さい せい」

「二十日」－漢数字の「2」 漢数字の「10」 「にち じつ (ひ か)」
 「波止場」－「は (なみ)」 「し (とまる とめる)」 「じょう (ば)」
 「一人」－漢数字の「1」 「じん にん (ひと)」
 「日和」－「にち じつ (ひ か)」 「わ お (やわらぐ やわらげる なごむ
 なごやか)」
 「二人」－漢数字の「2」 「じん にん (ひと)」
 「二日」－漢数字の「2」 「にち じつ (ひ か)」
 「吹雪」－「すい (ふく)」 「せつ (ゆき)」
 「下手」－「か げ (した しも もと さげる さがる くだる くだす くださる
 おろす おりる)」 「しゅ (て た)」
 「部屋」－「ぶ (くぶん) おく (や)」
 「迷子」－「めい (まよ) う)」 「し す (こ)」
 「真面目」－「しん (ま) めん (おも おもて つら) もく ぼく (め ま)」
 「真っ赤」－「しん (ま) せき しゃく (あか あか い あくらむ あくらめる)」
 「真っ青」－「しん (ま) せい しょう (あお あお い)」
 「土産」－「ど と (つち) さん (うむ うまれる うぶ)」
 「息子」－「そく (いき) し す (こ)」
 「眼鏡」－「がん げん (まなこ) きょう (かがみ)」
 「猛者」－「もう (たけし) しゃ (もの)」
 「紅葉」－「こう く (べに くない) よう (は)」
 「木綿」－「ぼく もく (き こ) めん (わた)」
 「最寄り」－「さい (もつと) も) き (よる よせる)」
 「八百長」－漢数字の「8」 漢数字の「百」 「ちょう (なが い)」
 「八百屋」－漢数字の「8」 漢数字の「百」 「おく (や)」
 「大和」－「だい たい (おお おお さい おお いに)」
 「わ お (やわらぐ やわらげる なごむ なごやか)」
 「弥生」－「や (数の多いこと) せい しょう (いきる いかす いける うまれる
 うむ おう はえる はやす き なま)」
 「浴衣」－「よく (あびる あびせる) い (ころも)」
 「行方」－「こう ぎょう あん (い く ゆく おこなう) ほう (かた)」
 「寄席」－「き (よる よせる) せき (座る場所)」
 「若人」－「じゃく にやく (わか い もしくは) じん にん (ひと)」

【資料1-35】 (1年 P129)

表1～3 反応したシジュウカラ (全14羽中)

.....

表1 「ジャージャー」

地面を確認	14
巣箱をのぞく	4
左右を警戒	1

表2 「ピーツピ」

地面を確認	0
巣箱をのぞく	0
左右を警戒	12

表3 鳴き声なし

地面を確認	1
巣箱をのぞく	0

左右を警戒 0

.....

【資料1-36】 (1年 P131)

表4 鳴き声による反応の違い (全12羽中)

.....

へびに似た動きをする小枝を見せながら、3種類の鳴き声を聞かせた。

(小枝に接近したシジュウカラ)

ジャージャー	11
ピーツピ	1
ヂヂヂヂ	2

.....

【資料1-37】 (1年 P131)

表5 小枝の動きによる反応の違い (全12羽中)

.....

「ジャージャー」という鳴き声をきかせながら、小枝の動かし方を変えて見せた。

(小枝に接近したシジュウカラ)

へびに似た動き	11
へびに似ていない動き	1

.....

【資料1-38】 (1年 P132)

表6 研究により判明した、シジュウカラの鳴き声と意味 (一部)

.....

鳴き声——ツツピー ツツピー (さえずり)

発する状況——春先に繁殖のための縄張りを作るとき (鳴くのはオスのみ)

鳴き声に対する反応——オス 縄張り争い メス オスの魅力の評価

意味——縄張りに入るな。つがいになろう。

鳴き声——ピーツピ

発する状況——カラスやネコを発見

鳴き声に対する反応——周囲を確認

意味——警戒しろ。

鳴き声——チッチ

同様に

.....

【資料1-39】 (1年 P136)

時間の経過で見る原因と結果

.....

(原因1)

町民向けの割引券を公園の入り口で配布した。

公園の前に自転車を止める人が多かった。

(結果1)

公園の前が混雑した。

(原因2)

公園の前が混雑した。

(結果2)

子どもたちが迷子になった。

公園の草花が踏まれて傷ついた。

.....

【資料1-40】 (1年 P139)

(アンケート結果を整理した例)

.....

(1) 今週の平均睡眠時間は、約何時間でしたか。

(1年A組の睡眠時間の分布 人)

.....

5時間	1
6時間	3
7時間	8
8時間	15
9時間	8

※「8時間」が最多

※A組の平均睡眠時間 7時間45分 (1年A組35人中)

.....

.....

(2) あなたは、自分の睡眠は十分だと思いますか。

ア. 十分である

イ. 十分でない

(1年A組の睡眠満足度)

.....

時間	十分でない	十分である
9	25%	75%
8	27%	73%
7	50%	50%
6	67%	33%
5	100%	0%

☆十分である 22人 十分でない 13人

.....

【資料1-41】 (1年 P144 下)

3. 次の「 」で示した部分は同じ音をもつ異なる漢字である。読んでみよう。

- (1) ア. 「披」露宴 イ. 「彼」岸参り
- (2) ア. 研「磨」剤 イ. 「摩」擦熱
- (3) ア. 「環」境問題 イ. 「還」元する
- (4) ア. 「黄」砂が舞い上がる イ. 「肯」定する

- (5) ア. 図を「挿」入する イ. 清「掃」する
- (6) ア. 「陪」審員 イ. 情報「媒体」
- (7) ア. 「仲」介する イ. 「駐」車場

【資料1-42】 (1年 P146 下)

1. 話題を決める例

.....

目的と話題

目的——解決策を探る

話題——学校図書館の利用を活性化するには。通学路のごみを減らすには。

目的——考えを深める

話題——音楽のもつ力とは。部活動の意義とは。

目的——決める

話題——文化祭に向けたクラスの標語。「よい話し合い」にするための三か条。

※「よい話し合い」の意味を、具体例を基に共有する。

.....

【資料1-43】 (1年 P148 下)

共通点や相違点を見つけて、分類する。

- (1) 意見を書く。
- (2) 分類する。
- (3) 見出しを付ける。
- (4) 関係を示す。

(例)

.....

話題——よい話し合いをするために

- (1) 意見を書く。

ア. 「誰が」ではなく、「何を」発言したのかで議論する。

イ. 最初から多数決に頼らない。

ウ. 根拠とともに意見を伝える。

エ. 皆の意見を尊重し、十分に議論する。

オ. まずは相手の意見を受け止める。

- (2) 分類する。

ア. とウ.

イ. とエ.

オ.

- (3) 見出しを付ける。

ア. とウ. → 論理的に話し合う。感情的にならない。→ 皆が納得する結論を出す。

イ. とエ. → 十分に議論する。→ 皆が納得する結論を出す。

オ. → 意見を言いやすい雰囲気を作る。→ 自由に意見を言い合う。

- (4) 関係を示す。

イ. はエ. を具体的にしたもの。

.....

.....

【資料1-44】 (1年 P156~157 上)

.....

紀元前

- (中国) 論語—— (1)
- (中国) 故事成語 (「矛盾」など) —— (2)

奈良時代

- 古事記
- 日本書紀
- (中国) 漢詩 (「春暁」など) —— (3)
- 万葉集—— (4)

平安時代

- 竹取物語—— (5)
- 古今和歌集—— (6)
- 伊勢物語
- 土佐日記
- 枕草子—— (7)
- 源氏物語—— (8)
- 更級日記

鎌倉時代

- 新古今和歌集—— (9)
- 方丈記
- 小倉百人一首
- 平家物語—— (10)
- 徒然草—— (11)

江戸時代

- 日本永代蔵
- おくのほそ道—— (12)

.....

(漢文・漢詩の世界)

- (1) 論語——中国古代の思想家……。 (3年)
- (2) 故事成語——中国の古典に由来する……。 (1年)
- (3) 漢詩——中国、唐代の詩にふれ……。 (2年)

(和歌の世界)

- (4) 万葉集 (6) 古今和歌集 (9) 新古今和歌集——季節の移り変わりに……。 (3年)
- 以下同様

【資料1-45】 (1年 P174)

漢文を読む

「矛盾」の故事を収めた「韓非子」は、中国の古典であり、原文は漢字だけで縦に記されている。漢字だけで書かれた中国の文章(漢文)を、日本語として読むことを「訓読」という。

訓読の方法

漢字だけで書かれた原文（「白文」という）に、送り仮名や句読点、読む順序を表す返り点を補い、日本語として読めるようにする。古典の言葉・仮名遣いを用いる。

→ 該当ページ 古典の言葉

- 1. 送り仮名：漢字の送り仮名だけでなく、「て に を は（わ）」などを補う。歴史的仮名遣いを用いる。
- 2. 返り点：読む順序を表す記号。漢字の並びを日本語の語順に入れ替えるときに使う。
レ点——下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。
1・2点——二字以上隔てて、上に返って読む。
- 3. 句読点：読点（、）句点（。）など。原文の句や文の切れ目に補う。

漢文を訓読し、次のように書き改めたものを「書き下し文」という。
なお、点字では、「書き下し文」で学習する。

（書き下し文）

之を誉めて曰く、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。

【資料1-46】 （1年 P214 下）

3. 次の空欄に合う熟語をあとから選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。

- (1) 試行
- (2) 天外
- (3) 不敵
- (4) 自在
- (5) 全身
- (6) 首尾

- 全霊 変幻
- 奇想 錯誤
- 大胆 一貫

【資料1-47】 （1年 P215 ）

.....

美術館 海辺 自転車 りんご 弁当 私 絵
 とても ゆっくり
 あの
 そして
 ああ
 見る 行く 食べる 乗る
 おいしい 赤い
 元気だ 静かだ
 に を て の が わ
 ます たい た

.....

【資料1-48】 （1年 P227 下） 太字を点線文字で

.....

漢字の成り立ちには、「象形」「指事」「会意」「形声」とよばれるものがある。
 (1) 象形——物の形をかたどって、その物を表す。
 (例)ば（うま）

馬

(2) 指事——抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表す。

(例) ジョウ (うえ) カ (した)

上

下

(3) 会意——二つ以上の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

(例) き き りん (はやし)

木 木 → 林

くち とり めい (な__く)

口 鳥 鳴

(4) 形声——二字を組み合わせて、一方で音、他方で意味を表す。音を表す部分を「音符」、意味を表す部分を「意符」とよぶ。音符は音だけでなく、意味を表す場合もある。

(例) 意符 音符 どう

金 同 銅

意符 音符 せい

シ 青 清

「どう」の漢字は、左の「かねへん」が金属を表す意符であり、右の「どう」が音符である。

「せい」の漢字は、左の「さんずい」が意味を表す水の意符であり、右の「せい (あお)」が音を表す音符であると同時に、「澄みきっている」という意味も表す。

.....

【資料1-49】 (1年 P228 上) 太字は点線文字で

(例)

ひ た はたけ (はた)

火 田 → 畑

やま うえ した とうげ

山 上 下 → 峠

【資料1-50】 (1年 P228 下)

練習問題

1. 次の「 」で示した部分の漢字の成り立ちは、それぞれ () に示したとおりである。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「月」曜日(象形)
- (2) 「狩」りをする(形声)
- (3) 「本」棚(会意)
- (4) 「河」川(形声)
- (5) 年「末」(指事)
- (6) 「武」勇伝(形声)

2. 次の「 」で示した部分の漢字は、会意文字である。それぞれの意味を調べてみよう。

- (1) 「岩」石
- (2) 「明」暗を分ける
- (3) 子「孫」繁栄
- (4) 通「信」手段

3. 次の「 」で示した部分の漢字は、共通する音符を持っている。それぞれの熟語例を参考にして、同じ音を持つ別の熟語を作ってみよう。

- (1) 炊「飯」器 黒「板」 「販」売員
- (2) 「署」名捺印 近隣「諸」国 残「暑」
- (3) 「輸」出 「愉」快 教「諭」
- (4) 「河」川敷 幾「何」学 「苛」烈

(5) 「伯」 爵 「拍」 手 宿 「泊」

【資料2-1】 (2年 P26)

(メモの例)

.....

(要点)

1. 図書館に雑誌
2. 写真やイラスト
3. さまざまな記事だから→「読書が苦手でも楽しめる。」
4. (例) 読書が苦手な弟も夢中。
5. アンケート結果「雑誌」→9人→「人気がある。」

→ 1. ~ 5. に対する意見や根拠の適切さ

(1. は意見)

2. △ 雑誌の種類にもよる。
3. △ 意見と根拠の結び付きが弱い。誰もが楽しめるとは言い切れない。
4. ○ 共感できる。

(2. ~ 4. は根拠1)

5. △ 何人中9人? いつ、誰に、どうやって調査したのか。「確認」

(5. は根拠2)

.....

【資料2-2】 (2年 P36)

(職業ガイドの例)

.....

パン職人について

2年 A組 田村明広

1

(1) パン職人の仕事とは

パンを焼くだけではなく、新しい素材や形を開発したり・・・
気温や湿度の変化でパンの出来は変わる。・・・

(2) パン職人になるには

特別な資格はいらないが、食品の知識や各工程の作業技術が必要。
立派なパン職人になるためには、何年もの修行が必要だ。
学校卒業後、そのまま就職する人や、専門学校で・・・

2

学校卒業→パン作りが学べる専門学校→パン屋に就職

学校卒業→パン屋に就職

☺☺☺ パン作りの 職場はいろいろ！一町のパン屋、ホテルやレストランのパン部門、
製パン会社のパン工場など

3 町のパン屋さん「ベーカリー松本」に取材！

店長の松本さんにインタビューをしました。

Q. 楽しいと・・・

A. 思ったとおりに・・・

Q. 大変なのは・・・

A. 夏場の暑さ。・・・

Q. 心に残っている・・・

A. パン職人に・・・

(ベーカリー松本の1日)

3:00 生地作り開始

5:00 次々に焼き上がる

8:00 開店 販売

18:00 閉店 翌日の仕込み

4 調べてみて

パン作りに関わるといっても、パン屋だけでなく、・・・

本やインターネットだけでなく、生の声を聞いたことで、・・・

パン職人は、想像以上に重労働だが、・・・

5 参考資料

「〇〇の全て」〇〇社・〇〇年

「〇〇」のサイト <http://www.> (〇月〇日)

取材先「ベーカリー松本」の店長・松本友春さん (〇月〇日)

.....

【資料2-3】(2年P38)

二字熟語の主な構成

1. 意味が似ている漢字の組み合わせ。

(例)

拡大(「ひろげる」と「おおきい」)

思考(「おもう」と「かんがえる」)

規則(「きまり」と「きまり」)

縮小(「ちぢむ」と「ちいさい」)

山岳(「やま」と「やま」)

搭乗(「のる」と「のる」) など

2. 意味が対になる漢字の組み合わせ。

(例)

善悪(「よい」と「わるい」)

前後(「まえ」と「うしろ」)

売買(「うる」と「かう」)

強弱(「つよい」と「よわい」)

禍福(「わざわい」と「しあわせ」)

慶弔(「いわう」と「とむらう」) など

3. 主語と述語の関係。

(例)

地震(地が震える)

国営(国が営む)

雷鳴(雷が鳴る)

日照(日が照る)

人造(人がつくる) など

4. 後の漢字が前の漢字の目的や対象を示す。

(例)

洗顔(顔を洗う)

登山（山に登る）
開会（会を開く）
造園（そのをつくる）
遷都（みやこをうつす）
帰郷（ふるさとに帰る）
就職（職につく） など

5. 前の漢字が後の漢字を修飾する。

（例）

軽傷（軽い傷）
激増（激しく増える）
水路（水のみち）
熱心（うちこむ心）
俊足（すばやい足）
猛犬（気の荒い犬）
逆流（さかさまの流れ） など

この他に、「刻々」（「こく」は「きざむ」）「喜々」（「き」は「よろこぶ」）など、同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

三字熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

（例）

衣食住（「ころも」と「たべる」と「すむ」）
上中下（「うえ」と「なか」と「した」）
松竹梅（「まつ」と「たけ」と「うめ」） など

2. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

前に打ち消しの意味の「不」「無」「非」「未」や、後に「的」「性」「化」などが付いたものも多い。

（例）

大成功（「おおきい」と「せいこう」）
専門家（「せんもん」と「か」）
不安定（「ふ」と「あんてい」）
絶対的（「ぜったい」と「てき」）
初対面（「しょ」と「たいめん」）
肖像画（「しょうぞう」と「が」）
無意味（「む」と「いみ」）
可能性（「かのう」と「せい」） など

四字以上の熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ。

（例）

春夏秋冬（「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」）
花鳥風月（「はな」「とり」「かぜ」「つき」） など

2. 二字熟語の組み合わせ。

（例）

課外授業（「かがい」と「じゅぎょう」）
国際交流（「こくさい」と「こうりゅう」）

3. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ。

（例）

大雨注意報（「おおあめ」と「ちゅうい」と「ほう」）

運転免許証（「うんてん」と「めんきょ」と「しょう」）など

また、四字熟語の中には、「一進一退」「大同小異」「美辞麗句」など、古くから言いならわされてきたものも多い。

【資料2-4】（2年P39）

（練習問題）

1 次の(1)～(5)の「 」で示した熟語は、それぞれ同じ構成の熟語である。どんな構成か調べてみよう。

(1)

- ア. 「自我」が強い。
- イ. 空気「清浄」機

(2)

- ア. 「着色」料
- イ. 「兼業」農家

(3)

- ア. 「国立」大学
- イ. 「日没」

(4)

- ア. 「麦芽」糖
- イ. 「濃霧」注意報
- ウ. 「極秘」

(5)

- ア. 「師弟」関係
- イ. 「雌雄」を決する。
- ウ. 兄弟「姉妹」

2 次の(1)～(4)の□には「不」「無」「非」「未」のいずれかを、(5)～(7)の□には「的」「性」「化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

(1) □ 経験

(2) □ 本意

(3) □ 秩序

(4) □ 常識

(5) 比較□

(6) 有料□

(7) 妥当□

3 次の四字熟語の意味を調べよう。

(1) 東奔西走

(2) 喜怒哀楽

(3) 軽挙妄動

(4) 疾風迅雷

(5) 鯨飲馬食

(6) 温厚篤実

【資料2-5】（2年P40）

漢字に親しもう1

（新しく習う漢字）

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。

(1) 話の「要旨」を捉える。

(2) クラス全員の「名簿」を作成する。

【資料2-8】 (2年 P56)

(進行案の例)

(3班の散策コース)

味わい、つながる、町とのきずな一人の「和」、和食の「和」

1. 初めに (石田) (30 秒)

(提示する資料1) 3班の散策コース

味わい、つながる、町とのきずな一人の「和」、和食の「和」

(説明内容)

この町の名物を味わい、町に親しんでもらえるコース

「味わい、つながる、町とのきずな」

2. ポイント (北村) (15 秒)

(提示する資料2) ポイント

地元の食

町の人との触れ合い

(説明内容)

コースのポイントは二つ

三つの場所を通して、この町の魅力を感じてほしい。

3. 場所(1)農家の朝市 (中谷) (3. ~ 5. で2分)

(提示する資料3) (1)農

家の朝市

地元で取れた新鮮な野菜

農家の方との交流

(説明内容)

地元の新鮮な野菜 (写真)

毎週日曜日の午前中に開催

農家の方たちと交流できる

朝市の場所 (地図)

4. 場所(2)きれいな湧き水 (田村)

(提示する資料4) (2)きれいな湧き水

地下水が豊富

飲み水にも、料理にも

(説明内容)

市街地にある湧き水 (写真)

私たちの町は地下水が豊富

飲み水にも、料理にも利用

5. 場所(3)お昼はそば打ち (白石)

(提示する資料5) (3)お昼はそば打ち

本格的なそば打ち体験

打ちたてのそばを、その場で

(説明内容)

そば打ちをしている様子 (写真)

湧き水の近くにある

店内で食べることができる

6. まとめ（北村）（15秒）

（提示する資料6）コースの全体像

（説明内容）

コースの全体像（地図）

実際に足を運んでほしい

.....

資料－プレゼンテーションソフトやフリップなどの画面イメージを描く。
説明内容－提示する資料と対応させて話す内容の要点をメモする。

【資料2－9】（2年P58）

漢字に親しもう 2

（新しく習う漢字）

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。

- (1) 実力を「遺憾」なく発揮する。
- (2) 「慈愛」に満ちた表情をしている。
- (3) 時間に「余裕」をもって行動する。
- (4) 「素朴」な疑問を投げかける。
- (5) 「寛大」な心で許す。
- (6) 「煩雑」な手続きを改善する。
- (7) 失敗を「危惧」する。

2. 次の□に合う言葉を語群から選び、文を作ろう。

- (1) 雑草が□
- (2) 間食を□
- (3) 進行を□
- (4) 練習に□

（語群）

妨げる 飽きる 茂る 控える

3. 次の「 」で示した部分は同じ音読みの異なる漢字である。それぞれの熟語を読もう。

- (1)
 - ア. 「娛」楽を楽しむ。
 - イ. 「誤」読
- (2)
 - ア. 子「孫」
 - イ. 「遜」色ない。
- (3)
 - ア. 「勸」誘
 - イ. 音楽「鑑」賞
- (4)
 - ア. 原「因」
 - イ. 婚「姻」

（新しく習う音訓）

4. 次の「 」の言葉を読もう。

- (1)
 - ア. 「強情」を張らずに謝罪をする。
 - イ. 他人に無理を「強いる」。

(2)

- ア. 勝利の「女神」が味方する。
- イ. 「天女」が美しく舞う。

【資料2-10】 (2年 P59)

単語は、次の観点によって、自立語と付属語に分けられる。

1. 単独で文節を作れるかどうか

前に出てきた単語は全て自立語である。

さらに、自立語は、次の観点

によって分類することができる。

2. 後ろに付く語によって形が変わる(活用する)かどうか

3. 主語・述語・修飾語など、どんな文の成分になるか

(形が変わる? いいえ)

山 家 空気 車—(1) 主語になる

きっと この 少し あらゆる きらきら—(2) 修飾語になる

(形が変わる? はい)

話す 静かだ 多い 速い 走る—(3) 述語になる

【資料2-11】 (2年 P66)

表A 「ニュースを読む・見る媒体」

10代以上の男女 10231人に、インターネット上でアンケートを実施。

テレビ	88.8%
インターネット	82.7%
新聞	69.5%
雑誌	13.0%

表B 「毎日の生活に必要な情報を何から得ているか」

16歳以上の男女 3480人に、個別面接調査を実施。(有効回収数 1954人)

テレビ	86.0%
インターネット	29.8%
新聞	76.6%
雑誌	18.7%

【資料2-12】 (2年 P118)

(尊敬語と謙譲語の例)

動詞の場合

1. 動詞全般に使える形

<p>「尊敬語」</p> <p>お(ご)・・・になる</p> <p>・・・れる・・・・られる</p>	<p>「謙譲語」</p> <p>お(ご)・・・する</p> <p>——</p>
----------------------------------------------------	-----------------------------------------

2. 特定の形に変化する動詞

<p>「尊敬語」</p> <p>行く・来る</p>	<p>「謙譲語」</p> <p>いらっしゃる</p>	<p>「謙譲語」</p> <p>参る・伺う</p>
---------------------------	----------------------------	---------------------------

いる	おいでになる いらっしゃる おいでになる	おる
言う・話す	おっしゃる	申す・申しあげる
見る	ご覧になる	拝見する
食べる	召しあがる	いただく
する	なさる	いたす
くれる	くださる	――
もらう	――	いただく
聞く	――	伺う・承る
知る・思う	――	存じる

名詞の場合

1. 名詞全般に付く形

「尊敬語」	「謙讓語」
(先生からの)	(先生への)
「お」手紙	「お」手紙
(先生からの)	(先生への)
「ご」意見	「ご」意見

2. 特定の名詞に付く形

「尊敬語」― 「芳」名・「御」社・「貴」校(あなたの学校)・「尊」父
「謙讓語」― 「愚」見・「弊」社・「拙」著・「粗」品

.....

【資料2-13】(2年P121 下)

(練習問題)

次の文の「 」で示した漢字は()のどちらの意味か。

- (1) 法案を倫理委員会に「はかる」。(くわだてる 相談する)
- (2) サッカーチームの指揮を「とる」。(とらえる 執り行う)
- (3) 青銅で鐘を「いる」。(はなつ 金属を溶かして物をつくる)
- (4) 台風で建物が「しんすい」する。(水につかること 水に親しむこと)
- (5) 二酸化炭素を「はいしゅつ」する。(要らないものを出すこと 優れた人物を世に出すこと)
- (6) 「くじゅう」の選択を迫られる。(苦い汁 苦しみ悩むこと)
- (7) 核兵器の「きょうい」を訴える。(ひどく驚くこと 何者かに脅されること)
- (8) 他人の行動に「かんしょう」しない。(口出しをすること 感じて心をいためること)
- (9) 「へいこう」感覚を失って転ぶ。(並び行われること つりあいがとれること)
- (10) 市民が自由を「きょうじゅ」する。(教え授けること 味わい楽しむこと)
- (11) 打球の「きせき」が弧を描く。(常識では考えられない出来事 物体の運動によってできる図形)

【資料2-14】(2年P122)

漢字に親しもう3

(新しく習う漢字)

1. 次の「 」の熟語を読もう。

- (1) 旅館で料理を「配膳」する。
- (2) 「海藻」のサラダを作る。
- (3) バランスよく栄養を「摂取」する。
- (4) 伝統的な製法でみそを「醸造」する。

- (5) ヨーグルトに「蜂蜜」をかける。
- (6) 彼の好物は「麺類」だ。
- (7) 食後に「煎茶」を飲む。

2. 次の(1)～(4)の熟語について、()内の説明を参考にして同じ構成の熟語をア.～エ.からそれぞれ選ぼう。

- (1) 充填 (あてる、ふさぐ)
- (2) 佳作 (よい、作品)
- (3) 凹凸 (くぼむ、つきでる)
- (4) 募金 (つもの、かね)
- ア. 寒暖 (寒いと暖かい)
- イ. 観劇 (劇を観ること)
- ウ. 摩擦 (摩ることと擦ること)
- エ. 油膜 (油の膜)

3. 次の「 」の熟語には「かたな (りっとう)」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 自意識「過剰」
- (2) 強い「刺激」
- (3) 予算の「削減」
- (4) 合成「洗剤」

(新しく習う音訓)

4. 次の「 」の言葉を読もう。

- (1) 朝日に「映える」花の姿。
- (2) 自分の生活を「省みる」。
- (3) 科学者が自伝を「著す」。
- (4) 彼女を生徒会長に「推す」。
- (5) 洋服の生地を「裁つ」。

【資料2-15】 (2年 P232 上16-18)

「文節どうしの関係」

(例) 山の上に涼しい風がふく。

山の(連体修飾語) → 上に
 涼しい(連体修飾語) → 風が
 風が(主語) → ふく(述語)

※連文節の場合

山の上に(連用修飾部) → ふく(述語)
 涼しい風が(主部) → ふく(述語)

【資料2-16】 (1年 P233)

(例) 山の上に涼しい風がふく

(自立語と付属語)

自立語—山 上 涼しい 風 ふく

付属語—の に が

(活用の有無)

活用がある—涼しい ふく

活用がない—山 の 上 に 風 が

【資料2-17】 (2年 P251～253)

1 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

2 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

- (1) 立候「補」 「補」強 「補」助 「補」給
- (2) 苦「難」 「難」破船 「難」解な文章 「難」易度
- (3) 財「宝」 国「宝」
「宝」石 我が家の家「宝」
- (4) 駅の階「段」 石「段」 「段」落 手「段」
- (5) 死「亡」届 「亡」命 国家の興「亡」 「亡」国
- (6) 「納」品 収「納」 「納」税 「納」期が迫る
- (7) 「善」意 「善」行を積む 「善」良な人 親「善」試合
- (8) 自「律」的 規「律」を守る 調「律」師 法「律」
- (9) 注「射」器 放「射」状 反「射」 ロケットの発「射」
- (10) 「映」像 上「映」 「映」画館 世相を反「映」する

3 次の各組の「 」で示した部分は、同じ音であるが、それぞれ違う漢字である。

- (1) おん — 「音」楽 「恩」人 「温」度
- (2) だん — 横「断」歩道 「暖」冬 相「談」
- (3) こん — 「困」難 「混」雑 「根」気強い
- (4) ひょう — 土「俵」 「評」判 目「標」

4 次の熟語は同じ偏をもつ二字の漢字でできている。

- (1) 組織 (いとへん)
- (2) 肺臓 (にくづき)
- (3) 源流 (さんずい)
- (4) 議論 (ごんべん)
- (5) 俳優 (にんべん)
- (6) 地域 (つちへん)
- (7) 激減 (さんずい)
- (8) 呼吸 (くちへん)
- (9) 誤読 (ごんべん)

5 次の四字の漢字でできた熟語の意味を調べよう。

- (1) 臨時休業
- (2) 公私混同
- (3) 秘密厳守
- (4) 皇后陛下

6 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

- (1) 「策」略 外交政「策」
- (2) 「筋」肉 道「筋」
- (3) 正しい「姿」勢 容「姿」
- (4) 「革」命 皮「革」製品
- (5) 国立「劇」場 演「劇」
- (6) 「紅」白 口「紅」
- (7) 「骨」折 背「骨」
- (8) 「宅」地 住「宅」
- (9) 「勤」務 欠「勤」
- (10) 「尺」度 縮「尺」
- (11) 「穀」物 米「穀」
- (12) 「仁」術 「仁」愛

7 次の(1)～(5)が慣用句になるように、A群から□に入る語句選ぼう。また、その慣用句の意味を、B群から選び、記号で答えよう。

- (1) 耳を □。
- (2) 頬を □。
- (3) 肩を □。
- (4) 腹を □。
- (5) 舌を □。

A群

- 割る
- 巻く
- 染める
- 疑う
- 並べる

B群

- ア. 包み隠さずに話すこと。
- イ. 恥ずかしそうにすること。
- ウ. 非常に感心すること。
- エ. 聞いたことが信じられないこと。
- オ. 対等な力をもつこと。

【資料2-18】(2年 P258)

(メールの下書き)

.....

宛先 ozora-yochien@△△△△.ne.jp
件名 職場体験に関する質問(大空中学校・山内)

大空市立大空幼稚園.....

.....

【資料2-19】(2年 P263)

(論理の展開を吟味する観点)

- ア. 答え(筆者の意見)を裏付ける根拠となっているか。
- イ. 根拠(本論)から無理なく意見(主張)が導かれているか。

【資料2-20】(2年 P264 中)

(根拠の吟味の例)

.....

(意見)私たちのクラスは今年の.....

(根拠1)昨年度の在校生.....

(根拠2)クラスの約6割.....

意見と根拠1をつなぐ考えー文化祭では在校生.....

意見と根拠2をつなぐ考えークラスの演目では.....

(注意点)ー客観的な事実や信頼性の.....

.....

【資料2-21】（2年 P264 下）
（原因と結果を時間の経過で示した例）

.....

（原因1）
町民向けの割引券を公園の入り口で配布した。
公園の前に自転車を止める人が多かった。

（結果1）
公園の前が混雑した。

（原因2）
公園の前が混雑した。

（結果2）
子どもたちが迷子になった。
公園の草花が踏まれて傷ついた。

.....

【資料2-22】（2年 P267 1）

1. 発想を広げる

（森の図書館について）

森の図書館－「 」 駅南口のドングリ公園内－噴水広場の先－森の中
森の図書館－2階建て－赤い屋根
森の図書館－・・・

【資料2-23】（2年 P267 4.）

.....

手紙やメールの共通点と相違点
（共通点）

文字 思いや用件を伝える
（相違点）

メール－活字、すぐ届く
手紙－手書き、届くのにかかる

.....

【資料2-24】（2年 P267 5.）

5. 課題を分析する

.....

課題→原因1→解決策1（利点や問題点）

課題→原因2→解決策2（利点や問題点）

.....

【資料2-25】（2年 P267 6.）

6. 階層を整理する

.....

環境問題（階層1）

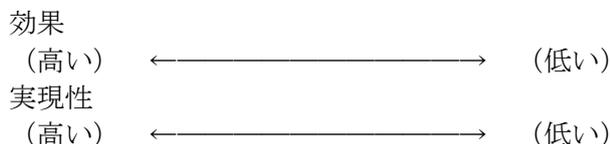
- 環境汚染（階層 2）
- 土壌汚染（階層 3）
- 生活排水、ごみ問題（階層 4）

.....

【資料 2-26】（2年 P267 8.）

8. 軸で整理する

.....



.....

【資料 2-27】（2年 P270）

（例）国語辞典の比較

.....

発行年	語数	特徴
A_社 2021年	75000	新語・流行語も多数収録
B_社 2018年	70000	初版が50年前で歴史がある。
C_社 2009年	30000	小型で安価。小学生向け。

.....

【資料 2-28】（2年 P273）

3. 往復はがき・返信用の手紙

出欠確認が必要な招待状などには、往復はがきや返信用封筒を用いる場合がある。墨字で返信するときには、次の部分を書き改める。

（墨字で書かれた往復はがきで返信する例）

- (1) 宛名に書かれている「ゆき」を二重線で消し、「様」などの敬称を書く。
- (2) 「出席」、「欠席」などと書かれている出欠欄は、選んだほうに「します」など書き加え、不要なほうは二重線で消す。
- (3) 余白に「楽しみにしています」など、書き添えても良い。
- (4) 自分に向けられた敬語は、二重線で消す。

※点字で返信する場合、出欠などの返事などを書き、封書などで返信しても良い。

【資料 2-29】（2年 P273）

電子メールのやり取りには、特有のマナーやルールがある。次に示した例を参考に、メールを活用しよう。

（メールの注意点）

1. 宛先-メールアドレスを間違えないようにする。
2. 件名-必ず付ける。用件がすぐわかるものにする。
3. 本文-墨字で1行35時程度で改行し、用件を簡潔にまとめる。
4. 署名-送信者の氏名やメールアドレスを最後に入れる。

（電子メールの例）

.....

- 1.宛先 tanaka@ne.jp
2. 件名 資料のお礼 (大空中・北村)
3. 本文
大空中立自然博物館
田中大地 様

大変お世話に・・・

-
4. 署名 大空中学校 2年A組 北村新一
ば (kitamura@ne.jp ば)

.....

【資料2-30】 (2年 P296)
(例)

.....

「創造」に関連する言葉
類義語 — 創作
対義語 — 模倣
関連する語 — 意匠 創意工夫 オリジナリティー

.....

【資料2-31】 (2年 P297)
(例)

.....

テニスの試合でサーブを・・・

視野を広げる — しかし、「長い目で見れば」、失敗したこと・・・。
原因を示す — これは、基礎練習を怠ったこと「が原因だ」。来週から・・・

.....

【資料2-32】 (2年 p130)
(論理の展開を吟味する観点)

- ア. 答え(筆者の意見)を裏づける根拠となっているか。— 事実(データ)の信頼性。意見と根拠のつながり。
- イ. 根拠(本論)から無理なく意見(主張)が導かれているか。

【資料2-33】 (2年 p133)
(根拠の吟味の例)

.....

(意見) 私たちのクラスは、今年の文化祭で、ダンスに取り組むべきだ。

- (根拠1) 昨年度の...
- (根拠2) クラスの...
- (根拠3) クラスで...

意見と根拠1をつなぐ考え—文化祭では...
意見と根拠2・3をつなぐ考え—クラスの演目では...

注意点

意見と根拠のつながりを明確にする。

根拠としては、客観的な事実や、信頼性の高い情報・データを、複数示すことが理想。

.....

【資料 2-34】 (p134-137)

(話題や問題をあげて課題を決める例)

.....

地域の話からーゴミ袋への記名について。地域回覧板の廃止について。

新聞やニュースの報道からーコンビニエンスストアの 24 時間営業について。

A さん (「レストランやコンビニエンスストアで深夜営業の見直しが進んでいる」という記事を見て) いつでも利用できて...

.....

(観点ごとに整理する例)

.....

ア. 24 時間営業

イ. 10 時から 21 時まで営業

(観点 1) 環境

ア. 電気や水道の使用量が増える。(短所)

イ. 電気や水道の使用量が減る。(長所)

(観点 2) 便利さ

ア. いつでも利用できて便利(長所)

イ. 夜間や朝の時間に利用したい人には不便。(短所)

(観点 3) 緊急時

ア. すぐには買える。(長所)

イ. 営業時間外だと買えない。(短所)

(観点 4) 労働時間(経営者の立場)

ア. 夜間など、人員の確保が難しい。(短所)

イ. (長所)

(観点 5) 地域の防犯

ア. 身の危険を...(長所)

イ. (短所)

.....

A さん「私は、便利さという観点から考えたい。」

(意見を支える根拠の例)

.....

(意見)

川口町の...

(根拠)

事実ー川口町の状況(病院の新設により夜間就業者が増加。町が発表した...)

→便利な 24 時間営業の...

.....

【資料 2-35】「漢字に親しもう 4」(2年 p138)

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。

(1)

- ア. 「臆」病な犬。
- イ. 記「憶」する。

(2)

- ア. 「階」段の昇り降り。
- イ. 「楷」書で書いた文字。

(3)

- ア. 「抵」抗する。
- イ. 「邸」宅に住む。

(4)

- ア. 「骸」骨。
- イ. 「該」当する。

3. 次の「 」で示した熟語には「口」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

- (1) 専門家に「委嘱」する。
- (2) 「呪縛」を解く。
- (3) 「示唆」に富んでいる。
- (4) 「喉元」過ぎれば熱さを忘れる。

4. 「 」で示した語の意味を考えながら、次の文を読もう。

- (1) 「お歳暮」をおくる。
- (2) 「衣装」をととのえる。
- (3) 優勝するのは「至難の業」だ。
- (4) 秘密を「暴露」する。

【資料2-36】 (p140-143)

(テーマ例) -賛否や是非の分かれるものを選ぶとよい。

.....

- ア. 救急車の利用を有料にすべきである。 -是か非か。
- イ. AI (人工知能は) … -是か非か。
- ウ. すべての中学生は… -是か非か。
- ウ. を選ぶ。

.....

(情報を集めて整理する例)

.....

- 1. 情報を集める - (例) 自分の体験、統計資料、報道記事。
- 2. 根拠に適した情報を選ぶ - 客観性の高さ、情報の確かさ。
- 3. 論点になりそうなことを整理する - (例) 自主性か全員参加か。

.....

(考えをまとめる例)

.....

(自分の立場・意見)

立場 - 賛成

意見 - すべての中学生は、…

根拠 - 社会や地域の問題を… (複数の事実や体験)

(体験) 清掃ボランティア → 地域のごみ問題

(事実) 参加者の新聞投稿 → 自然や資源の大切さ

(想定される異なる立場の人の考え A とそれに対する答え B)

- A メディアを通して...
- B 体験しなければ...

- A ボランティアは本来...
- B 今後、自主的に...

根拠—活動を...

事実 1

「ボランティアに関する意識調査」2018 年度陽光市

興味がある 約 74%

参加したことがある 約 31%

(43%の差がある)

事実 2

「市民の社会貢献に関する事態調査」2016 年度内閣府

参加の妨げとなる要因 (複数回答可)

1 位 参加する時間がない 53.8%

2 位 ボランティア活動に関する十分な情報がない 39.8%

.....

(p 143)

(討論のメモの例)

.....

(賛成) 社会や...

(反対) 本や...

(賛成) 単に知っている...

(共通—自主性が大切)

(賛成) 今後、...

(反対) 義務化しては、...

.....

.....

【資料 2-37】 (p 148)

(「平家物語」の主な戦い)

1. 石橋山の戦い(1180 年 8 月)
2. 富士川の戦い(1180 年 10 月)
3. 倶利伽羅峠の戦い(1183 年 5 月)
4. 宇治川の戦い(1184 年 1 月)
5. 一の谷の戦い(1184 年 2 月)
6. 屋島の戦い(1185 年 2 月)
7. 壇の浦の戦い(1185 年 3 月)

【資料 2-38】「漢字に親しもう 5」 (p 186)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。
2. 次の□に合う語を後の語群から選び、意味を調べよう。
3. 次の「 」で示した熟語には「水」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。
 - (1) 「湿潤」な気候の地域。
 - (2) だ液を「分泌」する。
 - (3) 「汎用性」が高い。

- (4) 「肥沃」な土地。
4. 次の「 」で示した部分には同じ漢字が用いられている。
- (1) 「乳」飲み子をあやす。□□牛「乳」を飲む。
 - (2) 住所に大「字」が付く。□□文「字」で書き表す。
 - (3) 「故」あって、退出する。□□機械が「故」障する。
 - (4) 祖父の「面」影がある。□□三角形の「面」積。

【資料2-39】「漢字に親しもう6」(p214)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。
2. 次の□□に合う熟語を後の語群から選び、四字熟語を作ろう。
3. 次の文の「 」で示した熟語の意味はア、イ、のどちらだろう。
 - (1) この映画は「フキユウ」の名作だ。
 - ア. いつまでも残ること。
 - イ. 広くゆきわたること。
 - (2) 毎日の運動を「ショウレイ」する。
 - ア. 行うようにすすめること。
 - イ. 病気の症状の実例。
4. 次の「 」で示した部分には同じ漢字が用いられている。
 - (1) 河「川」を調査する。□□「川」遊び。
 - (2) 「機」織りの実演を見る。□□「機」械を操作する。
 - (3) 旅「客」機に乗る。□□「客」間にお通しする。
 - (4) 小「児」科にかかる。□□「児」童会長を務める。

【資料2-40】(p223)

練習問題

次の「 」の部分は同じ漢字である。漢字の意味を考えよう。

1. 二体の人形を巧みに「あやつ」る。(「操」縦)
2. 悪人を「こ」らしめる。(「懲」罰)
3. ご提案を「つつし」んでお受けします。(「謹」賀新年)
4. 「ねば」り「づよ」く取り組む。(「粘」液□□最「強」)
5. 足腰を「きた」え「なお」す。(「鍛」錬□□「直」角)
6. 朝の練習を「なま」ける。(「怠」惰)
7. 責任者への報告を「おこた」る。(「怠」慢)
8. 安眠を「さまた」げられる。(「妨」害)
9. 疲労のあまり判断力が「にぶ」くなる。(「鈍」感)
10. 童歌を歌う「ほが」らかな声が響く。(明「朗」)
11. 子供が「すこ」やかに育つ。(「健」康診断)
12. 後に「うれ」いを残す。(「憂」鬱)
13. 栄養の「かたよ」りに注意する。(「偏」見)

【資料2-41】(p226)

(推敲の例)

.....

(下書きの文)

夏休みに散策コースに行きました。
決め手は「和」という言葉です。

::::以下のインタビューの「き」は聞き手、「マ」はマシュー先生::::

- き ● プレゼンテーションで提案された散策コースにはいきましたか。
- マ ● 夏休みに行きました。
- き ● 決め手はなんでしたか。
- マ ● 「和」という言葉です。とても心に響きました。
- き ● 「和」という言葉の、どのようなところが心に響いたのですか。
- マ ● 題を聞いて、和食の「和」を、そんなふうにかけた、皆さんの表現力に、感心しました。日本の食文化を支えているのは「和」の心。文化を理解するには、それを生み出し、受け継いでいく人々と触れ合うことが大切だと教えてもらった気がします。 (田村)

Aさん 読み手のことを考えて、「そんなふう」の内容を具体的に書こう。

(変更箇所)

1. 見出しを次のように変える。
夏休みに散策コースへ
決め手は「和」
2. 「題を聞いて」を削除する。
3. 「そんなふうにかけた」→和食の「和」を、人どうしの関係を示す人の「和」にかけた
4. マシュー先生の写真を入れる。

.....
..:

【資料2-42】 (p227)

(壁新聞の例)

.....:

上坂中学校 国語新聞

3月1日

2年A組 3班

印象的に伝える言葉を学ぶ
—国語を学ぶのは何のため?—

印象的な言葉で読者の心をつかむ__
「君は『最後の晩餐』を...
...と思わせることが大切です。(白石)

(布施英利さんの言葉) 「かっこいい。」
(写真—読者を魅了した布施英利さん)

感じたことを効果的に伝える__
感じたことを...(北村)

- (例) 『冒険者たち』をすすめるとき
1. 言葉を選ぶ—「心温まる内容」
 2. 具体的に書く—「ガンバと...」
 3. 表現技法を使う—「ジェットコースターのように...」

マシュー先生インタビュー

夏休みに散策コースへ
決め手は「和」

聞き手 プレゼンテーションで...

マシュ 夏休みにいきました。

聞き手 決め手はなんでしたか。

マシュ 「和」という言葉です。とても心に響きました。

聞き手 「和」という言葉の、どのようなところが心に響いたのですか。

マシュ 和食の「和」を、人どうしの関係を示す人の「和」にかけた、皆さんの表現力に、感心しました。日本の食文化を支えているのは... (田村)

(写真-マシュー先生)

形式にもこだわって__
気持ちを... (石田)

.....

【資料3-1】 (3年P26)

.....

1. 自分の考え
すすめる→ペットから癒し、安らぎ

2. 発言者の意見
(北野さん)

すすめる
家庭、学校での飼育体験→責任感
→説得力 三角
根拠は

自分の体験・・・
(橋田さん)

すすめない
ペット飼育が抱える問題
→説得力 丸

世論調査の結果・・・

3. 討論会を終えて
意見「すすめる」→「すすめない」
ペットを飼うには「責任」が必要。誰にでもすすめられるものではない。

.....

.....

【資料3-2】 (3年P34)

1. 文章の種類を決める

.....

1. 記事の内容
(例)

天龍寺での座禅体験。初めての体験で緊張したが、自分を見つめ直すきっかけになった。

2. 目的・種類

- (1) 感じたこと・考えたことを伝えたい。→随筆
- (2) 気持ちや場面を生き生きと表現したい。→物語
- (3) 事実を臨場感をもって伝えたい。→報道文

3. 随筆で表現した例

打たれたら痛いのかな・・・。

修学旅行の二日目、私は朝からそんなことばかり考えていた。その日は、天龍寺というお寺で座禅体験をすることになっていた。・・・

.....

【資料3-3】 (3年 P36)

(修学旅行記の紙面例)

.....

3年2組2班

修学旅行記 京都・奈良

2021年5月24日(月)29日(木)

新しい自分に出会う

山下洋子

打たれたら...

修学旅行の...になっていた。

初めての...

不安を隠し...

会場へ...気が付いた体験だった。

張り詰めた...

澄み渡りゆく...

(知っていますか? 禅の言葉)

一期一会 一生に...

知足 一何もかも...

Q 天龍寺とは?

A 京都の...

Q 座禅とは?

A 心静かに...

(「〇〇〇〇」〇〇社・〇〇年)

.....

【資料3-4】 (3年 P39)

複数の読み方をする熟語

(1) ネンゲツ としつき

(2) ミョウニチ あす

(3) うわて (彼のほうが一枚「上手」だ)

かみて (舞台の「上手」に立つ)

じょうず (姉は「上手」な字を書く)

「ネンゲツ としつき」や「ミョウニチ あす」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「うわて かみて じょうず」は、同じ漢字を用いても読み方によって意味が異なる。

【資料3-5】 (3年 P39)

練習問題

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。なお、重箱読みは(4)(10)(12)、湯桶読みは(3)(6)である。

(1) 「峡谷」を探検する。

(2) 「干潟」にすむ生物。

(3) 「喪中」のはがき。

(4) 藍色の「反物」を贈る。

- (5)川の「浅瀬」を渡る。
 - (6)「錦絵」の展覧会。
 - (7)まっすぐで「純粹」な瞳。
 - (8)国王に「謁見」する。
 - (9)「繭玉」を飾り付ける。
 - (10)「錠前」を取り付ける。
 - (11)患者を「治療」する。
 - (12)「基石」を片づける。
2. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読む。
- (1)ア. 甲「乙」 イ. 「乙女」 (おつ、おんな)
 - (2)ア. 「崩」壊 イ. 「雪崩」 (ゆき、くず__れる)
 - (3)ア. 「冶」金 イ. 「鍛冶」 (きた__える、や)
 - (4)ア. 「硫」酸 イ. 「硫黄」 (りゅう、こう)

【資料3－6】 (3年 P40)

漢字に親しもう1

(新しく習う漢字)

1. 次の「」で示した熟語を読もう。
- (1)「報酬」を受け取る。
 - (2)請求が「却下」される。
 - (3)どの「派閥」にも入らない。
 - (4)「賠償金」を支払う。
 - (5)「管轄」外の仕事を請け負う。
 - (6)野菜の価格が「高騰」する。
2. 次の空欄にあう熟語を語群から選び、四字熟語を作ろう。また、できた四字熟語を読もう。
- (1) 順風
 - (2) 情状
 - (3) 深山
 - (4) 換骨
- (語群) 幽谷 奪胎 満帆 酌量
3. 次の「」で示した部分は、水が部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。
- (1) 追って「沙汰」する。(「さ」と「た」)
 - (2) ヒーターが「漏」電する。
 - (3) 側「溝」から水があふれる。
 - (4) 大雨によって「洪水」が起こる。(「こう」と「すい」)

(新しく習う音訓)

4. 次の「」で示した部分は同じ漢字を用いる。語の意味を考えながら読もう。
- (1) 包丁を「研」ぐ。 「研」磨
 - (2) 機嫌を「損」ねる。 「損」失
 - (3) 「己」の姿を省みる。 自「己」紹介
 - (4) 「公」の施設を利用する。 「公」共
 - (5) 夜が明け「初」める。 最「初」

【資料3－7】 (3年 P60)

漢字に親しもう2

(新しく習う漢字)

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。
- (1) 都内「某所」で撮影が行われる。
 - (2) 洗剤がよく「泡立つ」。

- (2) 「既知」の概念。
- (3) 人口が「漸増」する。
- (4) 施設が「閉鎖」された。
- (5) 地面が「隆起」する。
- (6) 「叙情」的な文章。
- (7) 犯人を「逮捕」する。
- (8) 社長のご「令嬢」。

- ア. 叙事
- イ. 釈放
- ウ. 開放
- エ. 漸減
- オ. 令息
- カ. 陥没
- キ. 動脈
- ク. 未知

5. 6. は、原典同様。

【資料3-10】（3年P122）

漢字に親しもう3

（新しく習う漢字）

1. 次の「 」で示した言葉を読もう。

- (1) 「閉塞感」を打開する。
- (2) 激しい「葛藤」が生じる。
- (3) その発言は「辛辣」だ。
- (4) 雨が続き、「憂鬱」だ。
- (5) 丁寧な仕事ぶりを「褒める」。
- (6) 「恣意的」な判断を避ける。

2. 次の「 」で示した部分は、同音異義語である。それぞれの熟語の意味を考えよう。

- (1)
 - ア. 「周知」の事実。
 - イ. 「羞恥」を感じる。
- (2)
 - ア. 「意匠」を凝らす。
 - イ. 「衣装」を着る。
- (3)
 - ア. 資料を「添付」する。
 - イ. 「天賦」の才。
- (4)
 - ア. 家族を「扶養」する。
 - イ. 「不要」なものを片付ける。

- (5)
 - ア. 「寡黙」な人。
 - イ. 必修「科目」を履修する。
3. 次の「 」で示した熟語を読もう。

- (1) 「適宜」休みをとる。
- (2) 「学生寮」に入る。
- (3) 劇団を「主宰」する。
- (4) 「静寂」に包まれる。

（新しく習う音訓）

4. 次の「 」で示した部分は都道府県名に使われている漢字である。読み方の違いに注意して読も

う。

- (1) 「滋」養 「滋」賀県
- (2) 彼女は才「媛」の誉れが高い。 愛「媛」県
- (3) 天「井」 福「井」県
- (4) 「縄」文土器 沖「縄」県

【資料3-11】 (3年 P210 中 16-18)

「文節どうしの関係」

(例) 山の上に涼しい風が吹く。

山の(連体修飾語) → 上に

涼しい(連体修飾語) → 風が

風が(主語) → 吹く(述語)

※ 連文節の場合

山の上に(連用修飾部) → 吹く(述語)

涼しい風が(主部) → 吹く(述語)

【資料3-12】 (3年 P211 中 4-9 下 1-9)

1. 自立語と付属語

自立語 単独で文節を作ることができる。

付属語 単独では文節を作ることができない。

2. 活用の有無

活用 文の中で使われるとき、単語の形が規則的に変化する事。

用言 活用し、単独で述語になることができる自立語(動詞・形容詞・形容動詞)

体言 活用しない自立語のうち、「が・わ・も」などを付けて主語となる単語(名詞)

(例) 山の上に涼しい風が吹く。

(自立語と付属語)

自立語—山 上 涼しい 風 吹く

付属語—の に が

(活用の有無)

活用がある—涼しい 吹く

活用がない—山 の 上 に 風 が

【資料3-13】 (3年 P214 下)

練習

次の1. 2. の俳句について、「 」で示した助詞をそれぞれあとのア. イ. に置き換えて比較し、意味や表現効果について考えよう。

1. 米洗うまえ「に」 螢の二つ三つ

作者未詳

ア. まえ「を」

イ. まえ「え」

2. 6月「を」 綺麗な風の吹くことよ

正岡子規

ア. 6月「に」

イ. 6月「わ」

【資料3-14】 (3年 P229 下 7-8)

(表) 昔の時刻の表し方

.....
(午前)

夜 11～1時 子 九つ
1～3時 丑 八つ
3～5時 寅 七つ
5～7時 卯 六つ
7～9時 辰 五つ
9～11時 巳 四つ

(午後)

昼 11～1時 午 九つ
1～3時 未 八つ
3～5時 申 七つ
5～7時 酉 六つ
7～9時 戌 五つ
9～11時 亥 四つ
.....

スピーチ原稿

-
(ア) □□二つ目は、午前、午後という言葉です。昔は、干支の子・丑・寅・卯…を使って時刻を表しました。…表しているのです。
(イ) □□三つ目は、おやつという言葉です。午後三時頃のことを、昔は「八つ」とよんだ。この頃になると、…。…よぶようになった。
(ウ) □□昔の時間を調べて感じたことは、…
.....

【資料3-15】 (3年 P235 中)

(例) 表「学校図書館の月別貸出さつすう」

.....

学年	4月	5月	6月	7月
1年	100冊	180冊	100冊	250冊
2年	80冊	90冊	40冊	125冊
3年	60冊	70冊	65冊	70冊

.....

【資料3-16】 (3年 P235 下)

(論理の展開例)

.....
筆者の主張

←一般化・まとめ (意味・性質など)

←事例1、事例2を「抽象化」

←一般化・まとめ (意味・性質など) を「具体化」

→事例3
.....

【資料3-17】 (3年 P236 中)
(意見の説得力を高める例)

.....

(意見) 私たちのクラスは、今年の文化祭で、ダンスに取り組むべきだ。

(根拠1) 昨年度の…
(根拠2) クラスの…

意見と根拠1をつなぐ考えー文化祭では…
意見と根拠2をつなぐ考えークラスの演目では…

注意点

根拠としては、客観的な事実や、信頼性の高い情報・データを複数示すことが理想

.....

【資料3-18】 (3年 P236 下)
(原因と結果を時間の経過で示した例)

.....

(原因1)

町民向けの割引券を公園の入り口で配布した。
公園の前に自転車を止める人が多かった。

(結果1)

公園の前が混雑した。

(原因2)

公園の前が混雑した。

(結果2)

子どもたちが迷子になった。
公園の草花が踏まれて傷ついた。

.....

【資料3-19】 (3年 P239 上)
(記事Aと記事Bの比較例)

.....

(見出し)

記事A 東京2020へ…

記事B 五輪ボランティア…

(リード文)

記事A 東京五輪パラリンピック…募集が始まる。募集人数は…

記事B 東京五輪パラリンピック…募集が始まる。世界最大の…

(…)

記事A …

記事B …

.....

【資料3-20】 (3年 P239 上)
(手紙とメールの共通点と相違点)

.....
(共通点)

文字、思いや用件を伝える

(相違点)

メールー活字、すぐ届く

手紙ー手書き、届くのにかかかかる
.....

【資料3-21】 (3年 P239 中)

(階層ごとに整理した例)

.....
環境問題 (階層1)

→環境汚染 (階層2)

→土壌汚染 (階層3)

→生活排水、ごみ問題 (階層4)
.....

【資料3-22】 (3年 P242 上)

.....
1 アイディアをできるだけ広げたいとき

1. ブレーンストーミング (グループ)

2. ワールド・カフェ (全体)

2 一定の結論を出したいとき

1. グループ・ディスカッション (グループ)

2. 会議 (全体)

3 多角的に捉え、考えを深めたいとき

1. ディベート (立場が二つ)

2. パネルディスカッション (立場が三つ以上)
.....

【資料3-23】 (3年 P285 上)

(使用例)

.....
試合の行方を「固唾をのんで」見守った。

逆転するには「千載一遇」チャンスだ。

「背水の陣」でPK戦に臨んだ。
.....

【資料3-24】 (3年 P286~P287 上)

次の同音異義語は、それぞれ意味を補足した。

戴「冠」式

法「曹」界

嗣子 (あととり)

「毀」損 (こわす)

禁「錮」刑

少「尉」 (将校の位)

元「帥」 (総大将)

「咽」喉 (のど)

汗「腺」(汗を分泌する腺)
「虜」囚(とりこ)
「矯」正(欠点を直す)
「硝」酸銀
「蛮」勇(向こう見ずの勇ましさ)
「逋」信(郵便や電信を送り伝える)
一「隻」(船を数える単位)
老「翁」(年老いた男)
鼻「孔」(鼻の穴)
食「糧」(食物)
甲乙「丙」(第3の順位)
「憧」憬(あこがれ)
右「舷」(右の船べり)
覚「醒」(目を覚ます)
失「踪」(行方をくらます)
「妖」怪(化け物)
「艦艇」(大小各種の軍用船舶の総称)
「儒」教(孔子に始まる中国古来の政治・道徳の教え)
「殉」職(職務のために死ぬこと)
「逝」去(他人の死の尊敬語)

【資料3-25】(3年 p128)
(観点の例)

-
1. 人工知能に対する立場(賛否)
羽生さんー ...
松原さんー ...
 2. 取り上げている事例
羽生さんー ...
松原さんー ...
 3. ...
-

【資料3-26】(3年 p130)
(題材の例-ポスター広告)

.....

(キャッチコピー)

発見!!わたしのとなりには先生がいっぱい!!
あなたも、きっと誰かの「となりの先生」です。
漢字を教える「国語の先生」や、おつりの数え方を教える「算数の先生」。
地域のつながりの中で、あなたは何の先生でしょう。
考えてみませんか。

(写真の説明)

商店街の一角に、6人の人物と1匹の猫が並んでいる。
魚屋さん 「さんすう」
八百屋さん 「こくご」
猫 「せいぶつ」
わたし
おばあさん 「れきし」
外国人の青年 「えいご」

トランペットをもった少年 「おんがく」

.....

【資料3-27】 (3年 131p)

(観点ごとに、問いと考えを書き出した例)

.....

(キャッチコピー)

先生とはどんな人のことだろう。→学校の先生。習い事の先生…

「発見!!」とは何を発見したのか。→「学ぶ」行為は学校だけでなく、身近な場所でも成立するという
こと。

(構図)

商店街の一角にどんな意味があるのか。→日常の一場面を舞台とすることで、学びの身近さを表現している
のでは。

(制作者の意図)

何をいちばん伝えなかったのか。→「学び」の形の豊かさ。「学び」は…

…

.....

【資料3-28】 (3年 p132)

(構成を考える)

.....

1. 考え・主張
(例) 広告のメッセージ
2. 一般論・現状
(例) 「学び」のイメージ
3. 分析 — 制作者の意図、キャッチコピー
(例) 「学び」の広がり 「学び」の場所・登場人物の意味 「学ぶ」と「教える」の関係
4. 引用
(例) 内田樹氏の言葉 (考えを補強)
5. まとめ
(例) 全体の印象・評価

.....

【資料3-29】 「漢字に親しもう4」 (3年 p134)

1. 次の「 」で示した熟語を読もう。
2. 次の熟語と同じ構成の熟語を、()内の説明を参考にして、後のア. ～エ. からそれぞれ選ぼう。
 - (1) 旋回 (めぐると回る)
 - (2) 山麓 (山のふもと)
 - (3) 吉凶 (縁起の良いことと悪いこと)
 - (4) 募金 (寄付金を募る)
 - ア. 緩急 (緩やかなことときびしいこと)
 - イ. 造幣 (貨幣を製造する)
 - ウ. 苦杯 (苦い液をいれたさかずき)
 - エ. 詠唱 (うたうと唱える)
3. 次の「 」で示した熟語には「心」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。
 - (1) 「郷愁」を誘う夕焼け空。
 - (2) 「哀悼」の意を表す。
 - (3) 「怠惰」な生活を送る。
 - (4) 我々を「戦慄」させた事件。

4. 次の「 」で示した部分は同じ漢字であり、ア. は音読み、イ. は訓読みである。確かめよう。

(1)

- ア. 「守」備位置につく。
- イ. 子「守」り歌を歌う。

(2)

- ア. 「声」援をおくる。
- イ. 「声」色が変わる。

(3)

- ア. 寝「室」で休む。
- イ. この山には岩「室」がある。

(4)

- ア. 耳「鼻」科に通う。
- イ. 「鼻」歌を歌う。

(5)

- ア. 「迷」路のような街。
- イ. 道に「迷」う。

【資料3-30】 (3年 p137)

(ブレインストーミング)

実現性などは気にせず…、次の点に注意する。

.....

- ア. 意見を否定しない。ー 内容の吟味は…を出す。
(意見) 放課後、老人ホームに行くのはどうでしょうか。
(不適切な例) かねて、迷惑がかかるかもしれません。
- イ. 根拠を求めないー 発言は思いつきでもかまわない。
(意見) 毎朝、挨拶運動…
(不適切な例) その根拠は…

.....

【資料3-31】 (3年 p139)

.....

(効果大・実現性大)

行事に招待する：

A 合唱コンクールに招待する。

D 発表会を開く。

(効果大・実現性低)

こちらから伺う：

B 老人クラブの集まりに参加する。

E 昼食会を開く。

(効果小・実現性大)

C 老人クラブの方々に手紙などを送る。

→ 文通する(一方的でなく、相互交流に。)

... 相互交流にはなったが、直接会えるものに比べると、まだ効果が小さい。

.....

【資料3-32】 (3年 p173)

(人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか)

.....

9歳以下 16.6%

10 歳代	44.8%
20 歳代	10.7%
30 歳代	1.9%
40 歳代	0.9%
50 歳代	1.1%
60 歳代	0.5%
年齢に関係なくいつでも	20.2%
特にそういう時期はない	2.5%
わからない	0.8%

「平成 25 年度 国語に関する世論調査の結果の概要」(文化庁)から

.....

【資料 3-33】(3年 p173)

.....

(小論文の例)

最も読書すべき時期を 10 歳代と答えた人がいちばん多く、
 …示している。

私たち十代は、
 …自らを豊かにしたいと考える。

—————
 (構成案)

第 1 段落 — グラフ(表)から読み取ったこと
 →10 代と答えた人が最も多い。(世論調査の結果)
 →若い時期に読書すべき…

第 2 段落 — 自分の考え
 →10 代は多くのことを吸収できる…
 →読書の効用・推進。

.....

【資料 3-34】(3年 p174~175)

1. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。

(1) きへん

- ア. 小説の「梗概」。(「こう」と「がい」)
- イ. 「橋桁」を架ける。(「はし」と「げた」)
- ウ. 「栈橋」を渡る。(「さん」と「ぼし」)

(2) かいへん

- ア. 「貪」欲に知識を吸収する。
- イ. 収「賄」罪で捕まる。
- ウ. 本を「購」入する。

(3) こころ

- ア. 「悦」楽に浸る。
- イ. 「怨念」を抱く。(「おん」と「ねん」)
- ウ. 選手を「慰」労する。

(4) ごんべん

- ア. 「詐」欺をはたらく。
- イ. 「訃」報が入る。
- ウ. 根掘り葉掘り「詮」索する。

(5) うしへん

- ア. 戦争の「犠牲」者。(「ぎ」と「せい」)
- イ. 教会の「牧」師。

- ウ. 特「許」を取得する。
2. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。ア. は訓読み、イ. は音読みである。
- (1)
ア. 空が「紅」に染まる。
イ. 「紅」茶を飲む。
- (2)
ア. 血「眼」になって探す。
イ. 「眼」科に通う。
- (3)
ア. 「氏」神様の祭り。
イ. 「氏」名を記入する。
3. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。
- (1)
弾「効」裁判所
「該」当する項目。
遺跡から「骸」骨が見つかる。
- (2)
体の抵「抗」力を高める。
炭「鉞」で働く。
太平洋を「航」海する。
4. 次の(1)～(5)の熟語について、()内を参考にして同じ構成の熟語をア. ～コ. から選ぼう。
- (1) 豊富 (豊かと富む)
(2) 表裏 (表と裏)
(3) 頭痛 (頭が痛い)
(4) 譲位 (位を譲る)
(5) 海賊 (海のどろぼう)
ア. 有無 (有りと無し)
イ. 象牙 (象の歯)
ウ. 包含 (包むと含む)
エ. 損得 (損失と利益)
オ. 氷解 (氷が解ける)
カ. 船出 (船が港を出る)
キ. 融点 (融ける温度)
ク. 施策 (施すべき対策)
ケ. 嫉妬 (妬みと嫉み)
コ. 解雇 (雇用を解く)
5. 次の三字熟語や四字熟語の意味を調べよう。
- (1) 式次第
(2) 茶飯事
(3) 一朝一夕
(4) 傍若無人
(5) 言語道断
(6) 当意即妙
6. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。
- (1)
川に橋を「架ける」。
壁に絵を「掛ける」。
- (2)
「得る」ところが多い講義。
不用品を「売る」。
- (3)
「生い」立ちを記す。

「古い」も若きも踊りだす。

「追い」打ちをかける。

(4)

事態を「收拾」する。

ゴミ「収集」車

(5)

商品が「驚異」的に売れる。

核の「脅威」にさらされる。

7. 次の「 」の言葉の意味を調べよう。

(1) 自然を「畏れる」。

(2) 準備に時間を「費やす」。

(3) 友人に「謝る」。

(4) ありがたい言葉を「賜る」。

(5) 川を「遡る」。

8. 次の「 」には、重箱読み・湯桶読みの熟語が含まれる。当てはまるものをそれぞれ答えよう。

(1) 「長唄」を聴く。(「なが」と「うた」)

(2) 「窮状」を強く訴える。(「きゅう」と「じょう」)

(3) 「豚肉」をいためる。(「ぶた」と「にく」)

(4) 不正を「糾弾」する。(「きゅう」と「だん」)

(5) 「玩具」を与える。(「がん」と「ぐ」)

(6) 「額縁」を選ぶ。(「がく」と「ぶち」)

(7) 「中州」に渡る。(「なか」と「す」)

(8) 適切な「措置」を取る。(「そ」と「ち」)

(9) 麦が「黄金」色になる。(「おう」と「ごん」)

(10) 「神主」の話聞く。(「かん」と「ぬし」)

9. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読む。

(1) ア. 木「刀」 イ. 「竹刀」

(2) ア. 店「舗」 イ. 「老舗」

(3) ア. 「おうとつ」 イ. 「でこぼこ」

(4) ア. 黄「砂」 イ. 「砂利」

(5) ア. 「残」念 イ. 「名残」

(6) ア. 「最」短 イ. 「最寄り」

10. 四字の熟語になるように、に入る語句を後の語群から選ぼう。また、できた熟語の意味を調べよう。

- (1) 感慨
- (2) 万有
- (3) 廃藩
- (4) 外科
- (5) 武者
- (6) 近畿

(語群)

修行 引力 無量 置県 手術 地方

【資料3-35】漢字に親しもう5 (3年 p176)

1. 次の「 」で示した部分は異なる漢字である。

(1)

ア. 「暫」定的な計画。

イ. 「斬」新なデザイン。

ウ. 景気が「漸」次上昇する。

(2)

ア. 敵国に「征」服される。

イ. 印鑑「証」明

ウ. 時間に「正」確な人。

(3)

ア. 鍛「鍊」を積む。

イ. 深く「陳」謝致します。

ウ. 本番に向けて「練」習する。

2. 次の「 」で示した熟語の音訓の組み合わせを、後のア. ～エ. からそれぞれ選ぼう。

(1) お寺で「座禅」する。(「ざ」と「ぜん」)

(2) 夏の夕方に「蚊柱」が立つ。(「か」と「ばしら」)

(3) 「朱色」の鳥居。(「しゅ」と「いろ」)

(4) 市民の「胃袋」をみたす。(「い」と「ぶくろ」)

(5) 「渋柿」をほす。(「しぶ」と「かき」)

(6) 「瓦版」を読む。(「かわら」と「ばん」)

(7) 「石碑」に刻む。(「せき」と「ひ」)

(8) 何かと「難癖」をつける。(「なん」と「くせ」)

(9) マイホームの「建坪」を考える。(「たて」と「つぼ」)

(10) 洋楽より「邦楽」を好む。(「ほう」と「がく」)

ア. 音と音 (例) 同僚(「どう」と「りょう」)

イ. 訓と訓 (例) 岩肌(「いわ」と「はだ」)

ウ. 音と訓 (例) 歩幅(「ほ」と「はば」)

エ. 訓と音 (例) 奥地(「おく」と「ち」)

3. 次の「 」で示した熟語には「土」が部首の漢字が含まれる。それぞれの熟語を読もう。

(1) 粘土で「塑像」を作る。

(2) 信用が「失墜」する。

(3) 「墜落」現場を訪れる。

(4) 年齢の「垣根」を越える。

4. 次の「 」で示した熟語と構成が同じものを、後のア. ～エ. からそれぞれ選ぼう。

(1) 忘恩(恩を忘れる)

(2) 花園(花の園)

(3) 今昔(今と昔)

(4) 引率(引きつれること)

ア. 貸与(貸し与えること)

イ. 退路(みちを退く)

ウ. 深淺(深いと浅い)

エ. 雄姿(雄々しい姿)

【資料3-36】漢字に親しもう6 (3年 p208)

1. 次の「 」で示した部分は、同じ訓読み異なる漢字である。

(1) 多数決を「採」る。

(2) 指揮を「執」る。

(3) ボールを「捕」る。

(4) 写真を「撮」る。

2. 次の「 」で示した部分は、同じ音読み異なる漢字である。

(1) 事故の「防」止に努める。

(2) 議事の進行が「妨」害される。

3. 次の「 」で示した熟語は、同じ読み方の異なる漢字である。

(1) 問題の「核」心に迫る。

(2) 技術「革」新が進む。

(3) 勝利を「確」信する。

4. 次の「 」で示した漢字は同じ部分をもつ。

(1) 作物を収「穫」する。

- (2) 賞品を「獲」得する。
5. 次の「 」で示した言葉の意味を調べよう。
- (1) 危機に「陥る」。
- (2) 手を「携える」。
- (3) 教室が「汚い」。
6. 次の(1)(2)では類義語を、(2)(3)では対義語を選ぼう。
- (1) 繁栄－さかえること。
ア. 流星－ながればし。
イ. 隆盛－勢いの盛んなこと。
- (2) 看病－病人を看護すること。
ア. 介抱－付き添って世話をすること。
イ. 解放－解き放つこと。
ウ. 会報－会の活動内容などを会員に知らせるための印刷物。
- (3) 濃厚－味や香りなどが濃いさま。
ア. 希薄－液体の濃度や気体の密度がうすいこと。
イ. 気迫－ひるまずに立ち向かう強い精神力。
- (4) 悲哀－悲しくあわれなこと。
ア. 喚起－呼び起こすこと。
イ. 歓喜－非常に喜ぶこと。
ウ. 換気－部屋などの空気を入れかえること。